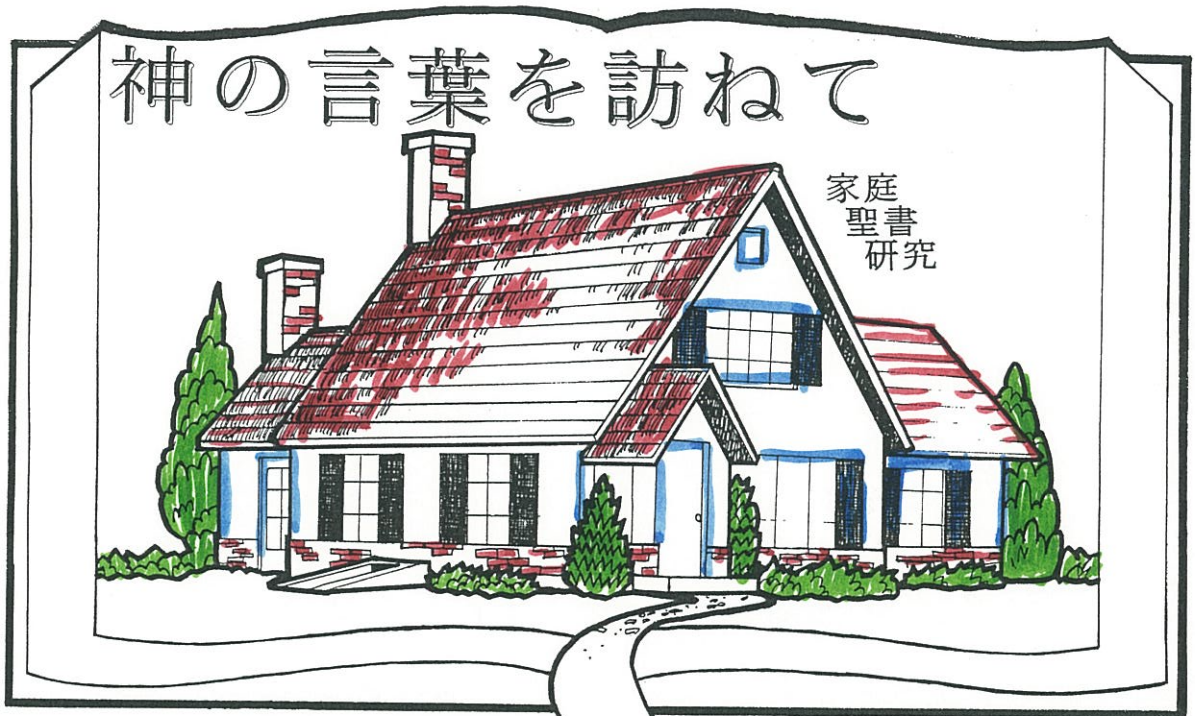


# 教師用テキスト



「それから、彼とその家族一同とに、  
神の言を語って聞かせた。」  
使徒行伝16:32

「～心から教を受けいれ、果たして  
そのとおりかどうかを知ろうとして、  
日々聖書を調べていた。」  
使徒行伝17:11



翻訳： アポストリック・ユナイト・ペンテコステ教会翻訳部





## I. 旧約聖書へのいざない（時代の区切り）

1. 無罪の時代 — 創造よりエデンの園まで
2. 良心／意識の時代 — 人間の墮落よりアブラハムまで
3. 族長の時代 — アブラハムよりモーセまで
4. 律法・預言者の時代 — モーセよりキリストまで

## II. 旧約聖書

1. 聖書は神の靈感によるものである。 2ペテロ1:21、1テモテ3:16
2. 聖書は神の言葉として尊ばれるものである。申命4:2、箴言30:6、黙示22:19
3. 神の言葉は保たれるべきである。 詩篇12:6,7、ルカ16:17

## III. 天地創造の週

1. 第1日 創世紀1:2-5
2. 第2日 創世紀1:6-8
3. 第3日 創世紀1:9-13
4. 第4日 創世紀1:14-19
5. 第5日 創世紀1:20-23
6. 第6日 創世紀1:24-31
7. 第7日 創世紀2:1-3

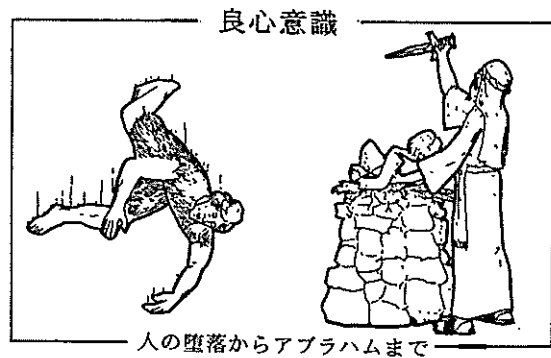
## IV. 選択の力

1. アダムとエバ — 無罪
  - a. 禁断の木 創世紀2:9,16,17
  - b. アダムにエバが与えられた。 創世紀2:18-23
  - c. 人に自由意思が与えられた。 黙示録22:17
2. 人間の墮落
  - a. エバが禁断の木に近づいた。 ローマ13:14、エペソ4:27
  - b. サタンも訪れた。 創世紀3:1
  - c. サタンの誤りの解釈 創世紀2:16-17
  - d. 神の言葉に対するエバの知識不足 創世紀3:1-3
  - e. サタンは神の目的を攻撃する。 創世紀3:4-5
  - f. アダムの不従順 1テモテ2:14、ローマ5:12-19
3. 神が園の中を歩いて来た。
  - a. 神はアダムとイブを捜した。 創世紀3:9-11
  - b. アダムとイブは他のせいにした。 創世紀3:12-13

## V. 最初の裁き

1. 蛇への呪い 創世紀3:14
2. 女への呪い 創世紀3:16
3. 大地への呪い 創世紀3:17
4. 男への呪い 創世紀3:19
5. 救い主についての最初の約束 創世紀3:15,21
6. 園から人が追いやられる。 創世紀3:22-24

# 旧約聖書へのいざない 時代の区切り



## 1. 旧約聖書へのいざない(時代の区切り)

まずこの課では創造から最初の裁きまでを学びます。ここでは旧約の時代へ逆上ります。この時代は神が特別な方法で人と関わった時です。旧約は数千年にわたる出来事を扱っています。時代の区分は重要な出来事をよりよく理解するための便宜上のものにすぎません。

時代を4つに区分します。1) 無罪の時代、2) 良心/意識の時代、3) 族長の時代、4) 律法と預言者の時代です。これらの時代を個々に見ていきましょう。

### 1. 無罪の時代

無罪の時代は人の創造から、園での人の罪まで。この時代の長さは不明です。

### 2. 良心/意識の時代

良心/意識の時代は人の墮落(初めの罪)からアダムに至るまで。

### 3. 族長の時代

族長の時代はアブラハムからモーセまで。

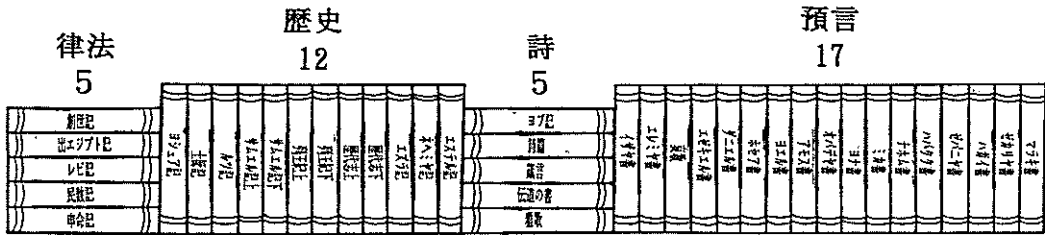
### 4. 律法と預言者の時代

律法と預言者の時代はモーセからキリストまで。

# 旧約聖書

32人の著者  
3600年の人間の歴史  
1500年の記述年数

なぜなら、預言は決して人間の意思から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。 2ペテロ1:21



## II. 旧約聖書

### 1. 聖書は神の靈感によるものである

ペテロ第二の手紙1章21節には「なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によってかたったものだからである」とあります。旧約聖書は明らかに神の靈感によるものです。テモテ第二の手紙3章16節は聖書はすべて神の靈感を受けたものであると言っています。

「inspired」(和訳: 靈感を受けて)と訳されている言葉は新約聖書原本のギリシャ語では「神が息を吹き込む」という意味です。聖書は人間の意志によるものではないことを心に留めて下さい。人が神について書こうと決めたものではありません。聖書は神について人が勝手に書いた書物ではなく、神が人に与えた書物なのです。もう一つのキーワードはペテロ第二の手紙1章21節の「moved」(和訳: 感じて)です。原本のギリシャ語では「運ばれる・流される」ということであり、丁度「帆に風を受け海面を船が進んでいく」といった意味をもちます。

### 2. 聖書は神の言葉として尊ばれるものである

聖書を学ぶ際には、十分に敬意をもって始めるようにすべきです。聖書は神の言葉であり、人の言葉ではないからです。1つ1つの御言葉がどれもとても重要なのです。神はモーセにこう警告しました。「私があなたがたに命じる言葉に付け加えてはならない。また減らしてはならない。わたしが命じるあなたがたの神、主の命令を守ることできるためである」(申命記4:2) 同様の命令が箴言30:6にもあります。「その言葉に付け加えてはならない、彼があなたを責め、あなたを偽り者とされなためだ」 聖書の締めくくりである黙示録にも、神はヨハネにこう書くように促しました。「以下の言葉を取り除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる」(黙示録22:19)

### 3. 神の言葉は保たれるべきである

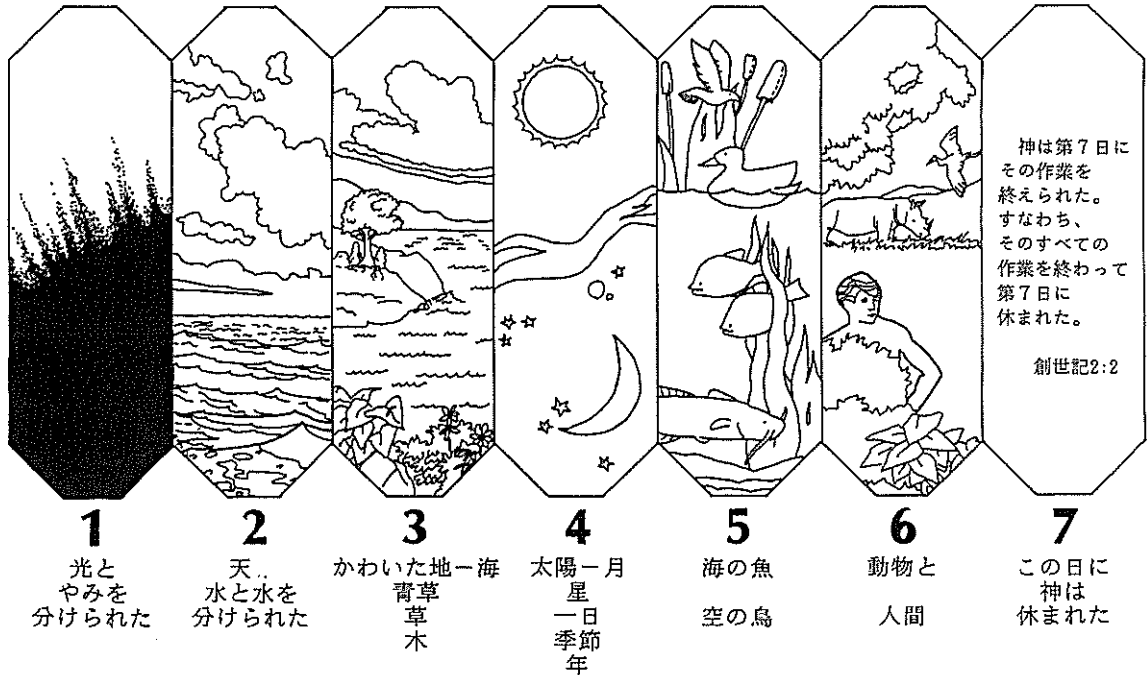
神は人にご自分の言葉を与えただけではなく、全ての人が神の明らかにしたことに近づくことが出来るよう御言葉を永遠に保つことを約束しました。「主のことばは清き言葉である。地に設けた炉で練り、七たびきよめた銀のようである。主よ、われらを保ち、とこしえにこの人々から免れさせてください」(詩篇12:6,7) 神が御言葉を守ることに關して、同様のことをイエスも言っています。「しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方がもっとたやすい」(ルカ16:17) ここでいう一画とは、旧約が書かれた言葉であるヘブライ語ではとても小さい印のことです。

旧約聖書の数を覚える簡単な方法があります。「ふるい」は3文字、「かみのけいやくしょ」は9文字です。3と9を併せて39、これが旧約聖書の数です。

旧約は32人の人が聖霊に動かされてペンを走らせました。3、600年にわたる人の歴史が記録されており、完成までに1、500年を要しています。旧約は4つの部分に分けられます。律法(5冊)、歴史(12冊)、詩(5冊)、預言(17冊)です。通常、預言の初めの5冊を大預言書、残りの12冊を小預言書と呼びます。

メモ : \_\_\_\_\_

# 初めに神は



## 天地創造の週

### Ⅲ. 天地創造の週

聖書の最初の句には「はじめに神は天と地とを創造された」とあります。（創世記1:1）創造に関する記録は神が全てのものを6日間で造ったことを明らかにしています。7日目に神は休みました。一日ずつ見ていきましょう。

#### 1. 第1日

最初の日に神は言いました、「光あれ」（創世記1:3）それから神は光と闇とを分けました。神は光を昼と名付け、闇を夜と名付けました。（創世記1:3-5）

この時点の地はまだ「形なく、むなし」いものでした。（創世記1:2）そして多くの水がありました。

#### 2. 第2日

2日目に神は言いました、「水の間におおぞらがあって、水と水とを分けよ」（創世記1:6）神はおおぞらを天（現在の空）と名付けました。このおおぞらが下の水と上の水を分けました。（創世記1:6-8）

#### 3. 第3日

3日目に神は言いました、「天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ」（創世記1:9）神はかわいた地を陸と名付け、水の集まった所を海と名付けました。同じ日に神はまた言いました、「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」（創世記1:11）すなわち3日目にかわいた地が現れ、水が特定の所に集まり、地の青草、種をもつ草、木の創造がありました。（創世記1:3-13）

#### 4. 第4日

4日目に神は言いました、「天のおおぞらに光があって昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、天のおおぞらにあって地を照らす光となれ」（創世記1:14,15）この4日目に神は太陽、月、星を造りました。これらは闇と光を分け、日付、季節、年のしるしとするためでした。（創世記1:14-19）

#### 5. 第5日

5日目に神は言いました、「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」（創世記1:22）5日目に神は鳥類と魚類を創造しました。（創世記1:20-23）

#### 6. 第6日

6日目は動物と人の創造でした。神は言いました、「地は生き物を種類にしたがっていだせ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類にしたがっていだせ」（創世記1:24）それから神は言いました、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」（創世記1:26）神はご自分にかたどって人を創造し、男と女を造りました。神は彼らに言いました、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。また地のすべての獣、空のすべての鳥、地に這うすべてのもの、すなわち命のあるものには、食物として青草を与える」（創世記1:28-30）人は全ての生き物を治め、地を従わせることを神に命じられた唯一の被造物です。また、人は神のかたちに造られています。（創世記1:24-31）

#### 7. 第7日

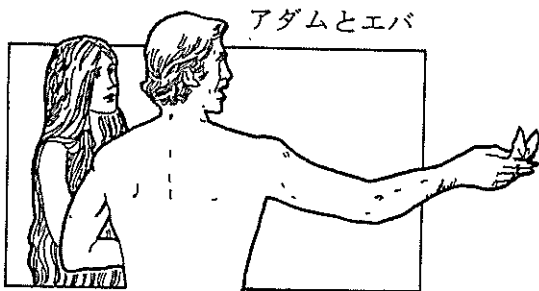
創造の週の最終日に神は休みました。（創世記2:1-3）創造が終了し、神と人との関係が始まりました。

メモ：

---

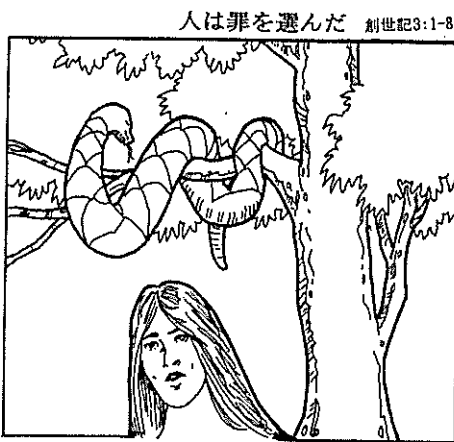


# 選択の力



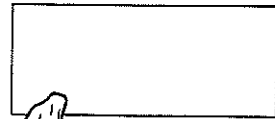
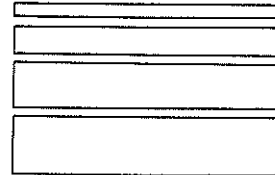
無罪の時代 創世記2:25

「しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」  
創世記2:17



人は罪を選んだ 創世記3:1-8

罪は神との  
靈的つながりを  
絶った



墮落

## IV. 選択の力

### 1. アダムとエバ - 無罪

創世記の2章は男と女の創造にふれ、より詳しく述べています。神が東の方にエデンの園を造り、アダムを置いたことも書かれています。園は素晴らしい所で、見て美しく食べるにより全ての木が生えていました。エデンから流れ出た川が園を潤していました。神はこの樂園にアダムを置き、園を耕させ守らせました。

#### a. 禁断の木

しかし主は同時に、アダムにもう一つの命令も与えました。アダムの意志にまかせたままではなく、一つのことを彼に禁じられました。神は言いました。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」(創世記2:16,17) 園のもう一つの珍しい木は命の木でした。(創世記2:9) 命の木の実は食べてもよかったのですが、善悪を知る木の実は食べることが禁じられました。アダムは無罪の状態にありましたが、この木の実を食べることで彼の意識が目覚めることになりました。

#### b. アダムにエバが与えられた

主はエバより先にアダムを造りました。その後、神は人が一人であるのは良くないと思い、言いました。「彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」(創世記2:18) 「助け手」という言葉は「助け」を意味するヘブライ語から訳されています。主はアダムを深く眠らせ、アダムのあばら骨の一つを取り女を造りました。神は女をアダムのもとへ連れて行きました。その時アダムは言いました。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉 男から取ったものだから、これを女と名づけよう」(創世記2:23) 無罪の状態にあったので、アダムとエバは裸で 恥ずかしいとは思いませんでした。

### c. 人には自由意志が与えられた

なぜ神が禁断の木を園に置いたのか、疑問に思う方もいるでしょう。アダムとエバが罪を犯す機会になるようなものを置かなかったら、もっと良かったのではと。

こうした疑問は神が人を造ったときの目的を見過ごしにしています。神は操り人形やロボットを造ったわけではありません。選択の力と自由意志を持つ存在を造ったのです。神の約束は望む者全てに与えられています。(黙示録22:17) ものごとに選択権のないもの、すなわち強いられてその関係にある存在と、喜び満ちた関係を神が持つことは可能でしょうか。

人と動物の世界の主な違いの一つにはこの選択の力があります。すなわち、善か悪をするのを意識的に選ぶ余地です。初めから、神は人に善をすることを選び生きるか、悪をすることを選び死ぬかを選択する能力を与えました。

昔、ある家庭に二人の兄弟が生まれました。ジョン・カルヴァンは勉強家で思慮深く礼儀正しい人でした。27歳の若さで彼は世界の名著の一つである「キリスト教綱要」を書きました。民主政治と宗教の自由という世界的に偉大な思想を残して1564年ジュネーブで世を去りました。一方、兄弟チャールズは不義に浸った生活を送りました。この二人の違いをどのように説明できるでしょう。遺伝や環境、教育ではありません。彼らは同じ家庭で育ち、同じ影響と機会が与えられていました。違いは選択ということにあります。

## 2. 人間の墮落

創世記3章はアダムとエバが犯した大きな過ちとそのことによる悲しい結果を述べています。

### a. エバが禁断の木に近づいた

明らかに、エバの最初の過ちは善悪を知る木に近づいたことです。禁じられた木だと知っていたので、エバはその木を全く避け、離れているべきでした。ローマ13章14節はこう命じています。「肉の欲を満たすことに心を向けてはならない」 同様の警告がエペソ4章27節にあります。「また、悪魔に機会を与えてはいけない」 罪深い環境や妥協した状況から離れているなら、多くの危険な誘惑は避けることができるでしょう。しかしエバは、それ以後多くの者がそうであるように、故意に自ら進んで誘惑される機会を作るという致命的な過ちをしました。

### b. サタンも訪れた

エデンの園の穏やかな環境にあって、人を誤らせることの出来るいい機会をずる賢いサタンは狙っていました。サタンは自分がうまくやれる唯一の方法は禁断の木だと知っていました。そこで創造物の中で最もずる賢い生き物であるヘビを用いました。サタンがエバに最初に何と言ったかに注意することはとても重要です。「園にあるどの木からも取って食べるなどほんとうに神が言われたのですか。」(創世記3:1) 最初にサタンが用いる攻撃方法は、いつも、神の言葉に疑問を持たせることです。とてもずる賢い巧妙な手口で、神の言葉を否定はしませんが、疑わせようと試みます。

### c. サタンの誤りの解釈

次に、神と悪魔の視点の違いををそれぞれの言葉一つずつを比較して見てみましょう。

神は言いました。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない〜」

サタンは、神がこう言ったと言いました。「園にあるどの木からも取って食べるなど、〜」

このことは単に意味論の違い、または言葉の遊びに過ぎないように思われます。しかし神の言葉を語る場合には一語一語や言い回しが大切で、(全体の)見方が重要なのです。このことはどんなに強調しても、しすぎることはありません。再びここで言われていることを比較し、神は肯定的な視点で話していることに注意しましょう。神はアダムに一つの木以外は園のどの木からでも自由に食べてもよいと言いました。ヘビの視点は否定的でした。彼は全ての木から食べられるわけではないという事実を当てました。そうすることでサタンは、エバに祝福されているのだと思うより、恵まれていないと思わせようとしてきました。サタンは、エバに多くの持っているものではなく、ほんの少しの持っていないものに注意を向けさせたかったのです。幾度も幾度も繰り返してサタンはこの手口を使います。

今度は神が言わなかったことを、サタンは、神が言ったと主張しました。このことにいつも気をつけてください。サタンは神の言葉のように聞こえ、神が実際に言ったことにとっても近い言葉を用いて、御言葉をよく知らない人々を騙すのです。

#### d. 神の言葉に対するエバの知識不足

このシナリオの次の悲しい階段は、エバは神がなんと言ったのかを良く知らなかったことです。そのことにみなさん驚くかも知れません。なぜなら、エバの言ったことも神が言ったことにとても近いように聞こえたからです。しかし次のことを覚えておかなければなりません。神は御自分が言った言葉に、加えたり減らしたりすることを禁じています。たった一言でも言葉を加えたり減らした場合には、言葉を汚してしまい、もはや神の言葉ではありません。

エバがどのように神の言葉に加えたかを見てみましょう。「女はヘビにいった、『わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。』」（創世記3:2,3）

もう一度、神が実際言ったことと比較してみましょう。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」（創世記2:16-17）

エバは何を加えたのでしょうか。神は「これに触れるな」とは言っていません。ざっと見た限りではこのことは重要なことのように思われません。しかし私達が扱っているのは人の言葉ではなく、神の言葉なのです。神が言わなかった条件を加えることで、エバは神の命令を強調したように思われます。しかし、私達が神の言葉を強調することなどは出来ないことを心に留めるべきです。人が自分の条件を加えたとき、それはもはや神の言葉ではありません。主が言われたことに対し、エバは間違った引用をしました。そのためにエバはヘビに対し誘惑に抵抗する自分の能力の欠けている部分を現してしまいました。

マタイ4章にあるイエスの誘惑を注意深く学ぶことはこの点をより一層明らかにします。サタンの誘惑に、効果的に抵抗する唯一の方法は神の言葉、純粋な神の言葉でサタンの試みに応じることです。イエスにしたように、サタンは神の言葉の自分勝手な解釈で、誘惑の力を強めようとします。サタンは詩篇91篇1節を曲げて引用しました。御言葉が肉体をとった方であるイエスは誤りを指摘し、畏にはまりませんでした。サタンは今日もなお、神が実際に何と言っているかを知らない人々をつまづかせています。

偉大なイエスでさえもサタンの試みに会ったとすれば、私達も試みを避けることは出来ません。サタンが存在しないと決めつけるべきではありません。もし存在しないとしたら誰かがサタンの仕事をしていることになります。ある人が若者に尋ねられました。「あなたはもう悪魔なんか信じてないですよ」「いいや、信じているさ」年配の人は答えました。「そうじゃなければ、自分が悪魔だと信じなきゃならなくなるよ」

#### e. サタンは神の目的を攻撃する

エバの誘惑の次の段階は、神の目的への攻撃でした。エバが神の言ったことを良く知らないことが分かったので、サタンは神の言葉と全く矛盾することを言いました。「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」（創世記3:4,5）

サタンは、神が彼らを良いものから遠ざけておきたかったので木の実を食べることを禁じた、とエバに思わせようとしました。これはサタンが使う別の手口です。神に禁じられたことをすることは益になることで、神は本当は一番良いものを与えたくはなく、無知と奴隷状態に置いておきたいのだと人々に思わせようとします。

#### f. アダムの不従順

エバは霊的な死へと向かう次の悲しい階段へ進みました。エバは神の言葉に信頼するのではなく、自分の感覚や知識によって行動するようになりました。彼女にはその木が食べるに良く（見た目にも味にも）、賢くなるには好ましいように思えました。エバはその実を食べ、アダムにも与え、彼も食べました。全てをもっと悲劇的にしたのは、エバは騙されたのですが、アダムはそうでなかったということです。アダムは自分が何をしているのか良く分かっていました。（1テモテ2:14）

御言葉を調べると人の墮落について以下の事実を見出します。

- ローマ5:12 「～ひとりの人によって、罪がこの世にはいり～」
- ローマ5:12 「～罪によって死がはいってきたように～死が全人類にはいり込んだのである」
- ローマ5:14 「～アダムからモーセまでの間においても、～死の支配を免れなかった」
- ローマ5:17 「もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、～」
- ローマ5:18 「このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、～」
- ローマ5:19 「すなわち、ひとりの人不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、～」

実を食べた後で彼らの目が開けました。彼らは自分たちが裸であることが分かったので、いちじくの葉をを綴り合わせて作った前掛けで覆おうとしました。彼らの良心が明らかに目覚めたのです。（無罪が終わる）

### 3. 神が園の中を歩いて来られた

#### a. 神はアダムとエバを捜された

それからアダムとエバは主なる神が日の涼しい時に園を歩む音を聞きました。恥ずかしさと良心の呵責から神の顔を避け、園の木の中に身を隠しました。罪はアダムと神との自由な交わりを破壊しました。

主は呼びかけました、「あなたはどこにいるのか」(創世記3:9) アダムは答えました、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」(創世記3:10) 神は尋ねました、「あなたが裸であるのを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」(創世記3:11)

#### b. アダムとエバは他のせいにした

この時、別のことも起こりました。それはこの時以来全ての人間に共通していることです。アダムは自分の罪を他人のせいにしました。アダムは神に答えました。「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」(創世記3:12) 人の墮落した性質は自分の罪の責任を取りたくないのです。このことから、なぜ悔い改めが重要なステップであり、必須なのかが、このことから分かります。同じ性質がエバにも見られました。神はエバに尋ねました。「あなたは、なんということをしたのです」 エバは答えました。「へびがわたしを騙したのです。それでわたしは食べました」(創世記3:13)

メモ: \_\_\_\_\_

# 最初の裁き



## V. 最初の裁き

神に従うことよりも背くことを選んだ罪の結果、4つの呪いとエデンの園からのアダムとエバの追放という裁きが下されました。

### 1. 蛇への呪い

まず最初の裁きは悪魔である蛇に対してでした。神は蛇に言いました。「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最もろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう」（創世記3:14）蛇はもともと脚があったのに、この呪いによって腹で這うものになったのではないかという説もありますが、確かなところは分かりません。たとえ蛇が以前、もっと優雅で堂々とした姿をしていたとしても、エバの誘惑に関わった故に、もはやそうした姿ではなくなってしまいました。

### 2. 女への呪い

2番目の呪いは女（エバ）に対してでした。神は言いました。「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう」（創世記3:16）罪を犯した結果、エバは世の全ての女性に産みの苦しみをもたらしました。出産というとても祝福された喜びの出来事さえ、痛みと産みの苦しみが伴います。また、神は男が女を治めるであろうと言いました。こうしたことを不快に思う女性もいるかと思いますが、これらは全て罪の結果なのです。

### 3. 大地への呪い

3番目の呪いは大地に対してでした。神はアダムに言いました。「あなたが妻の言葉を聞いて食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう」（創世記3:17-18）雑草は植えなくても生えてくるのに気づいたことがありますか。育てたい野菜や果物のためには、注意深く耕したり、植えたりしなければなりません。綺麗な花を育てようと悪戦苦闘したり、庭の雑草や芝生に勝手に生えるタンポポを抜いたりする度に、主は人の罪深さを私たちに思い起こさせているのです。

### 4. 男への呪い

4番目の呪いは男（アダム）に対してでした。神は言いました。「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」（創世記3:19）このときからずっと生きるために苦労することになります。額に汗し、努力しなければなりません。そしていずれは地のちりに戻るのです。

### 5. 救い主についての最初の約束

こうした呪いの中にも、ある約束が与えられました。神は言いました。「わたしは恨みをおく、おまえと女との間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」（創世記3:15）これはメシヤであるイエスキリストがサタンに対して完全な勝利を得ることを預言しているのです。このように初めからサタンの運命は封じ込められていることを覚えておいて下さい。勝利を得ようとどんなに悪戦したところで決して目標達成はできません。初めからサタンは打ち負かされた敵です。

アダムとエバの罪を知らない状態は終わりました。神は約束（創世記3:15）を与えた他にも、二人の体を覆う皮の着物を与えました。（創世記3:21）

### 6. 園から人が追いやられた

ついに犯した罪ゆえに、アダムとエバはエデンの園から追放されました。人が命の木の実を食べてしまい、罪ある状態で永遠に生きることがないようにと、主は人を園から追い出されたのです。エデンの園の東に神は炎の剣を持ったケルビム（御使い）を置き、人が命の木に近づかないように守らせました。

メモ： \_\_\_\_\_



## I. 墮落から洪水まで

1. アダムとエバが園より追放される。 創世紀3:16、4:1
2. 二人の兄弟の違い 創世紀4:2
3. 教えられていた礼拝 創世紀4:3-6
4. 受け入れられた犠牲と受け入れられなかった犠牲 創世紀4:7
5. 血の犠牲 — 必要条件 黙示録13:8、ヘブル9:22, 11:4
6. 不従順に対する罰 創世紀4:13-15
7. 神と共に歩んだ人々 創世紀4:25
  - a. セツ 創世紀4:26
  - b. エノク 創世紀5:24、ヘブル11:5
  - c. ノア 創世紀6:7、ヘブル11:7

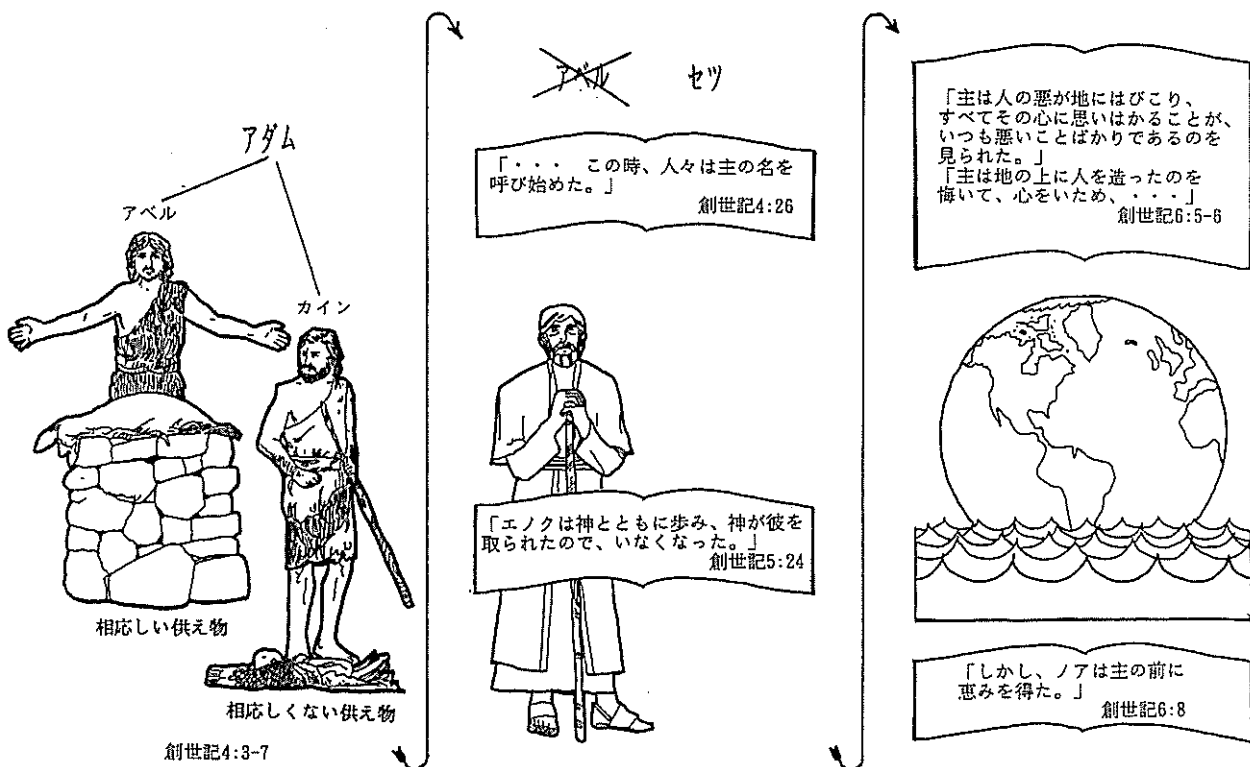
## II. 正しい家族は保たれた

1. 信仰と行いが要求された。 創世紀7:1、ヘブル11:7
2. 逃れる一つの計画 ヘブル11:7、1ペテロ3:20、2ペテロ2:5
3. 安全な場所 創世紀7:15, 16
4. ノア、約束を受け取った。 創世紀9:9-13

## III. 人は裁かれた

1. 洪水の前の日々 マタイ24:38
  - a. 食い、飲み マタイ24:37-44、ピリピ3:17-19
  - b. めとり、とつぎ 創世紀6:1, 2、2ペテロ3:3-7
  - c. 買い、売り、植え、建て ルカ17:26-30
2. 彼らは気がつかなかった。 マタイ24:39
  - a. 人の子の現れるのも、そのようであろう。 マタイ24:27, 39
  - b. 同様の極度の悪 2テモテ3:1-4
3. ノアは備えをした！ ヘブル11:7

# 墮落から洪水まで 意識の時代



## I. 墮落から洪水まで

### 1. アダムとエバが園より追放される

善と悪とを知りようになり、アダムとエバはエデンの園を離れて生活するようになりました。その生活は以前と全く異なったものとなりました。前は平穏な園で最初の男女として、本物の楽園を管理するという努めをしていました。今やアダムは額に汗し、生きるために来る日も来る日もいばらやあざみと取り組むことになりました。

エバは神の言葉が真実であることを知りました。神はこう言われていました。「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む」(創世記 3:16) エバが産んだ最初の子はカインと名付けられました。エバは言いました。「わたしは主によって、ひとりの人を得た」(創世記 4:1) そしてその後、エバはもう一人の子アベルを産みました。

### 2. 二人の兄弟の違い

同じ家の兄弟によくあることですが、この二人は全く違っていました。アベルは羊を飼う者であり、カインは土を耕す者でした。しかし創世記4:3-7 によれば、二人の違いはこれだけではありませんでした。

### 3. 教えられていた礼拝

アダムとエバが息子達に、神の存在について、また神を礼拝し犠牲をささげる捧げることの必要性について教えていたことは明らかです。やがて、カインは地の産物を持って来て、主に供え物としました。アベルもまた、その群れのういごと肥えたものを持って来ました。



#### 4. 受け入れられた犠牲と受け入れられなかった犠牲

主はアベルの供え物は顧みましたが、カインの供え物は顧みませんでした。このことはカインを悩ませ、憤らせました。主はカインに言いました。「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか。正しい事をしていましたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのであれば、罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを治めなければなりません」

哀れみをもってカインの過ちを許そうと、神はカインに語りました。正しい事をするなら、アベルの供え物と同様に、カインの供え物も受け入れると神は言いました。カインが正しい事をするのを唯一妨げていたものは罪です。かつて「君を悩ますものは何なのか」と聞かれ、即座にこう答えた人がいます。「なにもありませんが、自分自身なのです」最も奥深く危険な問題は外から来るのではなく、内から来ます。敵は内側から開けられている門を通して入って来ます。カインの問題はアベルのせいではなく、カイン自身だったのです。

#### 5. 血の犠牲 - 必要条件

カインの供え物は何が悪かったのでしょうか。アベルが血の犠牲を捧げたのに対し、カインが地の産物の供え物を捧げたことに違いがあります。最初から、神の計画は血の犠牲を望んでいました。エデンの園において神は、アダムとエバの裸をおおう皮の着物を与えるために動物を殺しました。(創世記3:21参照) すなわち、人の罪がおおわれるためには血が流されなければならなかったのです。イエス・キリストは世の初めからほふられた小羊です。神が血の犠牲を選んだのは、罪の報酬は死だからです。(ローマ6:23参照) 血が流されることなしに罪の許しはあり得ません。(ヘブル9:22参照) アダムはこの知識を息子達に伝えたに違いありません。そうでなければ、アベルは何を捧げるべきか知らなかったことでしょうか。ですから、カインがふさわしくない犠牲を捧げたことが分かります。

人を神との正しい関係に置くのは誠実だけではないと、聖書は初めから教えています。神が唯一受け入れるのは従順です。自分が正しいと思うことや、どのようにするか良く分かっていることだけをするのでは十分ではありません。神が命じたように行うべきなのです。

アベルは信仰によって神に従いました。ヘブル11章4節にこうあります。「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もお話している」

#### 6. 不従順に対する罰

悲しいことにカインはやり直すようにとの神の勧めを受け入れず、弟アベルを殺しました。全てを知り、全てを見る方である主は尋ねました。「弟アベルは、どこにいますか」カインは偽りました。「知りません。わたしが弟の番人でしょうか」

それから主はカインの罪への罰を告げました。「あなたは何をしたのです。あなたの弟の血の音が土の中からわたしに叫んでいます。今あなたはのろわれてこの土地をはなれなければなりません。この土地が口をあけて、あなたの手から弟の血を受けたからです。あなたが土地を耕しても、土地は、もはやあなたのために実を結びません。あなたは地上の放浪者となるでしょう」

カインは答えました。「わたしの罰は重くて負いきれません。あなたは、きょう、わたしを地のおもてから追放されました。わたしはあなたを離れて、地上の放浪者とならねばなりません。わたしを見付ける人はだれでもわたしを殺すでしょう」(創世記4:13-14参照)

主が答えました。「いや、そうではない。だれでもカインを殺す者は七倍の復讐を受けるでしょう」(創世記4:15参照) それから主はカインにしるしをつけ、カインを見付ける者がだれも殺すことのないようにしました。

殺人の罪と神に従うことを拒否した結果、カインは主の前を去り、エデンの東、ノドのさびしい土地に住みました。

#### 7. 神と共に歩んだ人々

##### a. セツ

アダムとエバには多くの子供がいました(創世記15:4)が、セツと名付けた息子が生まれた時、エバは「カインがアベルを殺したので、神はアベルの代わりに、ひとりの子をわたしに授けられました」と言いました。(創世記4:25) セツは信仰深い人で、アベルが持っていたように、神に仕えたいという思いがありました。人々が主の名を呼びはじめたのはこの頃です。(創世記4:26参照)

##### b. エノク

アダムより6代目のエノクは創世記の中で興味ある人物の一人です。彼は神を愛し、神に従順でした。聖書にこう記されています。「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった」(創世記5:24) ヘブル11章5節にこの超自然的な出来事についてより詳しい説明があります。「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。神が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである」

歴史の初めから、神への従順と信仰によって神を喜ばせた人々がいました。しかし全ての人が彼らのような信仰と従順を持っていたわけではありませんでした。

### c. ノア

エノクのひ孫の時代に、人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを主は見ました。人があまりに悪に満ち無法なので神は人を造られたのを悔やみました。神は言いました。「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造ったことを悔いる」（創世記6:7）

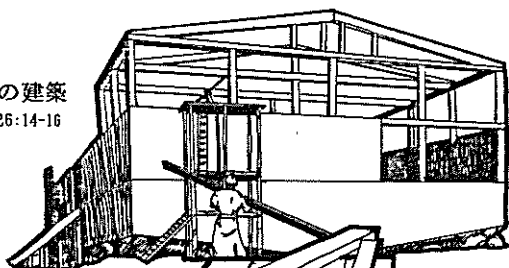
しかし神の前に恵みを得た人、ノアがいました。他の人々が常に悪い思いを持ち、あらゆる悪を行っていた一方で、ノアは神を信じ、恐れをもって神に従いました。ヘブル11章4節にこのように記されています。「信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について御告げを受け、恐れかしくみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった」

アベル、セツ、エノク、ノアが共通して持っていたものは何でしょうか。信仰です。彼らは神を信じ、従いました。初めから神が人に求めていたものは信仰でした。ヘブル11章6節も次のように言っています。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである」

メモ： \_\_\_\_\_

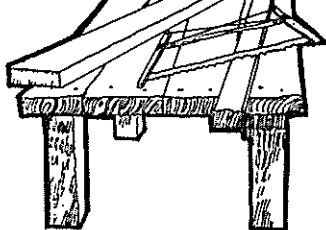
# 正しい家族は保たれた

箱舟の建築  
創世記6:14-16



箱舟のかたち

1つのドア  
3階建て  
奥行き約137.3m  
高さ約13.74m  
横幅約22.88m



「わたしの霊はながく人の中にとどまらない。」  
「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを作ったことを悔いる。」

創世記6:3,7

契約の虹  
創世記9:11-13

約束

「また、古い世界をそのままにしておかないで、その不信仰な世界に洪水をきたらせ、ただ、義の宣伝者ノアたち八人の者だけを保護された。」  
2ペテロ2:5

## II. 正しい家族は保たれた

### 1. 信仰と行いが要求された

神は逃れる道を備えて下さる一方で、ノアに信仰と行いを要求されたことに注意して下さい。神はノアにどのように箱舟を造るべきか詳細な指示を与えました。木の種類（イトスギ）、大きさ（長さ約135メートル、幅約23メートル、高さ約13メートル）、戸と窓の数（1つ）、階（3階）は、全て、神が決めました。主はノアに何頭の獣を箱舟へ連れて来るかということも教えました。清い獣から7組、清くない獣から2組を取らなければなりません。（創世記7:22参照）

### 2. 逃れる1つの計画

もしノアが、カインのように自分のやり方で物事を行おうとしていたら、どうなっていたでしょうか。窓か戸を他にも付け加えたり、違った種類の木を使ったり、その他、神の計画の小さな部分を変えたりしていたらどうなっていたでしょうか。疑いもなく、ノアの家族は罪深く不従順な残りの人々とともに、洪水で滅びてしまっていたでしょう。神は神の言葉に不従順なものを決して救われません。エバの罪により最初の男女は美しいエデンの園を去らなければなりません。カインの罪により、主は彼にしるしをつけ、神の前から去らせました。罪深さのゆえに全世界はノアとノアの家族以外は滅びました。ちょうど神がこう言われたように。「わたしの霊はながく人の中にとどまらない」（創世記6:3）

しかし神はノアを救いました。ノアは義の宣伝者（2ペテロ2:5）として、家族のために備えをただけでなく、人々にも差し迫った裁きと悔い改めの必要性を警告しました。しかし人々はノアの警告を気に留めませんでした。神は人々が悔い改めることを寛容に待たれていました。（1ペテロ3:20参照）そして「信仰によって、ノアはまだ見えない事らについて御告げを受け、恐れかしくみつ、その家族を救うために箱舟を造り、～」（ヘブル11:7参照）家庭は今も、神に献身的な生活を始める場所であり、家族の信仰生活を保つものなのです。

### 3. 安全な場所

洪水の一週間前、ノアと彼の家族は神に導かれ箱舟に入りました。また、主は動物たちに箱舟に入るように命じました。そして神は戸を閉ざされました。(創世記7:15、16 参照) ノアが6百才の時のことでした。(創世記6:11参照)

雨が降り始め、淵の源はことごとく破れました。40日の間徐々に水かさが増していきました。それから水は山を110日の間覆いました。150日の後、水が引き始めましたが、引くのにもう150日かかりました。箱舟は7月17日にアララテ山に停まりました。

40日後にノアは窓を開け、カラスと鳩を放ちました。鳩は足の裏をとどめる所が見付からなかったので箱舟に戻って来ました。7日の後にノアは鳩を再び放ちました。鳩はくちばしにオリブの若葉をくわえて戻って来ました。最後に更に7日待って、ノアは鳩を再び放ちました。鳩は戻って来ませんでした。

### 4. ノアは約束を受け取った

1年17日後、神はノアに家族と動物達とともに箱舟を出るように命じました。(創世記8:13-18 参照) 箱舟を出るとき、ノアが最初にしたことは、祭壇を築き燔祭を主に捧げることでした。

どれだけか家庭が今日、家族での祭壇の時をもっているのでしょうか。生活のペースが早くなり、家族での献身や祈りの時間がない、と多くの方が言い訳をしています。

主は言いました。「わたしはもはや二度と人のゆえに地をのろわない。人が心に思い図ることは、幼い時から悪いからである。わたしは、このたびしたように、もう二度と、すべての生きたものを滅ぼさない」(創世記8:21-22 参照)

しかしこれで神とノアとの関わりが終わったわけではありません。最初の男女であったアダムとエバに命じられたように、神はノアとノアの家族に増えよ、地に満ちよと言いました。(創世記9:1 参照) その時から動物は人を恐れ、血を除いては人の食べ物となるであろう、と神は言いました。(創世記9:2-4 参照) また、殺人者は死の罰を受けると教えられて、人による管理を設立されました。(創世記9:5、6 参照)

神はノアとその子らに言いました。「わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。またあなたがたと共にいるすべての生き物、あなたがたと共にいる取り、家畜、地のすべての獣、すなわち、すべて箱舟からたものは、地のすべての獣にいたるまで、わたしはそれと契約を立てよう。わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によって滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起こらないであろう」さらに神は言われた、「これはわたしと、あなたがた及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる」(創世記9:9-13)

メモ： \_\_\_\_\_

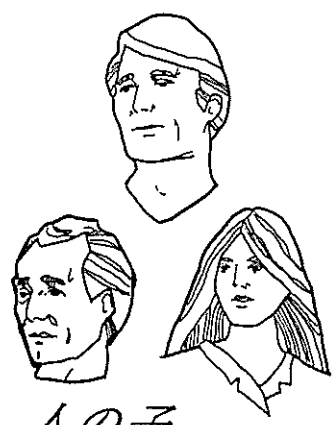
# 人は裁かれた

「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつきなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとりを取り去られ、ひとりを取り残されるであろう。ふたりの女がうすをひいていると、ひとりを取り去られ、ひとりが残されるであろう。だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさまして、自分の家に押し入ることを許さないであろう。だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」  
マタイ24:37-44



ノアの時代  
創世記6:5,11

- 食べ、飲み
- めとり、嫁ぎ
- 買い、売り、植え、建て
- 裁きが来ることへの無知
- 極度の悪
- 洪水が来る



人の子

- ピリピ3:17-19
- マタイ24:38-39
- ルカ17:26-30
- ルカ21:34-35
- 2テモテ3:1-4
- 2ペテロ3:3-7

## Ⅲ. 人は裁かれた

今日空を仰ぎ虹を見る時、その虹が水によって再び地を滅ぼすことはしないと誓われた、神の約束の印であることを思い起こします。

しかし、地はやがて、全く違った方法で神の裁きに直面することになります。そのことはペテロ第二の手紙3章4-7節で明らかにされています。ペテロはあざける者たちがこう言うであろうと述べています。「『主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、かわってはいない』と言うであろう。すなわち、彼らはこのことを認めようとはしない。古い昔に天が存在し、地は神の言によって、水がもとになり、また、水によってなったのであるが、その時の世界は、御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼされるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである」

裁きは邪悪で不信仰な人々に下されます。神が次に裁きのために用いられるのは水ではないでしょうが、以前に神に従うことを拒んだ人々が滅ぼされたのと同様のことが起こるでしょう。

ダニエル・ウェブスターはフィルモア大統領の國務長官時代に、ニューヨークのアスターハウスで20人の人々と食事をしていました。彼はいつになく寡黙で、心ここにあらずといった感じでした。彼の注意を引くため、誰かが変わった質問をしました。「ウェブスターさん、今までにあなたの心を占めていたもので、一番大切な考えは何だったのでしょうか」ウェブスターはちょっと考えてから、そこにいた人々に言いました。「私の心にあった一番大切な考えは、私個人としての神への責任です」それから彼は20分間そのことについて語ったと伝えられています。

ノアもまた神への同じような責任を感じていました。

### 1. 洪水の前の日々

ノアの時代に起こった世界的規模の洪水は大変重要なことです。イエスはご自分の来臨について教えられるのにこの教訓を用いました。(マタイ24:37-44参照のこと) ノアの時代と今日との明確な比較に注意して下さい。

### a. 食い、飲み

食べることや飲むことは何も悪いことではありません。生きるうえでの自然な欲求です。しかし多くの方は行き過ぎて自分の腹を神としてしまうようになります。(ピリピ3:17-19参照)

肉なる人は肉の人を満たすことのみに関心を払います。セツ以外に洪水前の人々で、先祖アダムのように日の涼しい時に神と対話したり、アベルのように神に犠牲を捧げたり、エノクのように神と共に歩んだ人のことはほとんど記されていません。

### b. めとり、とつぎ

同様に結婚することは罪ではなく、親が娘を嫁がせるのは悪いことではありません。結婚は神に定められたものであり、神の祝福です。人が結婚し、信仰深い家族の深い絆や家庭を築き、地に増え満ちていくことは神の御計画です。

創世記6章1-2節で、信仰深いセツの家系が肉に従ったカインの家系と交わったことを明らかにしています。ペテロ第二の手紙3章3-7節によれば彼らの振舞いはあざける者、不信仰な者となるまでに墮落しました。彼らはアダムやエバ、そしてカインに対する神の裁きを忘れてしまったのでしょうか。レメクが裁きを無視して、人を殺すのを誇っていることから明らかにそうだとと言えます。(創世記4:13-23参照)

### c. 買い、売り、植え、建て

ルカ17章26-30節でイエスは、ロトの時代も併せて来臨の直前の日々との比較をされています。裁きが下る前の時について既に学んできたように、買い、売り、植え、建てることは本質的には罪深いものではありません。

人類は様々な分野で技術や才能を伸ばしてきました。ラメクの3人の息子達は天幕を作ること、家畜を飼うこと、音楽、産業に優れていました。彼らには今や娯楽としての音楽がありました。このようにして人は、特にカインの子孫は、権力、富、豊かさを増しました。彼らは色々なものを建てましたが、では祭壇はどこにあったのでしょうか。彼らの素朴な遊牧民の家系が洗練され、物質主義へと変わり腐敗していきました。地に暴力が満ちました。人の心に思い図ることは全て悪いことばかりでした。(創世記6:5-13参照) 神は言いました。「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう」

## 2. 彼らは気がつかなかった

生活は同じように続けました。人々はいつものように仕事をしていました。裁きの前日も、他のどの日とも全く同じようでした。正確にいつ裁きが来るかという、期日を示すような、前もった警告はありませんでした! 「いっさいのものをさらっていくまで、彼らは気が付かなかった」(マタイ24:39)

### a. 人の子の現れるのも、そのようであろう

ノアは差し迫った裁きを宣べ伝え、警告しました。しかし罪深い世の反応はどうだったのでしょうか。そうしたメッセージに対し今日も同じような反応がされます。「そのことは何回も聞きましたよ。裁きの日が来るとは思いませんね。今までとは全くなにも変わりませんよ」

賢い人は神の言葉に従い、主の来臨のための備えをしています。

### b. 同様の極度の悪

ノアの時代と現代とを比較してみると、そのどちらにも共通している特徴として、悪が極度に達していることが挙げられます。テモテ第二の手紙3章1-4節は現代について明確に述べ、これらが終わりの日のしるしであると言っています。

ノアの時代に、洪水がくるとは思いもしなかった人々が全て滅ぼされたのと同じように、神の裁きは終末の世代にも臨みます! 神の再臨がいつかという期日を示すような追加の警告はありません。イエスが言われたように。「その日その時はだれも知らない。天の御使い達も、また子も知らない。ただ父だけが知っておられる。人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」(マタイ24:36、37)

## 3. ノアは備えをした!

何年もの間奇妙な舟を造るために働き、差し迫る洪水について語ったりしていたので、ノアは風変わりに見えたことでしょう。恐らく彼は多くの人々の冗談の種となり、呑気に構えている人々の話題になったことでしょう。しかし洪水が来た時、神に従ったノアは箱舟の中で外を眺めていました。一方、あざけて信じなかった人々は自らの罪の報いに苦しんでいました。

主の再臨の時もそのようでしょう。命についての神の言葉を拒否し、神に仕える機会をはねつけた者は、罪の宣告と悲しみと痛みを受けることとなります。神の声に喜んで従い、備えをする者は永遠の喜びに導き入れられるでしょう。

イエスはこう言っています。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失うものは、それを救うであろう。人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんお得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか。邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」(マルコ8:34-38)

メモ : \_\_\_\_\_



## I. 言葉の起源／国々の始まり

1. 洪水後 創世記9:1
2. バベルの塔 創世記11:1-4
  - a. 人々の自己中心 創世記11:5,6
  - b. 違った言葉が入った。 創世記11:7-9
3. 神の裁きで人々は散らされた
  - a. セムの子孫 創世記10:21-32
  - b. ハムの子孫 創世記10:6-20
  - c. ヤベテの子孫 創世記10:3-5

## II. 族長の時代（選ばれた国民）

1. アブラハム 創世記12:2,3、申命記4:6、列王紀3:8,9
2. アラブ民族 創世記16:2
3. アブラハムとの神の契約 創世記17:1,2,10,11
4. 分離 創世記13:8,9
  - a. ロトの選択 創世記13:10-13
  - b. 罪に対する裁き 創世記18:23-33
  - c. あわれみの御使い 創世記19:1,15
5. 約束の子、イサク 創世記21:1-5
  - a. アブラハムの信仰が試された。 創世記22:2、ヘブル11:17-19
  - b. アブラハムの従順 創世記22:3-5
  - c. アブラハムの変わらない信仰 創世記22:7-12

## III. ヤコブとエサウ（選ばれた国民）

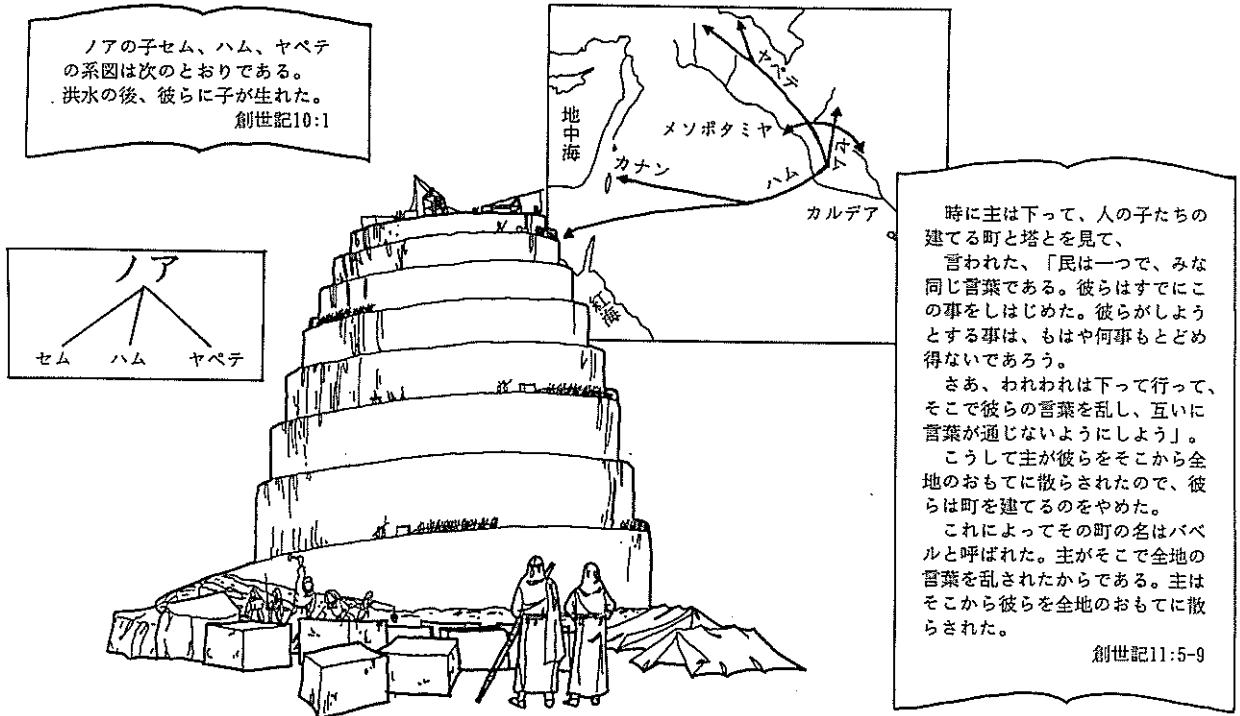
1. エサウ、長子の特権を売る。 創世記25:30-34
2. ヤコブ、祝福を奪う。 創世記27:1-29
3. 神とのヤコブの遭遇 創世記28:10-15
4. ヤコブ、主の家を覚えた。 創世記28:16-22
5. ヤコブ、主の使いと争った。 創世記32:24-28

## IV. ヨセフ（選ばれた国民）

1. ヨセフ、エジプトへ売られる。 創世記37:23-28
2. ヤコブ、騙される。 創世記37:29-36
3. ヨセフへの誘惑 創世記39:7-19
4. 獄屋でのヨセフ 創世記39:20-23
5. パロの下でのヨセフの昇格 創世記41:37-45
6. ヨセフの兄弟、エジプトに来る。 創世記42:1-3
7. ヨセフ、兄弟たちを許す。 創世記45:1-15
8. ヤコブと家族、ゴセンの地に住む。 創世記47:11,12
9. エジプトの奴隷としてのイスラエル 出エジプト1:8-14



# 言葉の起源／国々の始まり



## 1. 言葉の起源／国々の始まり

### 1. 洪水後

洪水の後、神はノアと息子達に地に満ちよと命じました。この命令は人が再び増えていくために、徐々に全地のおもてに散っていかなければならないということです。しかしまたも多くの人々が神の声にそむきました。地に広がっていき代わりに、一つの地域に住み、そこにとどまって町を築こうとしました。

### 2. バベルの塔

「全地は同じ発音、同じ言葉であった。時に人々は東に移り、シナルの地に平野を得て、そこに住んだ。彼らは互いに言った、『さあ、れんがを造って、よく焼こう』 こうして彼らは石の代わりに、れんがを得、しっくい代わりに、アスファルトを得た。彼らはまた言った、『さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう』」（創世記11:1-4）

#### a. 人々の自己中心

人々が自己中心的で、神の命令を軽んじたことに注目して下さい。神は人が再びふえていくため、地上全体に散ることを望んでいました。しかし人々は中央に町と塔を建て、全地のおもてに散らないようにしようとしました。彼らの望みは神の言葉とは全く正反対のものでした。

### **b. 違った言葉が入った**

この時まで、地上に住む誰もが同じ言葉を話していました。実際、地のおもてには一つの民族があるだけでした。このため彼らは大きな町を造ろうという目的を持つことができたのです。

しかし、主は彼らの不従順を見て言いました。「民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互いに言葉が通じないようにしよう」（創世記11:6-7）

互いに違った言葉を話すようにすることで、主は彼らの罪深い行動を止めました。人はもはや野望に満ちた計画を完成させるための十分な意思の疎通ができなくなりました。そしてそれぞれ話の通じる者と自分の場所を捜して全地のおもてに散り始めました。

## **3. 神の裁きで人々は散らされた**

人の行動に対する神の裁きが様々な言語の起こりであり、国々の始まりです。地はノアの息子達により、以下のように再び人で満ちました。

### **a. セムの子孫**

セムの子孫はエラム、アッシュル、アルパクサデ、ルデ、アラムでした。これらの子孫から出た主な国は、ペルシャ、アッシリア、カルデア、ヘブル、リディア、アルマニア、シリアです。彼らはアッシリア、シリア、ペルシャ、アラビア地方、メソポタミアに住みました。

### **b. ハムの子孫**

ハムの子孫はクシ、ミツライム、プテ、カナンでした。これらの人々から出た主な国は、エチオピア、エジプト、リビア、カナンです。ハムの子孫達はアフリカ大陸とアラビヤに住みました。

### **c. ヤベテの子孫**

ヤベテの子孫はゴメル、マゴク、マダイ、セワン、トバル、メセク、テラスでした。彼らはロシア人、ドイツ人、ブリトン人、シシア人、メデス人、イオニア人、アテネ人、イベリア人、モスコ人、トラキア人となりました。ヤベテの住んだ地域は、小アジア、アルマニア、コーカサス、ヨーロッパです。

メモ： \_\_\_\_\_

# 選ばれた国民 族長の時代

神はアブラハムを呼んだ

時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」。

創世記12:1-3

約束

ロトとアブラハムは別れた  
創世記13:8-13



ロトの家族はソドムから逃れた  
創世記19:1-28

イサクの誕生

主はさきに言われたようにサラを顧み、告げられたようにサラに行われた。サラはみごもり、神がアブラムに告げられた時になって、年老いたアブラムに男の子を産んだ。アブラムは生まれた子、サラが産んだ男の子の名をイサクと名付けた。

創世記21:1-3

割礼の契約  
創世記17:10-14

イシマエルの誕生  
創世記16:15  
アラブの民族



アブラハムは犠牲としてイサクを捧げた  
創世記22:1-14

## II. 族長の時代

### 1. アブラハム

ノアの時代と同じように、神は地を見、契約を結ぶことの出来る人を見いだしました。この人は父テラと共にカルデヤのウルから来ていました。名をアブラムと言いました。主はアブラムに国を出て親族に別れを告げ、父の家を離れ、主が示す地に行くようにと言いました。主は言いました。「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」(創世記12:2-3)

アブラムは主に従い、家(ハラシ)を出ました。アブラム75才の時のことでした。彼は妻サライと甥のロトを連れ、カナン地の地に向かいました。

主が約束した時、アブラムには子供がいませんでした。約束にはアブラムを大いなる国民にすることも含まれていました。後にこれが成就したことが申命記4章6節、列王記上3章8-9節、ヨシュア記21章43-45節に記されています。

### 2. アラブの民族

しかし、神が約束を守られたというなら変化なしに時が過ぎ去りました。ついに、私達もよくそうであるように、アブラムとサライは自分たちでなんとかしようと思ひました。彼らにはハガルというエジプト人の召使がいました。サライはアブラムに言いました。「主はわたしに子をお授けになりません。どうぞわたしのつかえめの所におはいます。彼女によって私は子をもつことになるでしょう」(創世記16:2) アブラムは妻が言うとおりにしました。そしてイシマエルが生まれました。

神の約束が成就するというなら徴候が見られなかったので、神に逆らうようなことを行い、アブラムとサライは自分の家族と世に多くの悲しみをもたらしました。アラブ民族はイシマエルの子孫です。

### 3. アブラハムとの神の契約

アブラムが99才の時、主はアブラムに現れて言いました。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、大いにあなたの子孫を増すであろう」（創世記17:1-2）主はまた彼に言いました。神はアブラムを多くの国民の父となすとの約束を繰り返しました。そしてアブラムをアブラハムと名付けました。（アブラムは『高き父』、アブラハムは『真実な者の父』という意味）神はサライの名前もサラと変えました。（サライは『王女』、サラは『私の王女』という意味）それから神は契約のしるしを与えました。「男子はみな割礼を受けなければならない。これは、わたしとあなたがた及び後の子孫との間のわたしの契約であって、あなたがたの守るべきものである。あなたがたは前の皮に割礼を受けなければならない。それがわたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなるであろう」（創世記17:10-11）アブラハムはその子シマエルと家の者のうち全ての男子を連れて来て、全員に神の言葉に従ってその日割礼を施しました。

### 4. 分離

アブラハムの家畜の牧者たちとロトの家畜の牧者たちの間に争いが起こりました。アブラハムもロトも共に裕福で多くの羊の群れ、牛・豚の群れ、天幕を持っていました。しかし土地は彼らを支えるのに十分ではありませんでした。アブラハムはロトに言いました。「わたしたちは身内の者です。わたしとあなたの間にも、わたしの牧者達とあなたの牧者達の間にも争いがないようにしましょう。全地はあなたの前にはありませんか。どうかわたしと別れてください。あなたが右に行けば、わたしは左に行きましょう」（創世記13:8-9）

#### a. ロトの選択

アブラハムは甥に最初に選ばせるほどとても寛大な人でした。ロトはすみずみまで潤ったヨルダンの平地を見渡し、そちらを選びました。そしてアブラハムと別れ、東に移り天幕をソドムに向けて張りました。このことはロトの失敗でした。なぜならソドムの人々は悪く、主に対して甚だしい罪人だったからです。（創世記13:13）罪の方へ向かうことはいつも危険なことです。

#### b. 罪に対する裁き

神はソドムとゴモラの積もり積もった悪を見ました。そこはアブラハムの甥ロトが家族と共に住んでいた所でした。主はアブラハムに現れ、町々を滅ぼすことを告げました。滅ぼされるソドムに身内の者が住んでいるので、その町を許してくれるようアブラハムは主に求めました。もし10人の正しい人が見つければという条件で主は同意しました。しかし悲しいことに、ソドムとゴモラの悪は甚だしく、正しい人が10人さえもいませんでした。（創世記18）

#### c. あわれみの御使い

御使いたちがロトに現れ、強いてロトと妻と、二人のまだ嫁いでない娘たちを町から連れ出しました。神がその日、ソドムにあわれみの御使いを送られたのです。アブラハムの祈りは町を救いませんでしたが、ロトを救いました。主に近く歩んでいた叔父によりロトは祝福を得ました。主はあわれみの御使いを送りました。この悪い町に移って来た悲しむべき過ちのゆえに、ロトはその代償を払わなければなりません。ロトはソドム人に嫁いだ娘たちを残して行かなければなりません。ロトの妻は（御使いの命令に背き）逃げる時に振り返り、塩の柱になりましたが、ロトと二人の娘は助かりました。ソドムとゴモラは、その甚だしい悪のために、神に火と硫黄で滅ぼされました。

今日、ソドムとゴモラは地の表から全く拭い去られています。ある聖書研究者たちはその町々の破滅の結果、死海ができたと信じています。ソドムとゴモラに対する神の裁きは、神の言葉を破る者への厳しい警告です。「また、ソドムとゴモラの町々を灰に帰せしめて破滅に処し、不信仰に走ろうとする人々の見せしめとし〜」（2ペテロ2:6）

「キリストの教えは長い年月を穏やかに静かに土手の間を流れ、そして突然大激流となる川のような響きがあります。徳を告げ、成長と発展について穏やかに警えを話された同じ口で、来るべき御国と大いなる恐るべき主の日のことを語られています」

裁きは来ます！ 今は備えをする時なのです。

### 5. 約束の子、イサク

ついに神の定められた時にサラは身ごもり、男の子を産みました。アブラハムは子供をイサクと名付け、8才になった時に割礼を施しました。イサクが生まれた時、アブラハムは百才でした。神は約束を守りました。しかし神はアブラハムの信仰を試すことをまだ終えてはいませんでした。

### a. アブラハムの信仰が試された

神はアブラハムに言いました。「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭として捧げなさい」（創世記22:2）どんな思いがアブラハムの脳裏をよぎったことでしょうか。神はアブラハムに息子を約束しました。その約束が成就するまでには何年も月日が経ちました。そして今、神はアブラハムにその息子を捧げよと命じたのです。しかし、アブラハムは神に対し強い信仰をもっている人でした。アブラハムは、イサクは神がくださった約束の子であることを知っていました。以前約束されたように、神はイサクを通して数えきれないほどの子孫を興されるだろう、とアブラハムは信じていました。たとえイサクを神に捧げたとしても、神は約束を守るために死から蘇らせることができると信じました。ヘブル11章17-19節にこのように書かれています。「信仰によって、アブラハムは試練を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。この子については、『イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう』と言われていたのであった。彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力があると信じていたのである。だから彼は、言わば、イサクを生きかえして渡されたわけである」

### b. アブラハムの従順

「アブラハムは朝早く起きて、ろばに鞍を置き、ふたりの若者と、その子イサクとを連れ、また燔祭のたきぎを割り、立って神が示された所に出かけた」（創世記22:3）彼らが旅をして3日目に、アブラハムは神がイサクを捧げるようにと命じられた場所を遥かに臨み見ました。アブラハムは召使いたちに、自分とイサクが礼拝して帰ってくるまで、そこに留まるように命じました。

アブラハムの信仰は召使いたちに言った言葉からもよく分かります。「あなたがたは、ろばと一緒にここにいなさい。わたしとわらべは向こうへ行行って礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってきます」（創世記22:5）成し遂げるよう命じられたことには神のご計画があるのだとアブラハムは信じました。

### c. アブラハムの変わらない信仰

アブラハムとイサクが目的地に向かって行くにつれ、イサクは燔祭の小羊がないことに気づき尋ねました。「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」アブラハムは永遠に意味のある言葉で答えました。「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう」（創世記22:7-8）

アブラハムが「神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう」と言ったことに注目して下さい。祭壇の用意をした後、アブラハムは息子を縛り、祭壇のたきぎの上に乗せました。そしてアブラハムは息子を殺そうと手を掲げました。その瞬間、主の使いが呼んで言いました。「アブラハムよ、アブラハムよ」「はい、ここにおります」と彼は答えました。御使いは言いました。「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」（創世記22:12）

アブラハムの信仰は自分の愛する者によって試されました。そして、勝利をもって試みを切り抜けました。アブラハムは御使いの声を聞き、振り返ると、つのを藪にかけている一頭の雄羊を見つけました。神は燔祭の備えをして下さいました。アブラハムの言葉はのちにイエス・キリスト（肉において現れた神、1テモテ3:16）が、神の小羊として来られ、世の罪を除くこと（ヨハネ1:29）の預言でした。

驚くべきものは信仰です！

昔、アメリカでは、人々は馬に乗り旅をし、雨で水かさが増した川を渡らなければなりません。もし自分の回りで逆巻く水の流れを見たら、目が眩み馬の背から落ちて流されてしまうことでしょうか。しかし、もし彼らが対岸の土手や木、大石や丘に目を向けているなら、無事に渡ることができます。人生の嵐の中でも、信仰は平穏と勝利をもたらすことを覚えておいて下さい。大切なのは私達の目を周囲の移り行くものに置くのではなく、堅い岩イエス・キリストに置くことです。

メモ：\_\_\_\_\_

# 選ばれた国民

創世記25:21-26  
イサク

```

    graph TD
      A[イサク] --> B[エサウ]
      A --> C[ヤコブ]
    
```

エサウ ヤコブ

ヤコブは祝福を奪った  
創世記27:26-33

ヤコブは長子の特権を買った  
創世記25:29-34

ヤコブの見た天の夢  
創世記28:10-22

約束

ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組み討ちした。  
ところでその人はヤコブに勝てないのを見て、ヤコブのものつがいにかわったので、ヤコブのものつがいがか、その人と組み討ちするあいだにはずれた。  
その人は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください」。ヤコブは答えた、「わたしを祝福してください。あなたは彼に言った、「あなたの名はなんと言いますか」。彼は答えた、「ヤコブです」。  
その人は言った、「あなたはもはやヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争って勝ったからです」。  
創世記32:24-28

ヤコブはイスラエルと名付けられた

## Ⅲ. ヤコブとエサウ

神がアブラハムに子孫を増やすと約束されたのは、イサクを通してでした。イサクの妻リベカは二人の息子エサウとヤコブを生みました。カインとアベルがそうであったように、この二人の息子も全く違っていました。神はリベカに言いました。「二つの国民があなたの胎内にあり、二つの民があなたの腹から別れて出る。一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう」（創世記25:23）長男エサウは巧みな狩猟者となり、野の人となりました。またヤコブはおだやかな人で天幕に住んでいました。

### 1. エサウ、長子の特権を売る

弟のヤコブはあつものを煮ていました。ある日、エサウは野から帰って来て、飢え疲れて言いました。「わたしは飢え疲れた。お願いだ、赤いもの、その赤いものをわたしに食べさせてくれ」（創世記25:30）エサウは肉の思い、肉のことに関心を向けている人のようでした。彼は自分の感覚に従って歩んでいました。空腹になれば、自分の食欲を満たすことが、エサウには世の中で最も重要なことでした。

一方、ヤコブは、もちろん完璧な人ではありませんでしたが、霊的なことに関心を持っていました。エサウの要求にヤコブは答えました。「まずあなたの長子の特権をわたしに売りなさい」（創世記25:31）

長子の特権は長男に与えられる特権でした。それは家族の中で優遇を与えられ、相続における最初の請求権も含んでいるものでした。エサウは将来の備えよりも、今のことに目が向いていたので答えました。「わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう」（創世記25:32）

「まずわたしに誓いなさい」とヤコブは主張しました。エサウはパンとレンズ豆のあつもののために、ヤコブに長子の特権を売りました。しばらくしてエサウは立ち上がって去って行きました。彼は一時的な肉の満足のために最も大切な祝福を売ってしまいました。

永遠の未来のために備えるか、今少しの満足を得ることかの選択に直面したとき、多くの人が今この時を選ぶとい

うことは何と悲しいことでしょうか。そのような人々に見えるものに目を注ぎ、永遠のものに目を向けていないのです。(2コリント4:18)

## 2. ヤコブ、祝福を奪う

ヤコブがエサウの長子の特権を得た場面だけが、家族の祝福を得る最後の機会ではありませんでした。イサクが年老いて目が霞んで見えなくなったとき、(二人の息子のうち特に愛していた)エサウを呼んで弓矢を持って野に出かけ、鹿を取って来るように言いました。イサクは鹿の肉が好きでした。そしてエサウを祝福する前に少し食べたかったのです。

リベカはエサウへのイサクの命令を聞き、自分の愛息であるヤコブに山羊の子を二頭連れて来るように指示しました。リベカはイサクの好きな食べ物を作り、ヤコブの手と首に山羊の皮をつけ、エサウの服を着せて変装させました。エサウのふりをして、ヤコブは目の不自由な父のもとへ行きました。そしてイサクに肉を差し出しました。イサクはエサウがあまりにも早く持って帰って来たのに驚き、少々疑いました。そしてヤコブに触るために近くに来るように呼んで、言いました。「声はヤコブの声だが手はエサウの手だ」(創世記27:22) しかしイサクはそれがヤコブであることに気づきませんでした。そしてヤコブにエサウの祝福を与えました。

しばらくしてヤコブが父のもとから出て行った丁度その時、エサウが入って来ました。イサクは騙されたことでも悩みました。エサウは苦々しい思いで泣きました。しかし祝福をヤコブから取り去ることはできませんでした。エサウはヤコブを憎み、報復として彼を殺そうと考えました。リベカはこの計画を聞き、すぐにリベカの兄の住む地ハラシマへ逃げるようにヤコブに命じました。

## 3. 神とのヤコブの遭遇 (創世記28:10-22)

ヤコブは旅の途中で一夜を過ごすためにルズという所に来ました。寝ている時に、その頂きが天に達して地の上に立っている一つの梯子の夢を見ました。神の御使いたちが梯子を上り下りしていました。主はヤコブのそばに立って言いました。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが伏している地を、あなたと子孫とに与えよう。あなたの子孫はちりのように多くなって、西、東、北、南にひろがり、地の諸族はあなたと子孫とによって祝福をうけるであろう」(創世記28:13,14) これは神の約束でした。

ヤコブは目を覚まして言いました。「まことに主がこのところにおられるのに、わたしは知らなかった」そして恐れながら言いました。「これはなんという恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ」(創世記28:16,17)

## 4. ヤコブ、主の家を覚えた

朝早くヤコブは起きて、枕としていた石を立てて柱としました。それに油を注いでその所をベテルと名付けました。それは「神の家」という意味です。ヤコブは誓いを立てました。「神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」(創世記28:20-22)

このようにして神は祖父アブラハムと、父イサクと結ばれた契約を更にヤコブとも結びました。

## 5. ヤコブ、主の使いと争った

ヤコブは叔父ラバンの地におり家庭を築き20年後、年老いた父に会いに戻る途中でした。ヤコブはエサウが自分に会いに向かって来ていることを聞き、心に恐れを抱きました。兄の自分を殺すという誓いを覚えていたからです。家族を先に行かせて、ヤコブは後ろに留まりました。主の使いが夜明けまでヤコブと組打ちをしました。主の使いはヤコブが離そうとしないのを見て、ヤコブのもものつがいに触りました。筋肉が永久に縮まりびっこになりました。御使いは言いました。「夜が明けるからわたしを去らせてください」ヤコブは答えました。「わたしを祝福してくださらぬなら、あなたを去らせません」御使いは言いました。「あなたの名はなんと言いますか」「ヤコブです」御使いは言いました。「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争って勝ったからです」(創世記32:24-28)

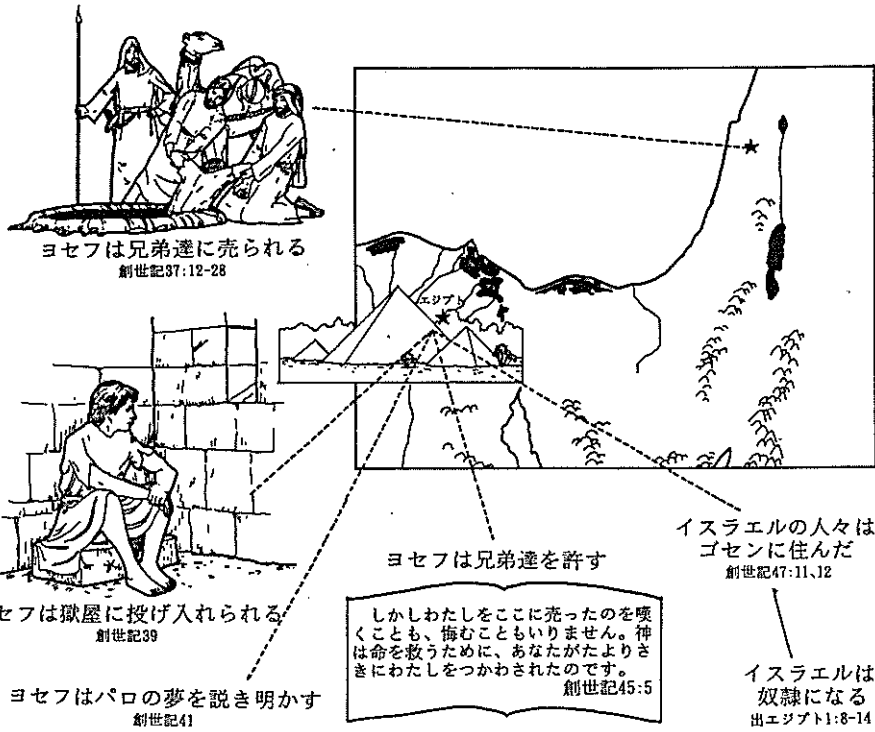
強い意志によりヤコブは望んだ祝福を受け、別人となってその場所を去りました。彼の以前の名ヤコブは「奪う者」という意味で、騙し、偽りを示唆するものでした。新しい名イスラエルは「神と争って勝った」という意味です。また肉体的な違いもありました。一歩踏み出す度にびっここの足は神の御使いと出会ったことを思い起こさせました。人が神の臨在にあって神の最高のものを受け取ると本当に決心した時には、奇跡的な変化が起こります。決して同じ人のままではありません!

# 選ばれた国民

ヤコブの息子達  
(イスラエルの12部族)

- ルベン
- シメオン
- レビ
- ユダ
- ゼブルン
- イッサカル
- ダン
- ガド
- アセル
- ナフタリ
- ヨセフ ← エフライム
- ← マナセ
- ベニヤミン

創世記48:5-6  
創世記49:3-27



## Ⅳ. ヨセフ

神はヤコブ（イスラエル）との契約を再度保証しました。ヤコブには12人の息子がいました。（創世記35:22-26）そのうちの一人ヨセフはヤコブの家族を守る者として神に選ばれました。（創世記45:5）

### 1. ヨセフ、エジプトへ売られる

ヨセフは主に対して敏感な心を持ち、高い道德観念のある人でした。兄弟たちは、父が他の誰よりもヨセフを愛しているのを見て、ヨセフを妬みました。しばらくして、ヨセフは他の兄弟たちと父母がヨセフを拝することを暗示する2つの夢を見ました。そのことでヨセフは以前にも増して兄弟に憎まれるようになりました。

ある日、ヨセフがヤコブに兄弟たちの様子を見てくるように遣わされた時、兄弟たちはヨセフを永久に追い出す機会を得ました。穴にヨセフを投げ入れた後、ミデアン人に20シケルで売りました。ミデアン人はヨセフをエジプトに連れて行き、パロの役人である自衛長ポテバルに売りました。

### 2. ヤコブ、騙される

ヨセフを売った後に、兄弟たちは山羊を取って来て殺し、ヨセフの着物をその血に浸しました。そして着物を父に持ち帰って尋ねました。「これはあなたの子の着物ですか」「わが子の着物だ」ヤコブは確認しました。「悪い獣が彼を食ったのだ。確かにヨセフはかみ裂かれたのだ」嘆いてヤコブは慰められるのを拒み、ヨセフのために泣き悲しみました。（創世記37:31-35）一方、良心的であり神を敬う人であるヨセフはポテバルの僕として最善を尽くしました。ヨセフには悲しみを抱いたり、落ち込んだりしても当然な、様々な理由がありました。しかしそうせずに、ヨセフは心から主人に仕えました。ポテバルは神がヨセフと共におり、彼がなすこと全て栄えるのを見ました。ついにポテバルは持ち物を全てヨセフの手に委ねました。ポテバルは自分の食べる物だけを心配すればよかったのです。全てはヨセフが管理したからです。



### 3. ヨセフへの誘惑

しかしヨセフへの試みはまだ終わった訳ではありませんでした。ポテパルの妻はヨセフを気に入り、毎日のように自分と不義を犯すよう誘惑しました。ヨセフは堅く彼女の誘いを拒みました。そしてある日、彼女のもとから逃げ去った時、彼女は手にヨセフの着物をつかんでいました。拒絶されたのを知り、ポテパルの妻はヨセフの着物を証拠として用い、彼女を犯そうとしたと偽りの非難をしました。ポテパルは激しく怒り、ヨセフを王の囚人をつなぐ獄屋に入れました。

美しい彫刻が偉大な彫刻家によって造られました。魂とその善悪の選択を表現しており、胸にハトを抱きしめ、へびに攻められている子供の像です。この象徴は誰にでも当てはまります。魂への誘惑に関する話は決して廃れることはありません。たとえそれがエジプトにおけるヨセフの話であろうと、現代の誰であろうと。

### 4. 獄屋でのヨセフ

獄屋においてもヨセフは正しい態度を取り続けました。憎しみを持つことを拒み、神に仕える機会を求めました。獄屋番は獄屋にいる全ての人と獄屋の管理をヨセフに任せました。獄屋でも神はヨセフを祝福し続け、御旨が成就する道を備えられました。以前はパロの給仕役と料理役の長としてそれぞれつかえていた二人の囚人がいました。その二人とも夢を見、ヨセフが夢の説き明かしをしました。ヨセフの説き明かしどおりに、給仕役の長は職に戻され、料理役の長は木に架けられました。

### 5. パロの下でのヨセフの昇格

2年後にパロは夢を見ました。そしてその夢を説き明かせる者がいませんでした。その時、給仕役はヨセフのことを思い出し、ヨセフがその夢を説き明かすことができるに違いないと王に言いました。パロはヨセフを呼び寄せました。ヨセフはエジプトに7年間の豊作の後、7年間の飢饉があるだろう、とその夢の重要性を語りました。パロはエジプトで第二の地位にヨセフを昇格させ、この30才のヘブル人ヨセフに7年の豊作の後に来る飢饉に備えて、食物を蓄える任務を与えました。(創世記41:46)

### 6. ヨセフの兄弟、エジプトに来る

エジプトに起こった飢饉は、ヨセフの家族が住むカナンの地にも及びました。ヤコブはエジプトに穀物があると聞きベニヤミン以外の息子たち全員を穀物を買うに行かせました。穀物を買う責任者はヨセフでした。丁度何年も前に夢で見たように、兄弟たちはヨセフの前に来てひれ伏しました。

兄弟たちであると知り、ヨセフは自分を隠して、父がまだ健在であるか、またなんとか父をエジプトへ連れて来る手立てはないかと模索しながら、荒々しく彼らに語りました。ヨセフは兄弟たちを回し者であると非難しました。兄弟たちがその非難を否定し、自分達は一人の人の息子であると言った時、ヨセフは彼らの内の一人シメオンを捕らえて無実の証拠として、一番若いベニヤミンを連れて戻って来るまで彼を捕らえました。

ヤコブはとても悩み、ベニヤミンも二度と戻って来なくなるのではないかと恐れ、行かせることを拒みました。しかし飢饉が更にひどくなり、ヨセフの命令に従う以外にはなくなりました。ユダがベニヤミンの身を請け負いました。そして彼らは再びエジプトへ出掛けました。

今度はベニヤミンを残す策をヨセフは講じました。それは各自の袋に代金を返し、ベニヤミンの袋に自分の銀の杯を入れておくことでした。彼らがヨセフの使いに引き止められ、ヨセフの元へと引き返した時、ヨセフはもはや自分が誰であるかを隠していらなくなりました。ヨセフは声を上げて泣き、言いました。「わたしはヨセフです。父はまだ生きながらえていますか」

### 7. ヨセフ、兄弟たちを許す

兄弟たちは困惑し、驚きのあまり答えることができませんでした。そしてヨセフこそ苦々しく、辛く、許せない理由がありましたが、言いました。「しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、憎むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです」(創世記45:5)

新約聖書が書かれる遥か前から、ヨセフはこの世で最も価値のある教えを学びました。「神は、神を愛するものたち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」(ローマ8:28) それは丁度、あとでヨセフがこう言ったことと重なります。「あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変わらせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました」(創世記50:20)

### 8. ヤコブと家族、ゴセンの地に住む

ヨセフは兄弟達に車と必要な物を与えました。彼らはカナンに帰り、父ヤコブを連れてエジプトに戻り、ゴセンの地に住みました。ヨセフが生き永らえている間、彼らは祝福、平和、豊かさを分け合い喜びました。

## 9. エジプトの奴隷としてのイスラエル

ヨセフの死後、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こりました。このパロはイスラエル人に対し脅威を感じるようになりました。彼らが数多く、強かったからです。万一戦いが起こった時に、エジプト人を追い出すために、敵に味方するのではないかと思いました。それを恐れてパロはイスラエルの上に監督を置いて奴隷としました。しかしエジプト人がイスラエル人（ヘブル人）を苦しめるにつれて、益々イスラエル人は増え広がりました。神はエジプトからの大いなる脱出、約束の地カナンへ戻るために、彼らに備えをしていました。

メモ： \_\_\_\_\_



## I. 出エジプト — 救いの計画

1. エジプトでの40年
  - a. モーセの誕生 出エジプト1:7-22, 2:2-10、ヘブル11:23
  - b. モーセの選択 出エジプト2:14、ヘブル11:24-29
2. ミデヤンでの40年 — モーセ
  - a. モーセの召命 出エジプト3:1-10
  - b. 神、御自身をモーセに立証する。 出エジプト4:1-9
3. モーセ — 救い出す者
  - a. パロの前でのモーセ — 10の災い 出エジプト7-11章
  - b. 過ぎ越し — 血による救い 出エジプト12:1-36、1コリント5:7
  - c. 紅海を通じたの救い 出エジプト14:13-31、1コリント10:1, 2, 13

## II. シナイでのイスラエル（律法の時代） 出エジプト19:20, 20:1-17

## III. 幕屋 — 人が神に近づく手段 出エジプト25:8

1. 幕屋の庭 出エジプト27:9-19

## IV. 犠牲の祭壇 出エジプト27:1-8

## V. 青銅の洗盤 出エジプト30:18-21

## VI. 聖所 出エジプト9:1, 2

1. 純金の燭台、 出エジプト25:31-40
2. 供えのパンの机 出エジプト25:23-30
3. 香の祭壇 出エジプト30:1-10

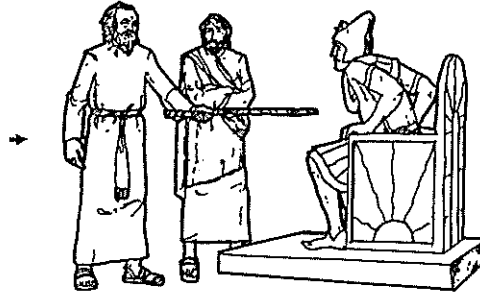
## VII. 至聖所（幕の向こう側） ヘブル9:3-5、出エジプト25:10-22

## VIII. 幕屋から十字架へ ヘブル9

# 出エジプト 救いの計画

わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し、これをかの地から導き上って、良い広い地、乳と蜜の流れる地、すなわちカナンびと、へてびと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとのおる所に至らせようとしている。  
出エジプト3:8

約束



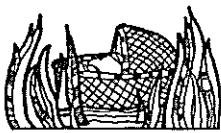
モーセ、パロより救う者

## 10の災い

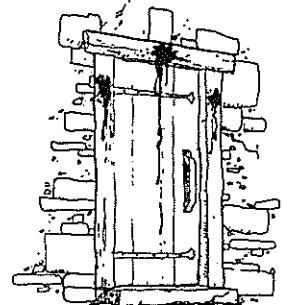
水が血に変わる  
かえる  
ぶよ  
あぶ  
エジプトの家畜がころされる  
うみ  
なご  
いなこ  
くらやみ  
エジプトびとのういごが殺される



モーセと燃える柴  
出エジプト3:1-10



モーセの誕生  
出エジプト2:2-10



扉の柱とかもいの血  
出エジプト12:1-36

紅海を渡る  
出エジプト14:13-31

## II. 出エジプト - 救いの計画

ヨセフの時代にイスラエルの子たちがエジプトに来てから、4世紀近く経ちました。

「けれどもイスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった。ここに、ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起こった」(出エジプト1:7-8) この新しい王はイスラエル人の上に厳しい監督を置き、田畑、漆喰こね、れんが作りなどの重い労役を課しました。第4課で学ぶイスラエル人のエジプト脱出は多くのことを象徴しています。というも奴隷の身からイスラエル人を救い出すことに、墮落した人間に対する神の救いの型があるからです。このようにエジプトからの脱出が型であることの根拠としてコリント人への第一の手紙10章1-11節を参照して下さい。

### I. エジプトでの40年

#### a. モーセの誕生

いつかヘブル人が反乱を起し、エジプト人に敵対するようになるのではないかとパロは恐れました。そこでパロは、ヘブル人の男の子が生まれた場合は全て殺すよう助産婦たちに命じました。

「しかし助産婦たちは神をおそれ、エジプトの王が彼らに命じたようにはせず、男の子を生かしておいた」(出エジプト1:17)

そこでパロはその全ての民に命じて言いました。「ヘブルびとに男の子が生まれたならば、みなナイル川に投げこめ。しかし女の子はみな生かしておけ」(出エジプト1:22)

モーセが生まれたとき、両親(ヨケベデとアムラム)は3カ月の間彼を隠しました。(ヘブル11:23、ヨケベデについては出エジプト6:20、民数記26:59 参照) これ以上家に隠しておけなくなった時、母ヨケベデはパピルスでか

ごを作り、樹脂とアスファルトを塗って水が入らないようにしました。ヨケベデは毎日、川沿いに生えている葦の茂みにモーセを隠しておきました。モーセの姉、ミリアムは岸からモーセを見守っていました。

ある日、パロの娘が沐浴しようと川辺に来た時、偶然、茂みの中にかごを見つけました。そのかごを持って来させ、中を見ると、モーセが泣いていました。パロの娘はこの小さな赤ん坊に哀れみを感じました。彼女は赤ん坊を連れて行き、宮殿で育てることを決めました。ミリアムはパロの娘に、子供に乳を与えるヘブル人の女を連れて来ることを提案しました。パロの娘は言いました。「この子を連れて行って、わたしに代わり乳を飲ませてください。わたしはその報酬をさしあげます」（出エジプト2:9）ヨケベデは赤ん坊を引き取って育て、我が子を育てるのに報酬を貰いました。「その子が成長したので、彼女はこれをパロの娘のところに連れて行った。そして彼はその子となった」（出エジプト2:10）（成長してパロの娘のところに連れて行くまで、ヨケベデはモーセを自分の家で育てていました）モーセの命を奪おうとした川が一方では、彼の救いとなりました。それは丁度、救いの計画に私たちが従うことにより、イエスが裁き主ではなく救い主となられるように。

## b. モーセの選択

モーセが成長したある日、同胞であるヘブル人の所に行くとき、一人のエジプト人がヘブル人を打っているのを見ました。モーセはそのエジプト人を殺して砂の中に隠しました。翌日、モーセは二人のヘブル人が争っているのを見て、二人の仲裁に入ろうとしました。彼らのうちの一人が言いました。「だれがあなたを立てて、われわれのつかさ、また裁判人としたのですか。エジプト人を殺したように、あなたはわたしを殺そうと思うのですか」（出エジプト2:14）神の御旨がなる時を待たずにモーセはヘブル人の指導者になろうとしましたが、彼らに受け入れられませんでした。この時点のモーセはまだ、晩年に成し遂げたような働きをする心の準備ができていませんでした。（ヘブル11:23-29）

## 2. ミデヤンでの40年 - モーセ

あのエジプト人を殺した噂が広まっているのに気づき、モーセはパロの報復を恐れて、ミデヤンの地に逃れました。そこでミデヤン人の祭司リウエルの娘チッポラと出会い、彼女と結婚しました。

### a. モーセの召命

ある日、羊の番をしている時、モーセはしばが燃えているのを見ました。モーセが近寄って見ると、驚いたことにしばは燃えているのになくなっていませんでした。神はしばの中からモーセを呼び、モーセに生涯の使命を与えました。わたしはヘブル人の泣き叫びを聞いたので、おまえを使って彼らを奴隷状態から解放し、約束の地に導き入れよう、と神はモーセ語りました。

### b. 神、御自身をモーセに立証する

モーセは自分がその使命を行えるかどうか疑いを持ちました。そこで神はモーセが手にしていた杖を地に投げさせました。言われた通りにすると、杖はへびに変わりました。そしてそのしっぽを取らせると、再び杖に変わりました。次に神は手をモーセのふところに入れるよう命じました。その通りに手を入れて、出してみるとらい病で真っ白になっていました。再びふところに手を入れるように命じました。モーセがそのようにして手を出すと、今度は癒されていました。このようにして神は、待ち受けるどんな状況にあっても常にモーセ勝利を得させることを示しました。同じように今日、クリスチャンは、悪魔と世と肉の思いに対する神の勝利を知り、完全に主に信頼することができるはずです。

## 3. モーセ - 救い出す者

### a. パロの前でのモーセ - 10の災い

主の言葉に従ってエジプトに戻ったモーセは、パロに、神が言われたことを告げました。「わたしの民を去らせなさい」パロはヘブル人を奴隷としてとどめておきたかったので、神の御旨に従いませんでした。10の災いという形で災害がエジプトに起こりました。エジプト人が礼拝していたものは、カエル、牛、太陽、ナイル川、自然でした。そして神は御自分の大いなる力を示すために、彼らが礼拝していたものを用いて災いを起こしました。初めの9つの災いでは、それが起こる度にパロはイスラエルの人々に去る許可を与えますが、後になるといつも心を翻しました。このようにして最後の最も恐ろしい災いの準備がされていきました。

### b. 過ぎ越し - 血による救い

主はモーセに命じて、会衆に語り、それぞれの家庭での一才の傷のない雄の小羊を一頭用意するように命じました。そしてその小羊をほふり、家の二つの柱とかもいに血を塗るように人々に指示しました。それからは小羊を火で焼いて、夜に種入れぬパンと苦菜と共に食べるようになっていました。彼らは靴を履き、腰当てを着け、手に杖を取って、

急いで食べなければなりません。なぜならその時がエジプトを去る時だったからです。

真夜中に主はエジプト中を巡り、全ての家の初子を殺しました。ただし戸の柱に血のついているヘブル人の家々は神が過ぎ越されたので、その家の中にいた人々は無事でした。

現在の救いは、神の小羊であるイエス・キリストによるものです。「わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ」(1コリント5:7) 福音に従うことによってイエスの血がわたしたちに付けられなければなりません。エジプトで主が戸の柱に血を見出さなければ、瞬時に殺されました。全き小羊の血は、霊的に奴隷状態にある者を救う「神の小羊」であるイエスの血を、象徴しています。

### c. 紅海を通じての救い

ついにパロはヘブル人に去る許可を与えました。主はヘブル人を、夜は火の柱、昼は雲の柱をもってエジプトから導き出しました。(出エジプト13:21) 人々がエジプトを去ってから、パロは再び心を翻し、彼らの後を追わせようと軍隊を送りました。神はイスラエル人を紅海へと導きました。パロの戦車が近づいて来るのを見た時、イスラエル人はモーセに向かって泣き叫びました。モーセは彼らに言いました。「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう」(出エジプト14:13) モーセが杖を上げると、主は一晚中強い東風をもって海を退かせ、海を陸地とし、水を分けました。(出エジプト14:21) 水は両側に壁のようになり、人々は海中の乾いた地を奇跡的に渡ることができました。どんな状況にあっても、常に主は神の民が逃れる道を作って下さいます。

(1コリント10:18) エジプト人が後を追いましたが、ヘブル人が渡り終えるとすぐに、主はモーセに手を紅海に差し伸べさせました。水がエジプト人の上に流れ返り、全員が溺れてしまいました。「イスラエルはエジプトびとが海べに死んでいるのを見た」(出エジプト14:30) 救いとは、キリストにより、人を罪から救い出し、本来あるべき姿に立ち返らせ、神の子にするというプロセス全体を指します。

ある光景を見てみましょう： 家が燃えています。その家にはストラディヴァリウスのバイオリンが一つあります。その価値あるバイオリンが燃えている家にあるのを知った一人の音楽愛好家が、大きな危険を冒して飛び込み、バイオリンを救う。それが救いです。しかしバイオリンは熱で痛んでいました。それでその愛好家は痛んだバイオリンを専門の名工のところを持って行きます。名工はそのバイオリンが価値あるものだと知っていますから、修理します。こうしてバイオリンは火から救い出され、痛んだ箇所が修理されました。著名なバイオリニストがそのバイオリンを手にして、奏でると、バイオリンの音は私達の心に語りかけてきます。それが救いです。危機から救われ、修理され、創作した人が設計したように機能することができて、バイオリンの完全な救いとなります。

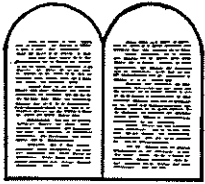
イエス・キリストは私たちが罪や死から救い出します。イエスは私たちの魂を元の状態に戻させ、心に新しい歌を与えてくれます。

型ということで考えると、エジプトは奴隷状態や罪を象徴しています。紅海はバプテスマの型です。「わたしたちの先祖はみな～雲の中、海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた」(1コリント10:1-12) 次の課では、約束の地に入ることが、神の約束を受ける型となっていることを学びます。約束の地に入る前には戦うべき戦い、立ち向かうべき巨人、打ち壊されるべき城壁がありました。このように再び私達は神の救いの計画を見ます。すなわち悔い改め(エジプトを去ること)、バプテスマ(紅海を渡ること)、そして神の約束に入ることです。

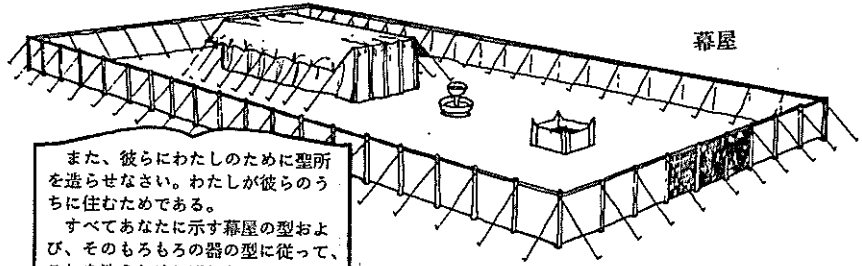
メモ：

# シナイでのイスラエル

## 律法の時代

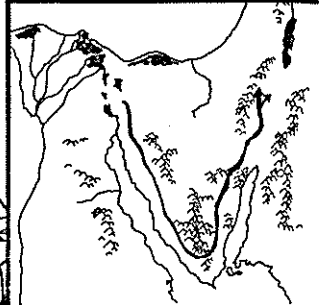


10の戒めが与えられる  
出エジプト20:1-17



また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。すべてあなたに示す幕屋の型および、そのもろもろの器の型に従って、これを造らなければならない。  
出エジプト25:8-9

40年間  
荒野を  
さまよう



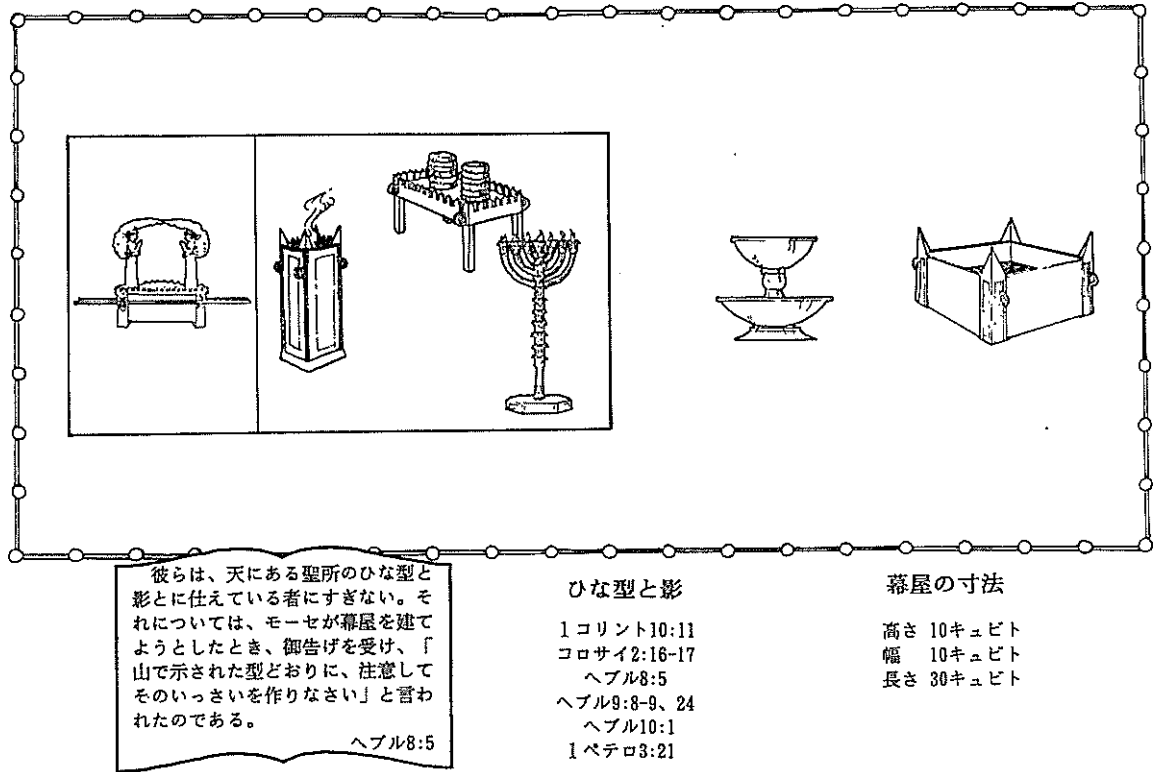
## II. シナイでのイスラエル

モーセはイスラエルの人々を紅海からシナイの荒野へと導きました。メラに到着した時、その水は苦くて飲めませんでした。人々はモーセに向かってつぶやきました。神が示された木をモーセが切り水の中に投げ入れると、水は甘くなりました。人生は苦いものかもしれませんが、イエスはどんな人生も甘いものにすることができる木です。エジプトから逃れ、旅をして3カ月目、彼らはシナイ山に着きました。彼らはここに一年間停まりました。このシナイ山での出来事は、イスラエル国史の第一歩を記すものです。神がアブラハムとかわし、後にイサクやヤコブともかわした一つの国に関する契約は、国民全体の契約となりました。

シナイ山で、神はモーセに儀礼的律法や市民に関する律法と共に、十戒（道徳的律法）を与えられました。十戒はイエスが定めの時に来られる時まで、イスラエルの人々が従って歩むべき律法の基盤となっています。パウロはこう言っています。「このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである」（ガラテヤ3:24）律法は罪を明らかにし、神の霊が人の心に住まわれることなしに聖く生きることはできないということを描きました。また、モーセは幕屋の設計案を神に与えられました。幕屋はイスラエルの人々の中に神の霊が宿った場所です。

# 幕屋

## 人が神に近づく手段



### Ⅲ. 幕屋 - 人が神に近づく手段(儀礼的律法)

シナイ山で、主はモーセに幕屋の計画を授けました。モーセは幕屋を建てる際に神の指示に忠実に従うよう命じました。(出エジプト25:1-9) 幕屋は荒野における礼拝の場というだけのものではありませんでした。幕屋の型と配置は、イエスのあがないの働きと、現在の教会時代の救いの計画の影となっていました。

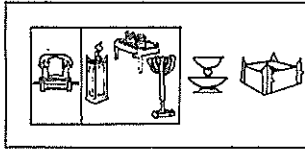
#### 1. 幕屋の庭

幕屋の庭は奥行き約45.7m、幅22.9mでした。東側に門が一つありました。白糸、青糸、紫糸、緋糸の4つの糸で織られた幕をかけるものを支える4つの側柱がありました。幕屋の庭への入り口は一つだけでした。同様に私たちが救いに至る道も一つだけです。(ヨハネ10:9)

庭の中には青銅の祭壇、青銅の洗盤、幕屋がありました。幕屋の大きさは、高さ約4.6 m、幅4.6 m、奥行き13.7 mで、聖所と至聖所とからなっていました。この二つの部屋は青糸、紫糸、緋糸、亜麻のより糸で織られた幕で仕切られました。至聖所の贖罪所(Mercy Seat-あわれみの座)と呼ばれる証しの箱の蓋につけられた金のケルビムの間に神の霊がとどまりました。もちろん神は遍在であり、どこにでもおられる方なので、ここに神の全存在があったという訳ではありません。アダム時代から常に、神は御自分の民と一緒にいることを望んで来られました。しかし罪のために人はいつも神から遠い存在でした。キリストの十字架から50日後のペンテコステの日以来、神は現実、素晴らしい方法で御自分の民の心に住みました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることをしらないのか」(1コリント3:16)



# 犠牲の祭壇

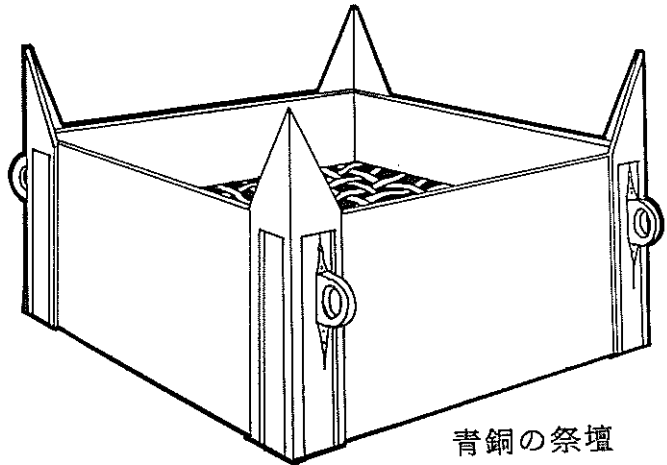


祭司は罪の為の犠牲を捧げた青銅の祭壇を経て幕屋に近づいた。

肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上であがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命でいるゆえに、あがなうことができるからである。  
レビ17:11

イエス・キリストは私たちの完全な犠牲となった

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」  
ヨハネ1:29



青銅の祭壇

犠牲の場所  
死  
流血

## IV. 犠牲の祭壇

祭司はまず青銅の祭壇によって幕屋に近づきます。この青銅の祭壇で祭司は罪の為の犠牲を捧げました。青銅の祭壇は奥行きと幅が共に約2.5m、高さ約1.5mで、青銅で覆われたアカシヤの木で作られていました。この祭壇は死の場所であり、血が流される場所でした。悔い改めによって人は神に近づきます。イエスは言いました。「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」(ルカ13:8)

幕屋と幕屋での礼拝に関わる祭壇の特徴に注意して下さい。祭壇は幕屋の庭の入口正面に設けられていました。主へ犠牲を捧げようとする者が、庭に入って最初に目にするものが祭壇でした。祭壇は庭の奥の方に置かれていたり、外から見えないようにされていたり、祭司以外は入れない聖所の中に置かれていたのでもありませんでした。全ての者が目にし、近寄れる場所にありました。聖所の純金の燭台や種入れぬパンの机、香の祭壇を見ることは祭司にしか許されていませんでした。また至聖所へは大祭司だけが、贖いの日に入ることができました。庭にある青銅の祭壇は隠されていませんでしたし、人が近寄ることができました。外からもはっきりと見えました。そして動物の犠牲の血が捧げられたこの祭壇の聖なるしるしである血がつけられなければ、だれも死を免れずに聖所に入ることはできませんでした。このことは、イエスを知っている全ての人が天国に入るのではなく、全ての人の犠牲の祭壇であるイエスの血に覆われた者だけが入れられるのだということを教えています。(ヨハネ14:6)

礼拝者が聖所へ近づくには、すなわち罪が取り除かれるには、祭壇だけではなく、犠牲もなくはなりません。たとえ祭司であろうと、レビ人であろうと、イスラエルの民であろうと、どの立場の者であってもです。青銅の祭壇と他のあらゆる幕屋の部分や道具などとの関係を見ますと、木は根に、体は心臓に、建物は土台に依存するように、幕屋にある全てのものは、幕屋への入口正面にあった洗盤さえも、祭壇での働きが不可欠でした。

青銅の祭壇や他の部分での働きがなければ、それ以外のものが各々どんなに素晴らしいものであっても、全く役に立ちません。全てのものは祭壇を経て神に近づかなければなりません。ヘブル13章10節の「わたしたちには一つの祭壇がある」というのはイエスのことを指します。主イエスご自身もこのように言いました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」このことから道であるキリストの祭壇としての働きを見てみましょう。祭壇(キ

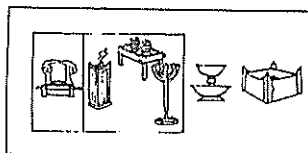
リスト)だけでなく、そこで流された血(イエスの血)が不可欠でした。ヘブル9章19-21節に犠牲の血の力が書かれています。全ての祭司、彼らの衣服、聖なる器など、全てのものは祭壇で流された血がつけられて清められなければ、礼拝に用いることはできませんでした。

これがカルバリでのキリスト十字架のことなのです。十字架でのイエスの犠牲がなければ、許しも、義も、平和も、恵みも、祝福も、救いもありません。幕屋において青銅の祭壇での働きがなければ、洗盤で洗うということもありません。青銅の祭壇はイエスの流された血と死を象徴します。死(悔い改め)がなければ埋葬(バプテスマ)もなく、血が流されることなしには罪の許しはありません。(ヘブル9:22) 罪人はイエスと共に死にあずかるバプテスマで埋葬され、青銅の祭壇の犠牲が証した血、すなわち命をイエスの御名に見いだします。(ローマ6:3)

祭壇の火は「燃え続け、消してはならない」ものでした。(レビ6:13) 罪人がカルバリでの贖いを見いだせないということは、昼も夜も、一時たりともないのです。

メモ : \_\_\_\_\_

## 青銅の洗盤

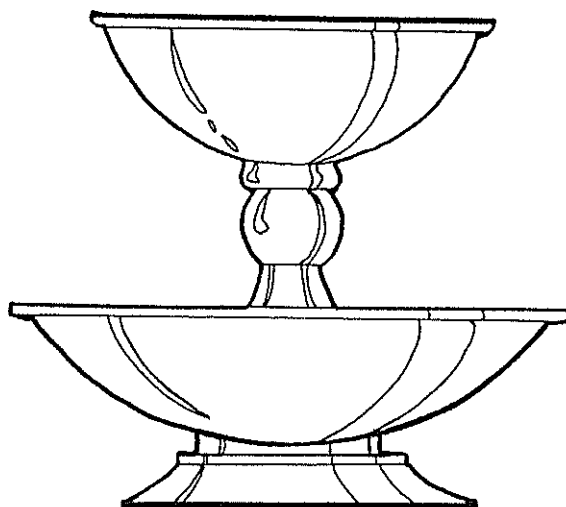


祭司は祭壇で仕える前、  
または幕屋に入る前には  
洗盤で清めなければならない。

彼らは会見の幕屋にはいる時、水で  
洗って、死なないようにしなければなら  
ない。また祭壇に近づいて、その務  
めをなし、火祭を主にささげる時にも、  
そうしなければならない。  
出エジプト記30:20

洗礼が罪からの洗いと  
清めであるように、洗盤  
は洗い清める所であった。

そこで今、なんのためらうことがあ  
ろうか。すぐ立って、み名をと覚えて  
バプテスマを受け、あなたの罪を洗い  
落としなさい。  
使徒行伝22:16



青銅の洗盤

清めの場所

### V. 青銅の洗盤

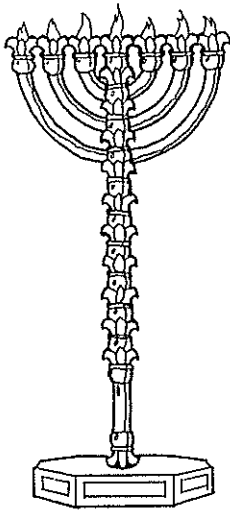
幕屋の入り口の手前には、祭司が手や足を洗うための青銅の洗盤がありました。神は「彼らが死なないように」洗うよう命じました（出エジプト 30:21）。はじめて祭司職につくとき、彼らは体を完全に洗い清めました。青銅の洗盤は水のバプテスマにおけるはじめの罪の洗い清め（使徒行伝 2:38）と、その後の継続した清め（Iヨハネ 1:7）を指し示しています。わたしたちが洗礼（バプテスマ）を受けるとき、神はわたしたちの罪を洗い流して下さいます（使徒行伝 22:16）。イエスは言いました。「信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。」（マルコ 16:16）「この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたを救うのである」（Iペテロ 3:21）「しかし、あなたがたは、主イエス・キリストの名によって、またわたしたちの神の霊によって、洗われ、きよめられ、義とされたのである」（Iコリント 6:11）。（出エジプト 30:18-21 も参照）

「あなたはまた洗うために洗盤と、その台を青銅で造り、それを会見の幕屋と祭壇との間に置いて、その中に水を入れ、アロンとその子たちは、それで手と足を洗わなければならない。彼らは会見の幕屋にはいる時、水で洗って、死なないようにしなければならない。また祭壇に近づいて、その務めをなし、火祭を主にささげる時にも、そうしなければならない」（出エジプト 30:18-20）洗盤は犠牲という「死」が求められる青銅の祭壇と、祭司が仕え、イスラエルの主が彼らと出会う場所である幕屋との間に置かれていました。（出エジプト 40:30）

新約の救いの経験では、悔い改め、すなわちキリストと共に死ぬこと、つまり、罪に死ぬことが第一に来ます。そしてその次に水の洗礼（バプテスマ）が来ます。水のバプテスマとは、洗うこと、すなわち、キリストと共に葬られるということです（ローマ 6:3-4）。

# 聖所

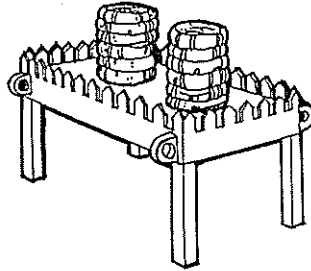
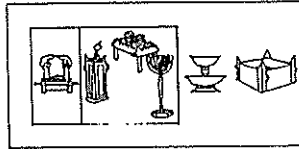
(礼拝の場所)



純金の燭台

幕屋の内の唯一の光

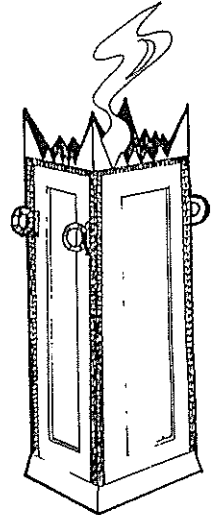
わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつてあろう。  
ヨハネ8:12



供えのパンの机

祭司の日々の糧

わたしは天から下ってきたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。  
ヨハネ6:51



香の祭壇

火は犠牲の祭壇により来た  
祭壇は幕の前に置かれた  
日々の祈りと  
賛美の場所

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光りに招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。  
1ペテロ2:9

## VI. 聖所

聖所には、金の燭台、香の祭壇、供えのパンの机がありました。これら3つのものはイエス・キリストを指し示し、わたしたちのうちに宿る聖霊を通してあらわれる、わたしたちのキリストにある人生を指し示しています。

### 1. 金の燭台

金の燭台は純金で造られ、支柱から上に7本の枝が出ていました。燭台は幕屋の唯一の明りでした。それはイエスを指し示しています。イエスはまことの光です。この燭台が金を打ちのべて造られたように、キリストも打たれ、わたしたちがイエスという光を得ることが出来るようにして下さったのです。祭司は、その祭司としての務めを果たすために幕屋の中で明りを必要としました。それはちょうどわたしたちが、真の礼拝をするために聖霊の光に導かれなければならないのと同じです(出エジプト 25:31-40)。

### 2. 供えのパンの机

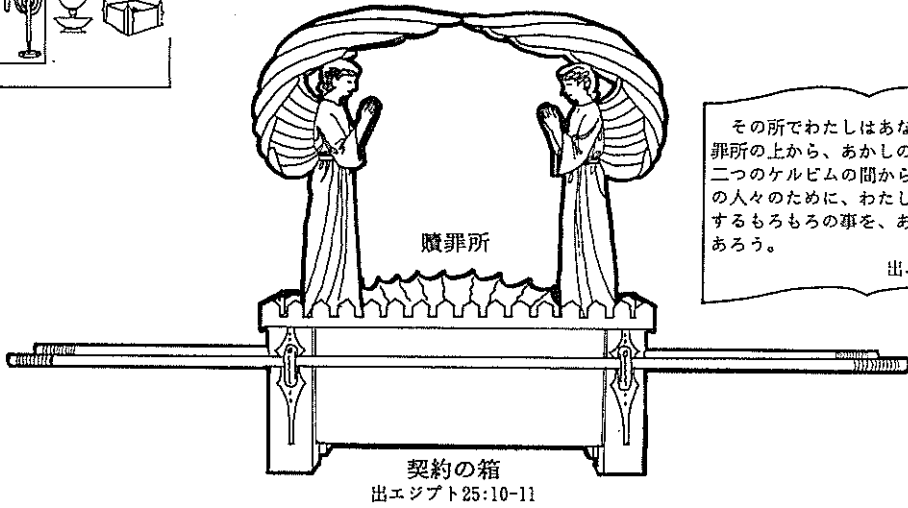
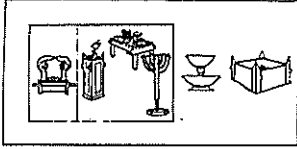
供えのパンの机は、幅約45cm、長さ約90cm、高さ約67cmありました。この机はアカシヤの木で造られており、純金で覆われていました。供えのパンの机の上には大祭司とその息子たちが聖所で食べる種を入れないパンが12個置かれていました。この供えのパンは祭司が生活のために食べるようになっていました。この供えのパンはイエスを指し示しています。イエスはいのちのパンです。また、この供えのパンはイエスの言葉を指し示しています。イエスの言葉は魂の糧です。この机がパンを供えていたように、クリスチャンの人生は滅びゆくこの世にイエス・キリストを示しています(出エジプト 25:23-30 参照)。

### 3. 香の祭壇

香の祭壇もアカシヤの木で出来ており、金で覆われていました。香の祭壇は神への祈りを象徴しています(黙示録 5:8)。香は毎日朝と晩に神に捧げられました。それと同じように、わたしたちも毎日祈るべきです。香に火がつくとき、香の薫

りが立ちのぼりました。同じように、神は義人の「熱心な祈りを」聞かれます（ヤコブ 5:16）。香の祭壇の火は、犠牲を捧げる青銅の祭壇からとられました。このことは、真実の祈りと賛美（礼拝）の前には罪と自分に対しての死が必要であることをあらわしています。香の祭壇は至聖所と聖所を分けていた幕の前に置かれていました。祈りはわたしたちを神の臨在の中に導いていく、素晴らしい経験です。

# 至聖所 (ベールの向こう側)

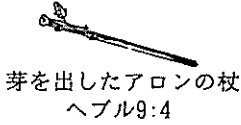


その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人々のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう。  
出エジプト25:22

契約の箱  
出エジプト25:10-11

青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚り糸の幕 出エジプト36:35      幕 — 主の体      ヘブル10:20

## 箱の中

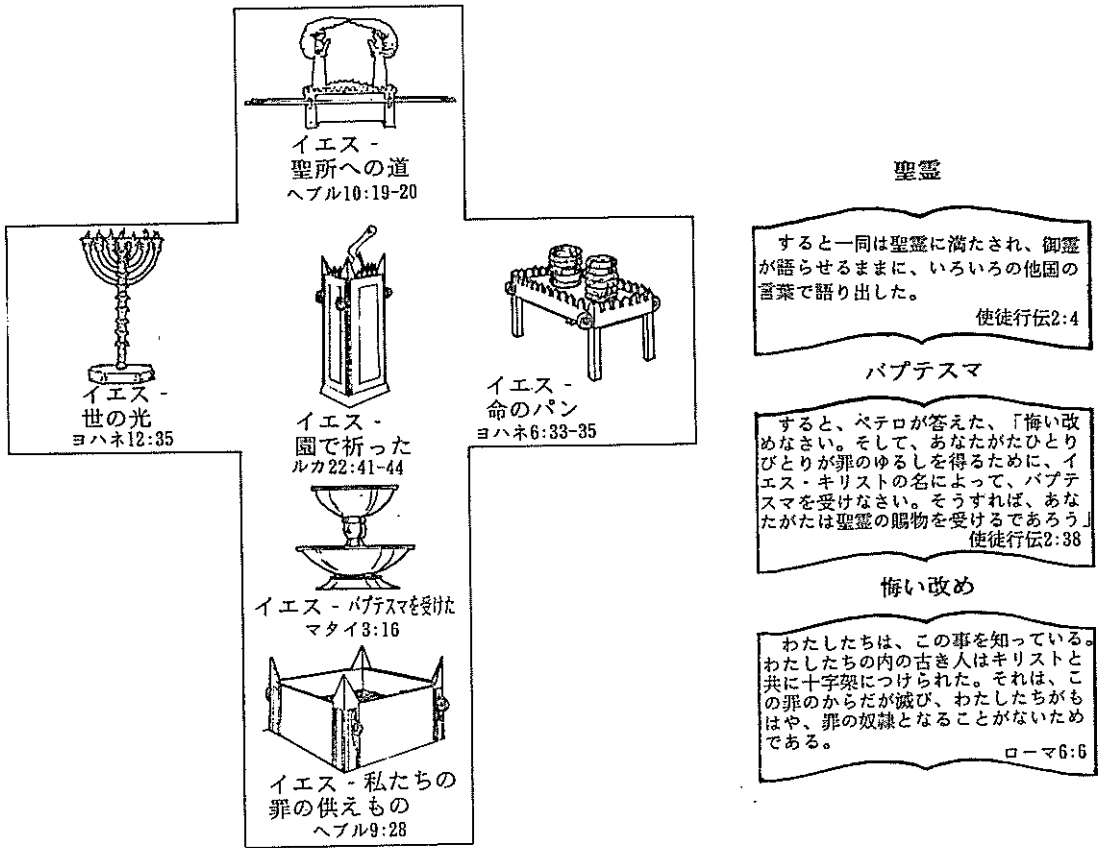


## VII. 至聖所

聖所の西側にある幕の後ろは、神の住まれる場所である至聖所でした。至聖所には証しの箱があり、中には芽の出たアロンの杖、石の板（十戒）、マナの入った金の壺が納められていました。

芽の出た杖は、命の奇跡を示すキリストの型でした。アロンの枯れている杖から生きている芽とあめんどうの花が出ました。（民数記17:8） マナの入った金の壺は、荒野での旅の間、神の民の必要を奇跡をもって満たした神の力を覚えておくためでした。石の板に書かれた律法は、イスラエルの民に神の導きを与えました。証しの箱の上には純金の贖罪所（Mercy Seat—あわれみの座）がありました。贖罪所に全き犠牲の血が付けられました。これはキリストの死の贖いの働きを象徴しています。「～ただ神のあわれみによって、～わたしたちは救われたのである」（テトス3:5） 哀れみは人々への神の御座でした。幕屋はイスラエルの部族の陣営にありました。同様に神、教会、そして神の意志は私たちの中心にあるべきです。イスラエル人が旅をしていた時、証しの箱は人々に先立って運ばれることになっていました。それは丁度、私たちが神と共に歩む時、主の僕に従って行くのと同じです。イエスの死で、神殿の幕は上から下へ真っ二つに裂け、全ての者が神の御座に近づく事ができるようになりました。裂けた幕は二つのことを象徴しています。人を神の臨在へと導いたことと、神の栄光が人に現されたことです。

# 幕屋から十字架へ



## Ⅲ. 幕屋から十字架へ

使徒パウロは自分の手紙の中で何度も教会にキリストの力やキリストの十字架のことを思い起こさせます。ガラテヤ人への手紙6章14節にもこうあります。「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」パウロは十字架の力を知っていました。彼はヘブル人への手紙7章19節でこのように言っています。「律法は、何事をも全うし得なかったからである。他方では、さらにすぐれた望みが現れてきて、わたしたちを神に近づけさせるのである」再びガラテヤ人への手紙3章24節でこう言っています。「このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れていく養育掛となったのである」使徒パウロは律法の務めと目的を知っていました。山でモーセに示されたものは、主によって与えられた型によりモーセの手本となるべきものでした。そして、モーセが建てた全てのものや、行った全てのことはイスラエルの人々にやがて来られる一人の方イエスを示すものであることを、パウロは知っていました。

預言者たちは聖霊によって未来を見、キリストの苦難、十字架、それに続く栄光を見ることが出来ました。(1ペテロ1:10-12) イザヤ9章6節でイザヤはキリストの誕生について詳細に記述しています。イザヤ53章ではキリストが拒絶されることが書かれています。そしてこれらイザヤが語っていることと、律法が無言の形で表しているものとは一致しなければなりません。モーセが荒野で建てた幕屋が表していたことの一つは十字架でした。

幕屋の庭には青銅の祭壇があり、祭司が聖所に近づこうとする時、まず最初に来る場所です。次に祭壇と幕屋の入り口との間に、青銅の洗盤があります。聖所に入ると片側に7つの枝のついた純金の燭台があります。純金の燭台の向かいには供えのパンの机があり、これらの奥の至聖所との隔ての幕の正面には、香をたく金で覆われた祭壇があります。

庭と幕屋にある道具を見てみましょう。全てのものが死を証ししています。つまり、祭壇での死です。救いについて言えば、祭壇で人は罪に死ぬからです。青銅の洗盤で、人はキリストと共に死にあずかるバプテスマを受け、埋葬されます。純金の燭台は幕屋内の唯一の明かりですが、それすらも死を意味します。私たちの慣習や不信仰を葬り去

る神の言葉の上に輝く光だったからです。神の言葉を表す供えのパンの机も死を示します。なぜなら、パウロも「文字（言葉）は人を殺す」と言っているからです。そして、香の祭壇（祈りの型。詩篇141:2）も死を示します。人が祈りを通して神に近づく時、人は自分と肉に死ななければならないからです。

律法は人をキリストに連れて来る養育樹であり、(地上における教会の救いだけでなく) 天にあるものの雛型であるということを念頭に入れておきましょう。（ヘブル9:23-24）幕屋とその計画は天のことを教える為に与えられたものです。

メモ： \_\_\_\_\_





## I. 約束の地

1. 土地を所有する
  - a. モーセの死 申命記34
  - b. ヨルダン川横断 ヨシュア4:20-24
  - c. 土地を得るための戦い ヨシュア14

## II. 王国

1. イスラエルは王を求めた。 サムエル上8:4-5
2. 3人の王
  - a. サウル 1サムエル10:1
  - b. ダビデ 1サムエル16:13
    - 1) ダビデ、ゴリアテを殺す。 サムエル上17
    - 2) ダビデの苦難と勝利 サムエル上18
  - c. ソロモン 列王記上1:34
    - 1) ソロモンの失敗 列王記上11:1-13
    - 2) ソロモン、神の宮を建てる。 列王記上5

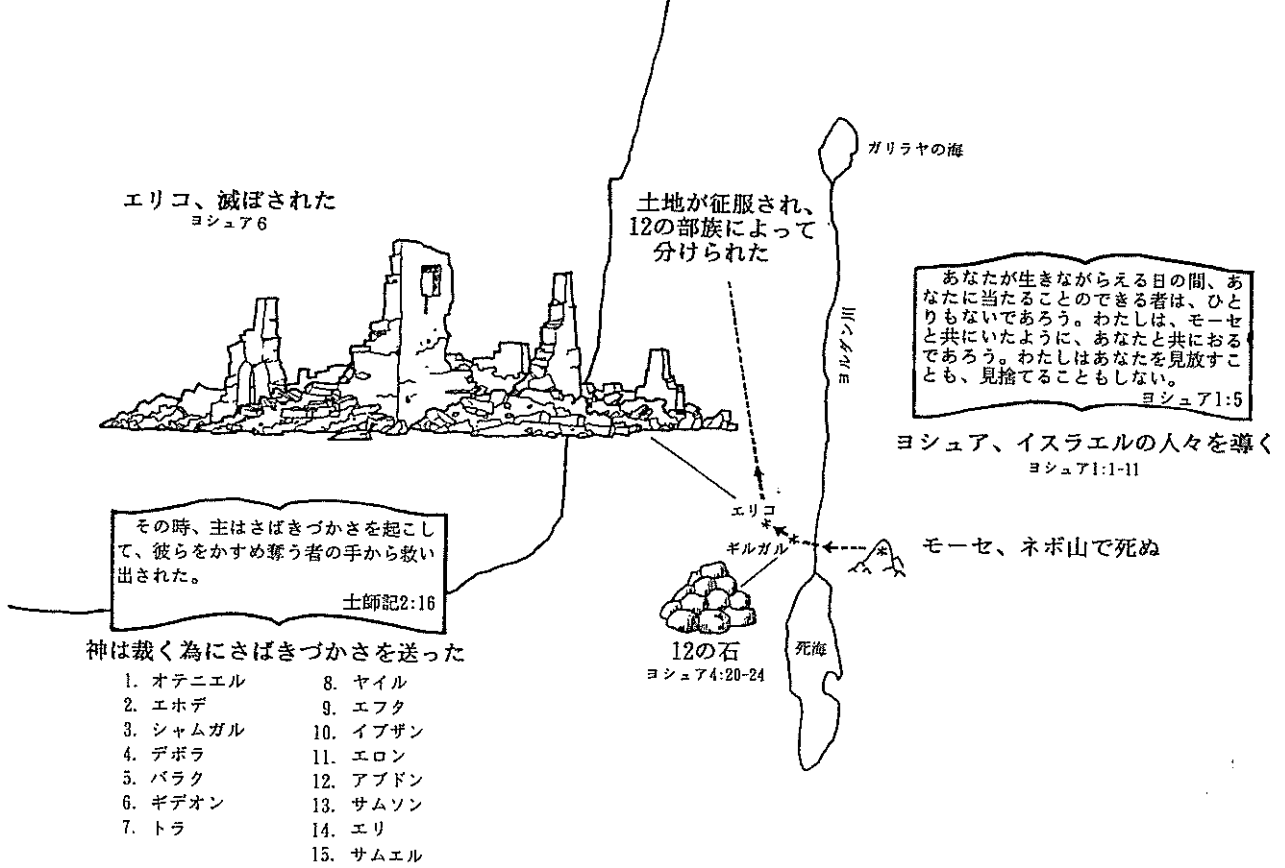
## III. 分裂した王国

1. 北王国 列王記上12-16
2. 南王国 列王記下25
3. 終末の預言 エレミヤ25:11, 12

## IV. エルサレムへの帰還

1. 妨害 ネヘミヤ4
2. 預言者と復興のメッセージ ハガイ1
3. 旧約聖書終了

# 約束の地



## 1. 約束の地

### 1. 約束の地を得る

#### a. モーセの死 (申命記34)

不信仰のために、イスラエルの人々は神の裁きを受けました。この裁きで彼らは、40年間、荒野をさまようことになりました。神が約束の地をイスラエルに与えることを信じなかった者は荒野で死にました。不信仰な世代の人々の中であってその裁きを逃れることができたのは、ヨシュアとカレブの2人だけでした。神の言葉への彼らの信仰により彼らは死を免れ、約束の地へ安全に入りました。彼らは神に信頼し、自分の知識に頼りませんでした。エジプトを出たとき20才以上だった者のうちで生き残ったのは、ヨシュアとカレブの2人だけでした。神の言葉は真実であり、神にはご自分の計画を成就する力があります。

イスラエルの彷徨の後半、神はモーセに岩に命じるようにと言いました。神はイスラエルの人々が求めている水を与えることを約束したからです。しかしモーセは神の言葉に従わず、怒って岩を叩きました。それでも哀れみ深い神は、岩から水を吹き出させました。しかし神の言葉に従わなかったため、モーセは約束の地に入ることができませんでした。(民数記20:7-12 参照) モーセはピスガの頂から約束の地を臨み見ました。そしてそこでモーセは死に、主によって埋葬されました。ヨシュアが後を引き継いで指導者となり、イスラエルの民を約束の地へ導きました。

#### b. ヨルダン川横断

祭司の足がヨルダン川に入ると同時に、水が分かれました。祭司はヨルダン川の中程に行き、イスラエルの民が対岸へ渡り終えるまで、そこに立っていました。12人の人が石を取り、神への記念としてヨルダン川に置きました。(ヨシュア4:9) またヨルダン川から12の石を取り神へのもう1つの記念としてギルガルに積み上げました。(ヨシュア

4:20) これは神がどのようなことをされたのかを次の世代に伝える記念碑でした。(ヨシュア3,4) 神が与えて下さった大いなる救いを繰り返し思い出すことは、子供、家族、友人、だれにとっても良いことです。

思い出を「心の宝石箱」と表現している人がいます。思い出が美しく、真実であり、良いものであったとしたら、その表現は当たっていると思います。醜いものは宝石箱に相応しくありません。間違った行い、不親切な言葉、悪い考えを覚えていても、幸福な未来は訪れません。今日の行動が、将来の大切な思い出となるよう生きることが大切です。使徒パウロの言葉には深い意味があります。「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい」(ピリピ4:8)

ヘブル人は約束の地に入りました。そのことは私たちが神の約束を手にするための型となっています。戦い、試練、山上での経験、谷(苦難)は霊的に生き、成長していくのに伴うものです。イスラエルはエジプト(罪の奴隷の型)から救い出されました。イスラエルの40年のさすらいの旅は、神の約束を信じて行動しなかった結果の型です。不信仰により荒野で何千という人々が死にました。今日なお、何万という人々が、暗い不信仰の荒野をさまよっています。イスラエルの古い世代は(2人の信じた者を除いて)不信仰のために、荒野で死にました。そして、彼らの子孫がヨシュアと共に約束の地に入りました。

### c. 土地を得るための戦い

約束された祝福は、イスラエルの民が主を信じて従い、土地を得れば、彼らのものです。イスラエルの民はカナンの地のために戦わなければなりません。しかし、彼らが神を信じて従ったとき、神が自ら、彼らのために戦いました。神は奇跡をもってイスラエルに勝利を授けました。大勢のイスラエルの民が自分たちの城壁の回りを行進しているのを見たときのエリコの住民(ヨシュア6)の混乱ぶりを想像してみてください。6日間イスラエルの民は1日1度町の回りを行進しました。7日目に彼らは町を7回回りました。7日目の7回目の行進の後で、イスラエルの民が叫ぶと城壁が崩れ落ちました。神はイスラエルに大勝利を授けました。エリコの周りを回することは愚かに思えるかもしれませんが、神は知者はずかしめるためにこの世の愚かなことを用います。主に従い、信仰を鍛えるということの大切さをいつも覚えておいて下さい。そうすれば勝利がそれに続きます。(ヘブル11:30)

次にイスラエルの人々はアイ(ヨシュア7)と戦いましたが宿営に罪があったので敗北しました。神はイスラエル人にエリコから銀、金、銅、鉄、衣服など何も取るなど命じていました。この町での戦利品は初収穫であり、全て神に属するものでした。エリコでの勝利に得意になり、人々はアイに2,3千人だけを送ることに決めました。宿営に罪があったのでイスラエル人はアイに敗北しました。ヨシュアに隠れてアカンは禁じられた戦利品を取り、自分の天幕内の地中に隠しました。この罪により神の裁きが下されました。兵士たちはアイでの敗北から戻り、何が悪かったのだろうかと考えました。アカンの罪が明らかになり、神の裁きにより彼と家族は滅ぼされました。(ヨシュア7:24-26)

罪は神の目的である勝利ある人生を打ち砕きます。人は内に住まれる神の霊なしには罪と戦う力はありません。勝利、力、喜び、平和は聖霊によってのみ見い出されます。

### d. 征服された土地

町から町へ、村から村へイスラエル軍は約束の地を得るために戦い続けました。北から南へ、東から西へ、彼らはそれぞれに勝利を得ました。ヨシュアは偉大なリーダーでした。彼は絶えず人々を前にある勝利へと促しました。

神の力により、イスラエルは土地を征服し、12部族がそれぞれ自分の領地に住めるように土地が分割されました。(ヨシュア14) 長い務めを終えてヨシュアが死んだのはこの頃でした。(ヨシュア24) ヨシュアの後を継ぐ者はいませんでした。

優れた指導者がいないために、イスラエルはヨシュアの死後、大いなる罪へと陥りました。罪は奴隷状態をもたらしました。奴隷状態にあって彼らは神に泣き叫び、神はイスラエルを導くためにさばきづかさを起こしました。(士師記2:16-23) さばきづかさは全部で15人いました。うち1人は女性(デボラ)で、2人は祭司兼さばきづかさであるエリとサムエル、またギデオンとサムソンは、神が彼らを力強く用いられたことで知られています。神はイスラエルを最初の王が治めるまでさばきづかさをうりました。「カナンの地では7つの移民族を打ち滅ぼし、その地を彼らに譲り与えられた。それらのことが約450年の年月にわたった。その後、神はさばき人たちをおつかわしになり、預言者サムエルの時に及んだ」(使徒行伝13:19-20)

「さばき人たちはイスラエルの者たちで、彼らの上に神は背教と他国から抑圧された状況にあるイスラエルのための重荷を置かれました。彼らは預言者たちの霊的な意味での先祖でした。彼らは神によって人々を奴隷状態から自由へと導くために起こされました。彼らは愛国者であり宗教改革者でした。国の安全と繁栄はエホバ神への忠誠と従順に密接に関係していました。救済者として選ばれたどの者もこの世の栄光とは無縁でした。例えば、オタニエルは単にカレブの弟の息子にすぎませんでしたし、エホデは左利きで、暗殺者でした。シャムガルは牛のむちを用いた田舎の者でしたし、デボラは女性、ギデオンは最小部族の無名家の出身でした。コリント人への手紙1章27-28節で述べられている各々の身分は士師記の中に描き出されています。」(Scofield Bible 289 ページより)

# 王国

イスラエルの  
人々は  
王を求めた

この時、イスラエルの長老たちはみな集まってラマにおけるサムエルのもとにきて、言った、「あなたは年老い、あなたの子たちはあなたの道を歩まれない。今ほかの国々のように、われわれをさばく王を、われわれのために立ててください」  
サムエル上8:4,5



サウル  
40年統治

その時サムエルは油のびんを取って、サウルの頭に注ぎ、彼に口づけして言った「主はあなたに油を注いで、その民イスラエルの君とされたではありませんか」  
サムエル上10:1

ベニヤミン族  
サムエル上9:1  
誰よりも肩から上、  
背が高かった  
サムエル上9:2  
神に退けられた  
サムエル上16:14



ダビデ  
40年統治

サムエルは油の角をとって、その兄弟たちの中で、彼に油をそそいだ。この日からのち、主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ。そしてサムエルは立ってラマへ行った。  
サムエル下16:13

羊飼いの少年  
サムエル上16:11  
巨人を殺した  
サムエル上17  
神のころろになかった人  
使徒行伝13:22



ソロモン  
40年統治

その所で祭司サドクと預言者ヨナタンは彼に油を注いでイスラエルの王としなさい。そしてラッパを吹いて「ソロモン王万歳」と言いなさい。  
列王紀上1:34

神は知恵を与えられた  
列王紀上3  
神の宮を建てた  
列王紀上6

## II. 王国

### 1. イスラエルは王を要求した

神の指示により預言者サムエルはイスラエルを導きましたが、イスラエルは神が置かれたこの指導体制に満足しませんでした。彼らは近隣諸国のように王を望みました。他の国々に見せることのできる王を求めて、イスラエルは見えない王（彼らの神）を退けました。近隣諸国のようにになりたいというこの願いは彼らの心の内を明らかにしました。神は本来ご自身の御旨がなされることを望んでいます。しかしもし人が頑固に自分の意志を通そうとし続けるなら、彼らが固執するゆえに、神は（それが彼らにとって良くないことだとしても）彼らの望むままにさせることでしょう。それがイスラエルに起こったことでした。（ホセア13:11、詩篇106:15）

「わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」とイエスは祈りました。（マタイ26:39）それは全ての人に対する手本です。心が正しくあることは、祈りと御言葉と主の御旨に自分をゆだねることによってのみ保つことができます。

### 2. 3人の王

イスラエル王国を3人の王が治めました。それぞれ40年間統治しました。その三人の王はサウル、ダビデ、ソロモンです。

#### a. サウル

神はイスラエルの最初の王として、ベニヤミン族からサウルを選びました。サウルはイスラエルの誰よりも肩から上、背が高く、とても勇敢で、当時はとても謙遜な人でした。（サムエル上9）彼の性格は王となり、権力と権威

を掌中にしてから、急激に変わっていきました。神に対する自分の立場を忘れ、王としての権力ゆえにサウルの考え方は墮落していきました。権力や権威はしばしば人を謙遜な僕から高慢で、わがままで、妬み深く、不従順な者へと変えてしまいます。権力は注意して扱うべきです。そうでないと権力は神の真理と御旨に対する目を盲目にしてしまうからです。

サウルの後年は多くの過ちや罪に満ちていました。後年の罪と過ちゆえに前に行った善はすっかり影が薄くなってしまいました。サウルはそのプライドのゆえにサムエルを通じての神の言を悟ることができませんでした。サムエルは神が選ばれた語り手でした。サムエルの到着が遅すぎると思ったサウルは自ら祭司の立場に立って、サムエルの代わりに犠牲を捧げました。(サムエル上13:8-14) またサウルはアマレク人と戦った際に全てを滅ぼし尽くせと言ったサムエルの言葉に背きました。(サムエル上15) 神の命令に従う代わりに、サウルは残りの家畜、羊と共にアガグ王を生かして連れて来ました。サムエルはサウルを強く非難しました。「見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる」(サムエル上15:22) 従順は多くの犠牲以上に大事なことがここで解ります。神は犠牲の捧げ物を喜びますが、不従順を軽蔑し、裁きます。

神はサウルとその反抗的性格を拒絶しました。そして、神の霊はサウルを離れ去りました。神は次のイスラエルの王に自分の心になかった人としてダビデを選びました。サウルはダビデを大変妬み、2度もダビデを殺そうとしました。サウルはダビデを追うことに多くの時間を費やしました。戦場で自らの剣の上に倒れてサウルの一生は終わりました。彼は自分自身のあまりに強すぎる我意につぶされた人でした。(サムエル上31)

自分自身が最悪の敵であるということは人間の性質に関する真理です。人の一生を苦しめる最も深く、最も危険な問題は外からではなく内側から来ます。人の魂は『天路歷程』の著者であるバニヤンの想像するところの巨大要塞であり、内部に反逆がある時だけ陥落します。敵は内側から開けられた門を通して入って来ます。外部の危険や世の誘惑は内部の反逆者の協力と助けがなければ何の力もありません。

幼な子のように神に来ることは大切なことですが、同時にいつも父と子のような関係を神と保つようにするべきです。子としての義務は父に従順であることです。

## b. ダビデ

王国の2人目の王は聖書の中で多くの人に愛される人物の1人、ダビデです。彼は家族の羊の世話をするただの若者にすぎなかった時に、サムエルに油を注がれ王となりました。(サムエル上16) おそらくダビデに関する最高の賛辞は彼が神の心になかった人であったということでしょう。(使徒行伝13:22) このことは本当に実を結ぶクリスチャンになるためには、不可欠な要素です。クリスチャンは自分の十字架を負ってイエスに従います。ダビデは罪を犯しましたが、神を喜ばせたいという彼の願いと心の優しさは、彼を悔い改めと良心の呵責へと導きました。

### (1) ダビデ、ゴリアテを殺す(サムエル上17)

まだ羊飼いだっただけにダビデは群れを脅かす熊とライオンと戦いました。主の霊がダビデに臨み、彼は素早くこれらのどう猛な動物を殺しました。兄弟達がペリシテ人と戦っている様子を見に行かされた時、ダビデはペリシテ人の巨人ゴリアテが高ぶっているのとイスラエル人の臆病さに激怒しました。

ゴリアテは恐ろしい容貌をしていました。青銅のかぶとをかぶり、5千シケル(68kg)の重さの青銅のよろいを身につけた状態で、2.7m以上ありました。やりの柄は機の巻棒のようで、やりの穂の鉄は6百シケル(9kg)ありました。ゴリアテはイスラエル人を嘲りました。「ひとりを出して、わたしと戦わせよ」

ダビデは若者にすぎませんでしたが、神への信仰がありました。ダビデの神への信仰により、ダビデはイスラエル軍の助けを借りずにゴリアテと戦いました。ダビデは石投げと石と主の御名によって巨人ゴリアテを地に打ち倒し、ゴリアテが持っていたつぎで彼の首をはねました。(サムエル上17) ここに魂に戦いを挑んで来る事柄に対する確かな勝利の方法があります。すなわち、誘惑し苦しめる敵は必ず完全に滅ぼすべきことです。

### (2) ダビデの苦難と勝利

ダビデの手によるこの大勝利によって彼は多くの称賛を得ました。それは後にサウルを激怒させました。サウルの心にダビデに対する大きな嫉妬心、残酷な思いが湧き起こりました。サウルの晩年の最大の望みはダビデを打ち殺すことにありました。(サムエル上18)

ダビデは神を愛し、神を喜ばすことを願う者でしたが、彼の生涯に汚点がない訳ではありませんでした。イスラエル軍がアンモン人と戦っている間、ダビデは宮殿のバルコニーで休み、若い美しい女性(バテシバ)が水浴びしているのを見ました。すぐにダビデはこの女性を自分のものにしたくなり、使いをやって自分の下へ来させました。このようにしてダビデは神と部下ウリヤに対して罪を犯しました。もしダビデがイスラエル軍と共にいたなら、このような罪を犯すような場所にはいなかったでしょう。この罪のためにダビデはウリヤを死に追いやり、その結果として神は生まれた子の命を取り、他の裁きも宣告しました。(サムエル下11,12) 神に注意が向けられている者はサタンの誘惑に心を傾けはしません。

ダビデは神の心になかった人と呼ばれていましたが、神はダビデのこの大きな罪を見過ごしにはしませんでした。神は預言者(ナタン)を遣わし、物語の形をとって以下のような非難のメッセージを与えました。

「ある町に2人の人がいました。1人は豊かで、もう1人は貧しい人でした。富んでいる人は多くの群れと羊を持っていましたが、貧しい人にはたった1匹の小羊しかいませんでした。その小羊を自ら養い、家族のように扱いました。ある日、富んでいる人に客がありましたが、夕食に自分の羊をほふる代わりに、貧しい人の愛している小羊を自分の

客人のために取りました」

「その事をした人は死ぬべきである」とダビデは激しく怒って言いました。

「あなたがその人です」とナタンは激しく非難しました。ダビデには王としての御座、多くの家、多くの妻がありましたが、ウリヤを死に追いやり、彼の妻を取りました。それから預言者はダビデに裁きを宣告しました。(サムエル下11:12)

神は人を偏り見られる方ではありません。神は罪を犯した人全てになさるようにダビデをも非難しました。神は罪を見ごしにすることはできませんし、なさいません。どんな罪も天の王国に入ることはできません。銀行の口座にどれだけ預金があるとか、誰を知っているとかは、神には関係ありません。なぜなら全ての富みは神に属するもので、神が全ての力の源だからです。神の国には政治的圧力やコネといったものは存在しません。全ての者が神の目には等しいのです。

ダビデは神の宮を建てたいと思いましたが血を流す戦士でしたので、神は宮を建てることを許しませんでした。この特権は次の王になったダビデの息子の1人に譲られました。(サムエル下7)

## c. ソロモン

ダビデの息子ソロモンは主を愛しました。王位を継承した後、ソロモンはギベオンへ行き、祭壇へ一千の供え物を捧げました。このギベオンでのおびただしい数の犠牲が捧げられた後で、神はソロモンに夢で現れ言いました。「あなたに何を与えようか、求めなさい」(列王紀上3:5) なんといい問いかけてでしょう。神の富の全てがソロモンの思いのままでした。ソロモンの答えを見てみましょう。彼の神への願いは、利己的な願いを反映したのではなく、父ダビデのような良い指導者になりたいということでした。利己的ではない願いをした結果、神はソロモンを未だかつてない賢い王としました。(列王紀上3:13)

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ6:33) ソロモンの願いは王になった初めの頃の本当の願いを示しています。彼は善と悪を見分けることができるように、悟りの心を求めました。神はソロモンが求めなかった長寿、富、敵に対する力をも豊かに与えました。主の言葉は真実です。神の国をまず求めていきましょう。

### 1) ソロモンの失敗

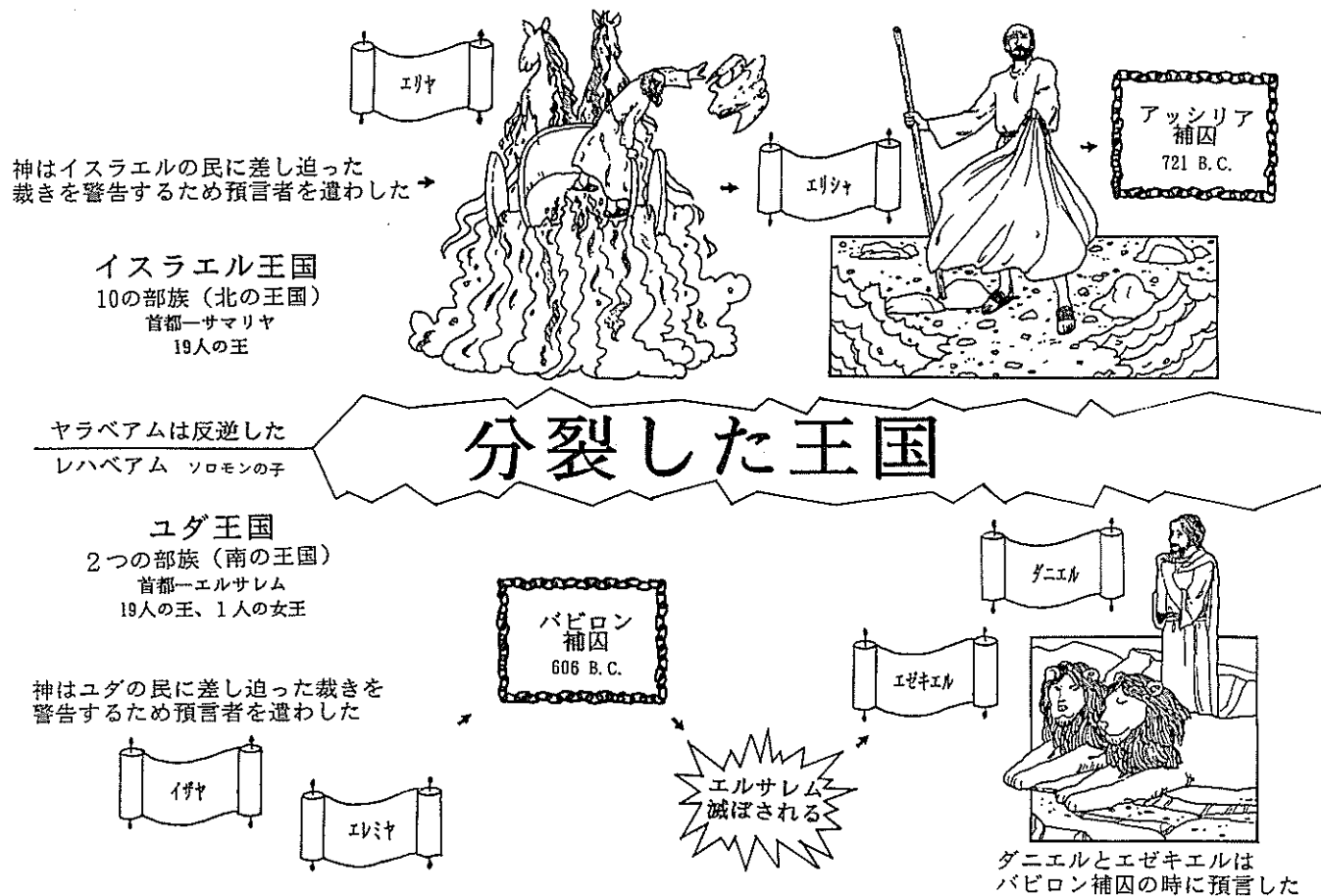
ソロモンは知恵があることで知られていました。聖句はこう言っています。「あなたの先にはあなたに並ぶ者がなく、あなたの後にもあなたに並ぶ者は起こらないであろう」(列王紀上3:12) またソロモンは莫大な富と千人の妻がいることでも知られています。悲しいことですが、妻たちはソロモンの心を唯一の真の神から背を向けさせました。ソロモンは他の神々を追い求めました。最も献身した人でさえ肉の思いに日々死ななければ、神の恵みから落ちることがあります。なんといい違いでしょうか。王となったばかりの頃のソロモンは、神を喜ばせたいという願いにあふれた人でした。ソロモンはこうした願いを持った人から背教者へ、すなわちギベオンで彼に語った神を忘れた者へと変わってしまいました。王冠を得るのは競争を走り抜いた者だけです。(伝道の書2)

### 2) ソロモン、神の宮を建てる

ソロモンの治世における最大の業績は、おそらくエルサレムに彼が建てた宮でしょう。彼は主がダビデに与えた型式に従って宮を建てました。建築には7年を要しました。宮はモーセの時代の幕屋にあったように聖所と至聖所がありました。宮での最初の礼拝においては、神の臨在がとて強く、宮は濃い霧に包まれました。主の前に立って祈り始めたソロモンは、祈りを終える時にはイスラエルの神の前にひざまづいていました。(列王紀上8:54) これは終末といわれる現代にとってもなんと美しい教訓でしょうか。主の宮でのへりくだった従順と罪を深く悔い改めた礼拝が、神の祝福の臨在をもたらすのです。

ソロモンの多くの罪と神の計画からの逸脱により、イスラエルの王国は彼の治世の後で分裂しました。霊的に墮落した王国が分裂し、(イスラエルとユダの) 2つの王国となり、それぞれに王がいました。(列王紀上11)

メモ: \_\_\_\_\_



### Ⅲ. 分裂した王国

ソロモンは大王国を築きましたが、彼の死後、分裂しました。ソロモンの息子レハベアムは父の時代よりも重い税を課すと言って民を恐れさせました。民は王に改善を求めましたが、レハベアムは若い助言者たちの言うことを聞き、年配の経験豊かな人々の意見に耳を傾けませんでした。その結果、反乱が起こり、王国は北と南、すなわちイスラエルとユダに分裂しました。(列王紀上12)

#### 1. 北王国 (列王紀上12-16)

北王国は10部族から成り、イスラエル王国として知られました。北王国の最初の王はヤラベアムで、首都はサマリヤでした。イスラエルは全部で19人の王が治めました。彼らは皆悪王で、霊的に墮落していました。彼らの内には1人も強い霊的指導者はいませんでした。この弱い霊的指導力のゆえに、偶像礼拝がはびこりました。

哀れみ深い神は多くの預言者たちを送り、差し迫った裁きをイスラエルに警告しました。イスラエルにつかわされた主な預言者のうちの2人はエリヤとエリシャでした。彼らは力強い神の人であり、多くの奇跡を行いました。彼らが預言したことは全て彼らが活着している間に成就しました。そのため彼らは「時代の預言者」と言われています。人々が自分たちの悪を悔い改めることを拒んだ結果、神の裁きが下されました。イスラエル王国は崩壊し、前721年にアッシリアによって捕囚の身となりました。(列王紀下17)

裁きは間もなくこの世にやって来ます。そして神に仕えていない者は永遠に「捕らわれ連れ去られる」のです。福音のメッセージに、今従うことは大切なことです!

## 2. 南王国

南王国はユダとベニヤミンの2部族から成り、ユダ王国として知られました。ユダの最初の王はレハベアムで、首都はエルサレムでした。19人の王と1人の女王がユダを治めました。多くは偶像礼拝をした悪王でしたが、イスラエル王国とは異なり、ユダには何人かの良い王がいました。

ユダにも神から遣わされた預言者たちがいました。預言者たちは悔い改めない限り必ず訪れる神の裁きと神の怒りを民に警告しました。イザヤ、エレミヤといった神の人達が迫り来る裁きに関するメッセージをもってユダに遣わされました。しかしユダも悔い改めることを拒んだ結果、前606年、バビロンの王ネブカデネザルにより捕囚の身となりました。(列王紀下25) この捕囚は70年間続きました。(エレミヤ25:11-12) バビロンにいる間も神の霊はダニエル、エゼキエルらの上に働きました。

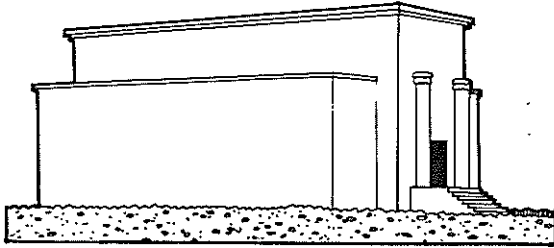
## 3. 終末の預言

油注がれた預言により、私たちは現代、すなわち終末の時代に関して多くを学ぶことができます。今ほど聖書が重大な意味を持つ時代はありません。本当に今の時代は終わりの世なのです。正確な時間や日時はだれにも分かりませんが、イエスは終末に見られる出来事を教えました。イスラエルとユダの王国時代は霊的背信の時代でした。人々はそれぞれ自分勝手に選んだ偶像を拝む者となりました。また私たちの時代によくある偶像は、物の豊かさです。主の言葉である聖書に従うことは大切なことです。時はもう手の届く所に迫っているからです！

メモ： \_\_\_\_\_



# エルサレムへの帰還



ゼルバベル、主の宮を再建した (536 B.C.)

見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜び契約の使者が来ると、万軍の主が言われる

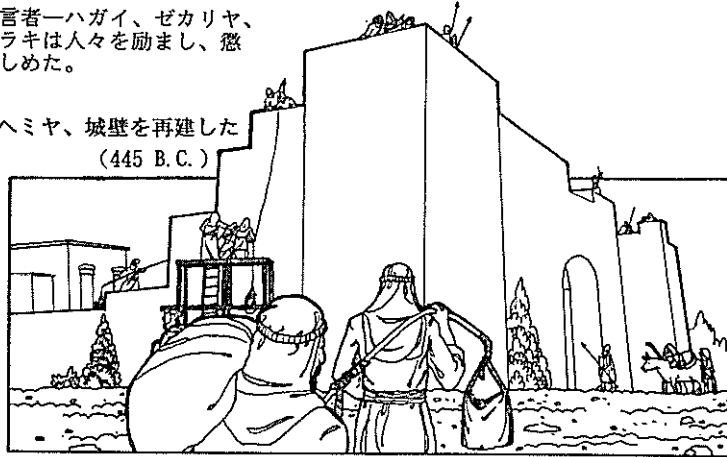
マラキ3:1

旧約終了  
四百年の沈黙

バビロンから エルサレムへ  
ゼルバベル → エズラ  
帰還            ネヘミヤ

預言者—ハガイ、ゼカリヤ、マラキは人々を励まし、懲らしめた。

ネヘミヤ、城壁を再建した (445 B.C.)



## IV. エルサレムへの帰還

預言されていた70年の期間が終わった後に、エルサレムへの第一回目の帰還がなされました。この帰還は前 536年頃で、ゼルバベルが導きました。(エズラ1-3) ゼルバベルは約5万人のユダヤ人と共に帰りました。帰国2年目に、彼らは宮を建て直し始めました。それは今日、ゼルバベルの宮として知られています。3度目の宮はヘロデの宮として知られ、イエスの時代まで存在していました。それは再建された宮を壮大なものに増改築したものでした。

他の帰還は、エズラにより前 457年頃に、またネヘミヤにより前 444年頃になされました。

### 1. 妨害

宮を再建しようとしたユダヤ人たちは敵から多くの妨害を受けました。この妨害により彼らは意気消沈し、その結果、宮の完成が遅れました。

祭司エズラは神の言葉を人々に教えました。ネヘミヤはバビロンで王の給仕役をしていた者でした。ネヘミヤはエルサレムに戻り、エルサレムの城壁再建へと人々を促しました。また、ネヘミヤはエズラが人々に主の道を教えるのを助けました。宮と城壁は多くの指導者たち、人々の祈り、慎重さ、忍耐を通して完成しました。(ネヘミヤ4-6)

### 2. 預言者たちと復興のメッセージ

復興の時代ももちろん預言者たちがいました。ハガイ、ゼカリヤ、マラキらが人々を励まし、懲らしめるために、神に遣わされました。ハガイは80才を越えていましたが、エルサレムへの長い道程の帰国をなし、人々を奮い立たせ、神の宮を再建するよう励ましました。(ハガイ1) きっと神はこの宮の栄光を素晴らしいものにして下さるだろうと彼は人々に告げました。主はユダの総督ゼルバベルと、大祭司ヨシュアと、人々の心を掻き立てました。彼らは皆働き始めました。

### 3. 旧約聖書終了

ユダヤ人の旧約における生きざまは、一貫して神に背いていたように思えます。この復興の時期も同様でした。再び人々は神を忘れ、御言葉の真理やその正しさを忘れました。彼らは神の大いなる御業を忘れ、再び神に背き始めました。私たちの旧約についての勉強は神に選ばれた民が神の素晴らしい愛を離れて生きる、という状況で終わります。ユダヤ人たちは再び、彼らよりも邪悪で強大な国々の支配下に暮らさなければならなくなりました。400年間、彼らは神からの声を聞きませんでした。

メモ： \_\_\_\_\_



## I. 新約聖書へのいざない

1. マタイ
2. マルコ
3. ルカ
4. 共観福音書
  - a. マタイと聖書
  - b. マルコと権威
  - c. ルカとイエスの栄光の完全性
5. ヨハネとイエスの神性
6. 使徒行伝 — 初期教会の歴史
7. 手紙（書簡）
  - a. パウロの手紙
  - b. 一般書簡
8. 預言 — 黙示録

## II. バプテスマのヨハネ

1. ヨハネ、悔い改めとバプテスマを説く。 イザヤ40:3-5、マラキ3:1、ルカ3:2-6
2. ヨハネ — イエス・キリストの先駆者 マタイ3:11, 11:10
3. ヨハネ、イエス・キリストが「神の小羊」であることを示す。 ヨハネ1:29-34

## III. イエス・キリストの誕生

1. 誕生に関する出来事 ルカ2:1-20
2. イエスの少年時代 ルカ2:41-52

## III. イエス・キリストに関する預言

## IV. イエス・キリストの奇跡

1. イエス、バプテスマを受ける。 マタイ3:13-17
2. イエス、試みにあう。 マタイ4:1-11
3. イエスの奇跡の働き マタイ11:4-6
4. イエスの働きの中心にあること ヨハネ7:37-39、ヘブル4:15, 16

# 新約聖書へのいざない

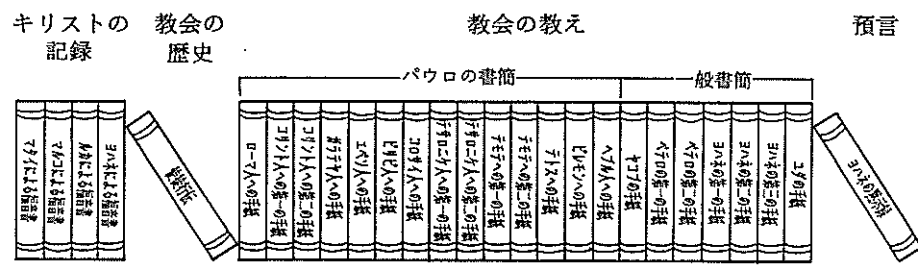
新約と旧約の間に  
400年の沈黙

27冊の書  
8人の著者  
100年間

わたしが律法や預言者を廃するため  
にきた、と思つてはならない。廃する  
ためではなく、成就するためにきたの  
である。  
よく言つておく。天地が滅び行くま  
では、律法の一点、一画もすたること  
はなく、ことごとく全うされるのであ  
る。  
マタイ5:17,18

聖書は、すべて神の靈感を受けて書  
かれたものであつて、人を教え、戒め、  
正しくし、義に導くのに有益である。  
2テモテ3:16

## 新約の書



### 1. 新約へのいざない

マタイ書から黙示録までは、イエスがたてられた新しい契約を表しているので新約聖書と呼ばれています。旧約の預言者たちはこの新しい契約の成立を預言していました。

新約聖書には27の書があります。この数を覚えるのに簡単な方法があります。「しんき(新規)」は3文字、「かみのけいやくしょ」は9文字です。3かける9は27(冊)です。新約の書は約百年に渡り8人の著者によって書かれました。聖霊によってこの務めに用いられたのは、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ、パウロ、ヤコブ、ペテロ、ユダです。

新約聖書は5つに区分できます。福音書4冊、歴史書1冊、パウロの手紙(書簡)14冊、一般書簡7冊、預言書1冊です。

それぞれの書の目的と、誰に宛てて書かれたものであるかを知ることがとても大切です。そうすれば多くの誤った解釈を避けることができます。

新約聖書の最初の4冊、マタイ書、マルコ書、ルカ書、ヨハネ書は、四福音書と呼ばれます。この4つはキリストの一生に関する伝記です。イエスの誕生、働き、死、埋葬、復活について詳細に記されています。

#### 1. マタイによる福音書

マタイはユダヤ人読者に向けて書いたように思われます。旧約の預言者たちが預言した、メシヤとしてのイエス・キリストを強調しています。

## 2. マルコによる福音書

マルコは異邦人を念頭に置いていたように思われます。イエスの超自然的な力を強調し、イエスが行った奇跡によってイエスの神性を示しました。

## 3. ルカによる福音書

ルカは神の子としてのイエスを示しています。特にイエスの人間性に注目し、弱い者、苦しむ者、世に見捨てられた者へのイエスの哀れみを強調しています。

## 4. 共観福音書

マタイ書、マルコ書、ルカ書の3冊は共観福音書と呼ばれています。これはイエスの生涯に関して共通の見方をし、共通の順序で出来事を綴っているからです。それぞれの福音書は最終的には全ての人に向けられていますが、マタイはユダヤ人を、マルコはローマ人（異邦人）を、ルカはギリシア人を最初に念頭に置いて書いたようです。ここでその理由を見ていきましょう。

### a. マタイと旧約聖書

ユダヤ人の心は旧約聖書によってしっかりと教え込まれていました。彼らは全てのことを御言に照らし合わせて見るようにと教えられていました。イエスがメシヤであることの証拠として、マタイは何度も何度も旧約の言葉を引用しました。

### b. マルコと権威

ローマ人の心は政府の権威、権力といったものに向けられていました。そこでマルコはキリストの奇跡に重点を置き、全てのものに対するキリストの超自然的な権威を強調しました。

### c. ルカとイエスの栄光の完全性

ギリシア人の心は文化、哲学、知恵、道理、美、教育に向けられていました。ルカは文学としても整った素晴らしい文章を提供しました。ルカによる福音書は「現存する書物の中で最も美しい書」と呼ばれています。また、主イエス・キリストを理想的な人として、栄光の美と完全性を明らかにしたものです。

## 5. ヨハネとイエスの神性

イエスの神性に特別な強調を置いているため、ヨハネによる福音書は他の3冊と視点を異にしています。ヨハネによる福音書は、創世記の書き出しと同じように始まっています。イエス・キリストは言葉が肉体をとった方であり、世の初めから全ての創造主である神だということを明確にしています。ヨハネは、イエスの行いよりも彼の言葉を強調しました。

## 6. 使徒行伝

使徒行伝には初期教会の歴史が記されています。第1章では復活し昇天される前のイエスの話を続けています。それからエルサレムでの教会の設立が記録されています。こうして父の約束である聖霊が待ち望んでいた信者に注がれました。(使徒行伝2) 教会の設立は福音書で預言されており(マタイ16)、使徒行伝2章で成就しました。この書のタイトル、「使徒行伝」が示す通り使徒たちの働きが記されています。教会の設立、教会での人々の働きを理解するためには、使徒行伝を研究することが必要です。

## 7. 手紙(書簡)

その次の21冊の書は手紙で、教会の信者に宛てて、勝利あるクリスチャン生活に関し教えています。手紙は救いに関しては教えていません。既に救われた人々に宛てて書かれているからです。どのように救われた状態にとどまり、主イエス・キリストの恵みと知識において成長するかを教会に教えています。

### a. パウロの手紙

初めの14冊は使徒パウロによって書かれたので、パウロの手紙と呼ばれています。パウロはローマの教会へ1つ、コリントの教会へ2つ、ガラテヤの教会へ1つ、エペソの教会へ1つというように手紙を書きました。パウロの手紙の中で、テモテ第1、第2の手紙、テトスへの手紙は一般に牧会書簡と呼ばれています。そう呼ばれているのは、教会の指導者に関する教えを提供しているからです。

## b. 一般書簡

その次のヤコブの手紙、ペテロの第1、第2の手紙、ヨハネの第1、第2、第3の手紙、ユダの手紙の7つの書は、全ての教会に宛てて書かれているので一般書簡と呼ばれています。それぞれの書のタイトルに著者の名前がつけられています。

## 8. 預言

最後に預言部門として黙示録があります。この書は小アジアにある7つの教会に宛てて書き始められていますが、大部分は預言です。ヨハネは以下のような指示を神から受けました。

「そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起ろうとすることを、書きとめなさい」(黙示録1:19)

メモ: \_\_\_\_\_

# バプテスマのヨハネ (キリストの先駆者)

ヨハネの言葉



### ヨハネに関する預言

呼ばれる者の声がある、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ」  
イザヤ40:3

見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。  
マラキ3:1

### ヨハネはキリストを世に明らかにした

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方に来られるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」  
ヨハネ1:29

悔い改めよ、天国は近づいた。  
マタイ3:2

わたしは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであらう。  
マタイ3:11



マルコ1:8  
ルカ3:2-17

## II. バプテスマのヨハネ

旧約聖書の預言者たちはメシヤのために道を備える者が来ると預言しました。

呼ばれる者の声がある、「荒野に主の道を備え、さばくにわれわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と谷とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである」(イザヤ40:3-5)

見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。(マラキ3:1)

バプテスマのヨハネの働きはこうした預言の成就です。

～神の言が荒野でゼカリヤの子ヨハネに臨みました。彼はヨルダンのほとりの全地方に行って、罪の許しを得させる悔い改めのバプテスマを宣べ伝えました。それは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。すなわち、「荒野で呼ばれる者の声がある、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』すべての谷は埋められ、すべての山と丘とは、平らにされ、曲がったところはまっすぐに、わるい道はならされ、人はみな神の救を見るであろう」(ルカ3:2-6)

「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの前に、道を整えさせるであろう」と書いてあるのは、この人のことである(マタイ11:10)

### 1. ヨハネ、悔い改めとバプテスマを説教

バプテスマのヨハネは、罪の許しのための悔い改めと、水のバプテスマを宣べ伝えました。(マルコ1:2-4) 多くの者がヨハネの話を聞きに、またバプテスマを受けるためにやって来ました。

### 2. ヨハネ、イエス・キリストの先駆者

ヨハネは自分がキリストではないこと、やがて来るべき方に従うべきことを宣べ伝えました。

わたしは悔い改めのために、水でおまへたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火によっておまへたちにバプテスマをお授けになるであろう(マタイ3:11、マルコ1:7-8 も参照)

ヨハネが預言したのはイエス・キリストにほかなりません。ヨハネはイエスを人々に明らかにしました。

### 3. ヨハネ、イエスが「神の小羊」であることを示す

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである」 ヨハネはまたあかしをして言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるの見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」(ヨハネ1:29-34)

ヨハネの言葉は、イエスがメシヤであることを明らかにしただけでなく、「世の罪を取り除く神の小羊」イエスの使命をも明確に表しています。イエスの使命に関しては、マリヤの夫ヨセフに、あらかじめ示されていたことでした。(マタイ1:20-21)

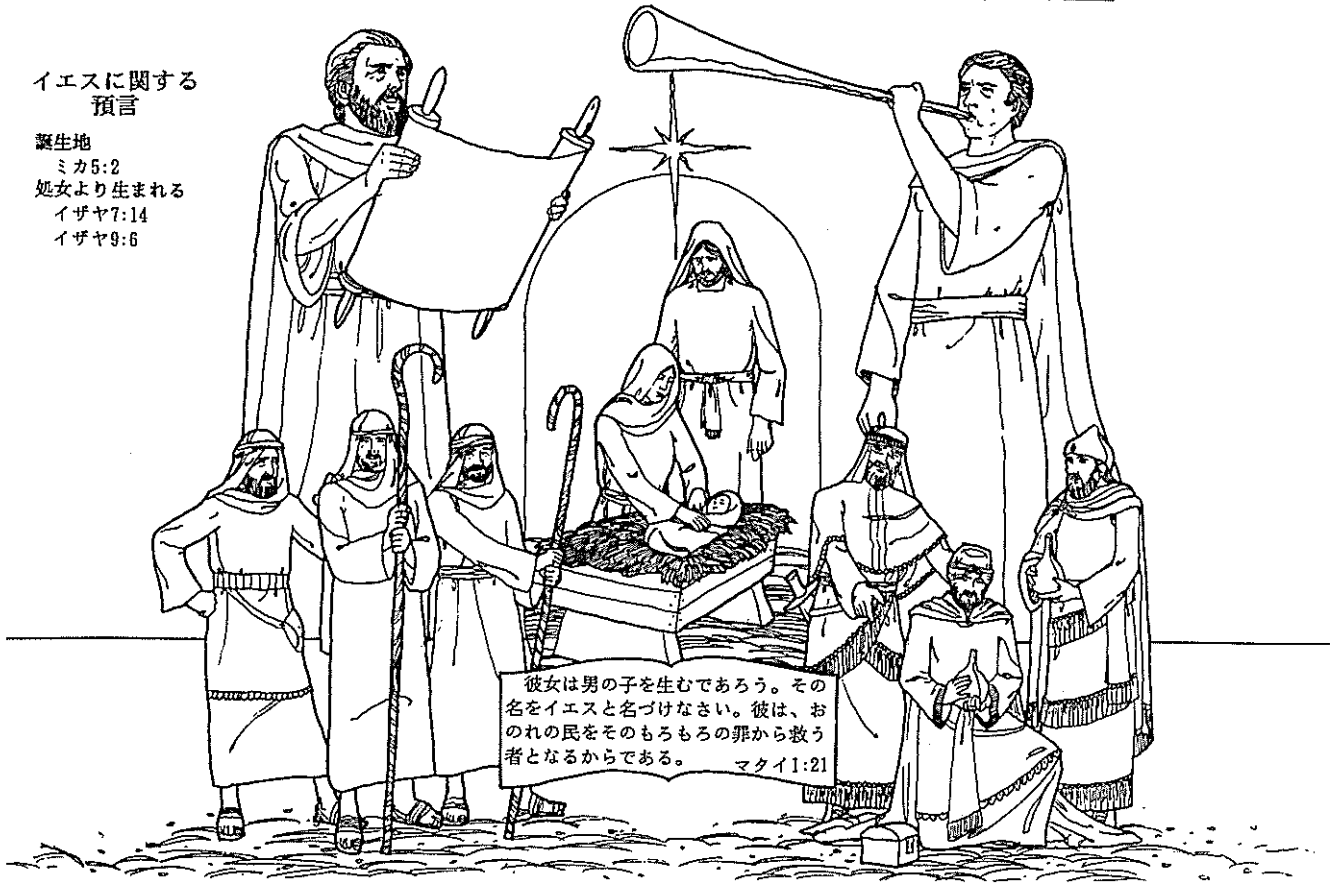
メモ：\_\_\_\_\_



# イエス・キリストの誕生

イエスに関する  
預言

誕生地  
ミカ5:2  
処女より生まれる  
イザヤ7:14  
イザヤ9:6



## Ⅲ. イエス・キリストの誕生

### 1. 誕生に関する出来事

ルカ2章1-10節にイエスの誕生について書かれています。イエスの誕生は、皇帝アウグストの時代でした。皇帝は国中に人口調査を布告しました。人々はみな登録のために、それぞれ自分の町へ帰らなければならず、ヨセフとマリヤもベツレヘムに向かいました。ベツレヘムに滞在している間に、マリヤはキリストなる子をうまやで生み、飼葉おけの中に寝かせました。彼らがうまやにいたのは、町が大変な混雑で彼らが泊まる所がなかったからです。

一人の御使いがベツレヘムの郊外で群れの番をしていた羊飼いたちに現れ、ベツレヘムで救い主、主なるキリストが生まれたことを告げました。御使いたちが彼らを離れ、天に帰ったとき、羊飼いたちは御使いの言葉に従い、ベツレヘムへ行きました。そしてマリヤとヨセフと飼葉おけに寝かしてある幼な子を探しあてました。羊飼いたちは、神を崇め、賛美しながら、御使いが訪れたことを多くの人々に語りました。

後に、博士たちがユダヤ人の王として生まれた方を探そうと東方からエルサレムへやって来ました。このことはマタイ2章に記されています。彼らはまずエルサレムにいるヘロデ王の所へ行き、ユダヤ人の王はどこでお生まれになったのかと尋ねました。そこでヘロデは祭司長たちと律法学者たちに問いました。彼らは、キリストはベツレヘムに生まれるはずだと答えました。子供を見つけたら、戻って来て知らせしてくれるよう頼み、ヘロデ王は博士たちをベツレヘムへ送り出しました。しかし、博士たちは、別の道を通ってそれぞれの国へ帰って行きました。(マタイ2:12) また主はヨセフに、イエスを連れて国を出、エジプトへ逃れるよう警告しました。ヘロデの怒りからイエスを守るためでした。のちにヘロデはベツレヘムとその周辺の2才以下の子供を全て殺しました。ヘロデはユダヤ人の王が生まれたことを聞いてとても警戒しました。ヘロデが死んだ時、主の使いが再び夢でヨセフに現れ、イスラエルの地へ戻るよう指示しました。ヨセフは家族と共に、ガリラヤの地方のナザレに移りました。

## 2. イエスの幼年期

エジプトからナザレに帰った頃のイエスの唯一の記録はイエスが12才の時に、家族でエルサレムへ出掛けた時のものだけです。そのとき両親は、イエスが宮の中で教師たちの真ん中に座り、彼らの話を聞いたり質問したりしているのを見ました。(ルカ2:41-52)

メモ： \_\_\_\_\_

# イエス・キリストに関する預言

旧約聖書の預言	新約聖書での成就
創世記3:15	女から生まれる マタイ1:20
イザヤ7:14	処女が身ごもる マタイ1:18
創世記49:10	ユダの部族 ルカ3:23,33
ミカ5:2	ベツレヘムに生まれる マタイ2:1
詩篇72:10	贈物を捧げられる マタイ2:1,11
エレミヤ31:15	ヘロデ王が子供を救す マタイ2:16
イザヤ7:14	インマヌエルと呼ばれる マタイ1:23
イザヤ40:3	主の道を備える者がいる マタイ3:1-2
イザヤ35:5-6	奇跡の働き マタイ9:35
ゼカリヤ9:9	ろばに乗りエルサレムへ入る ルカ19:35-37
詩篇16:10	復活 使徒行伝2:31
詩篇68:18	昇天 使徒行伝1:9
詩篇41:9	友に裏切られる ヨハネ13:21
ゼカリヤ11:12	銀貨30枚で売られる マタイ26:15
ゼカリヤ11:13	金は聖所に投げ捨てられる マタイ27:5
ゼカリヤ13:7	弟子たちに見捨てられる マタイ26:56
詩篇35:11	偽証者に訴えられる マタイ26:59-60
イザヤ53:7	訴える者の前で口を開かない マタイ27:12
イザヤ53:5	打たれ傷つけられる マタイ27:26
イザヤ50:6	叩かれ唾をかけられる マタイ27:30
詩篇22:7-8	嘲弄される マタイ27:31
詩篇22:16	手と足を刺し貫かれる ヨハネ20:25
イザヤ53:12	強盗と共に十字架につけられる マタイ27:38
詩篇22:18	衣服は分けられ、くじ引きにされる ヨハネ19:23-24
詩篇22:1	嘆きの言葉 マタイ27:46
民数記9:12	骨は折られない ヨハネ19:33-36
ゼカリヤ12:10	脇を刺される ヨハネ19:34
アモス8:9	地上の暗闇 マタイ27:45
イザヤ53:9	金持ちの墓に埋葬される マタイ27:57-60

## Ⅳ. イエス・キリストに関する預言

- (1) 創世記3章15節にあるメシヤに関する最初の預言は、メシヤが女から生まれるということでした。このことは、イエスがマリヤから生まれたことで成就しています。(マタイ1:20)
- (2) イザヤ7章14節で、インマヌエルなるメシヤは処女から生まれるであろうと預言されました。このことは、マタイ1章18-23節にあるように、処女マリヤから生まれることで成就しました。
- (3) メシヤがどの部族から出るかということも、創世記49章10節で、ユダ部族であると明らかにされています。ルカ3章23-33節でその通りのことが起こっています。
- (4) ミカ5章2節で、メシヤはベツレヘムの町に生まれるであろうと預言されました。預言通り、ベツレヘムはイエスが生まれた所です。(マタイ2:1)
- (5) 博士たちが訪れることさえ、旧約聖書に預言されていました。(詩篇72:10、マタイ2:1-11)
- (6) ヘロデ王の残酷な憎しみも神は既に知っておられました。(エレミヤ31:15、マタイ2:16-18)
- (7) イエスがインマヌエル、すなわち「神われらと共にいます」と呼ばれたのは偶然ではありません。預言者イザヤによって預言されており(イザヤ7:14)、マタイ1章23節で成就しました。
- (8) 私たちが既に学んできたように、メシヤの前に道を備え宣べ伝える者がいるということさえ、旧約の預言を学ぶ者たちに知られていました。(イザヤ40:3、マタイ3:1-2)
- (9) 目の見えない人、耳の聞こえない人、足なえ、口のきけない人を癒しました。素晴らしい奇跡の働きは、イザヤが預言していました。(35:5-6) このことはイエスの働きにおいて成就しました。(マタイ9:35)
- (10) ゼカリヤ9章9節は、メシヤがろばに乗ってエルサレムに入るであろうと預言しました。十字架につけられる前に、イエスはそのようにしました。(ルカ19:35-37)
- (11) ダビデは、聖霊の油注ぎにより、キリストの復活を預言しました。(詩篇16:10) ペテロは教会での最初の説教で、この節を引用し、それをイエスの復活に当てはめました。(使徒行伝2:31)
- (12) また、ダビデはキリストの昇天も預言しました。(詩篇68:18) その成就是使徒行伝1章9節に記されていま

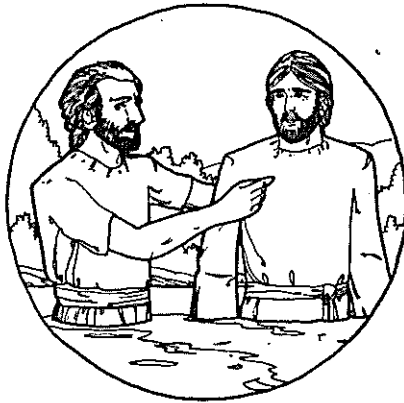
す。使徒パウロは、後に、詩篇68篇18節を主の昇天に引用しました。(エペソ4:8-10)

- (13) メシヤが友から裏切られることも意外なことではありませんでした。詩篇41篇9節で預言的に書かれてあるからです。(マタイ26:50、ヨハネ13:21)
- (14) イエスが裏切られる際の代価さえも詳細に旧約聖書で語られていました。(ゼカリヤ11:12) 代価は銀貨30枚でした。(マタイ26:15)
- (15) さらにゼカリヤ11章13節は、その銀貨が聖所に投げ入れられるであろうと預言しました。ユダはまさにその通りを行いました。(マタイ27:5)
- (16) ゼカリヤ13章7節では、弟子たちがイエスを見捨てることを預言的に描き出しています。マルコ14章50節で、この悲しい出来事がその通り成就したことが明らかにされています。
- (17) メシヤが偽りの証言によって責められるであろうということは詩篇35篇11節に記されています。これが実際に起こったことがマタイ26章59-60節に記録されています。
- (18) イザヤ53章は、メシヤの十字架の刑についての感動的で劇的な預言で、彼は訴える者の前で口をきかず、沈黙していると語っています。この預言通りにイエスは訴えに対して何も答えませんでした。(マタイ27:12) のちに、使徒ペテロも同じことを言っています。(1ペテロ2:22-23)
- (19) イザヤ53章5節では、メシヤが打たれ、傷つくことも預言されています。マタイ27章26節にその成就の記載があります。
- (20) イザヤ50章6節では、メシヤが打たれること、またひげを抜かれることや顔につばきをかけられることさえも預言されていました。ルカ22章63節にイエスが打たれたことが記されています。
- (21) 詩篇22章7-8節で、メシヤがあざげられることが描かれています。マタイ27章31節で実際そのことが起こりました。
- (22) メシヤの手と足が刺し貫かれることが詩篇22篇16節とゼカリヤ12章10節の両方で預言されています。ヨハネ20章25節でそれが成就しています。
- (23) イザヤ53章12節は、重要な預言的聖句で、メシヤは咎ある者と共に数えられるであろうと言っています。イエスが二人の強盗たちと共に十字架につけられた時、この預言が成就しました。(マタイ27:38)
- (24) メシヤが十字架につけられることを特に扱っている箇所が詩篇22篇にもあります。18節で、彼の衣が分けられ、くじびきにされると預言されています。イエスが十字架にかけられたときに、ローマの兵卒たちがそのように行い、成就しました。(ヨハネ19:23-24)
- (25) 詩篇22篇1節では、メシヤの見捨てられた叫びさえも、何百年も前に既に記されていました。イエスが最後の瞬間に言った言葉がマタイ27章46節にあります。
- (26) ローマの兵卒たちは、両側にいた強盗たちの足の骨を折りましたが、イエスの足は折りませんでした。これは偶然ではありません。詩篇34篇20節で預言されていたことだったからです。ヨハネ19章31-36節にその出来事が記されています。
- (27) ゼカリヤ12章10節で、メシヤは手と足だけが刺し貫かれたのではないことが分かります。ヨハネ19章34節にあるように、彼は脇腹も刺し貫かれました。
- (28) キリストが十字架につけられた時、かつてない暗闇が地を覆ったことは(マタイ27:45)、アモス8章9節で預言されていました。
- (29) イザヤ53章9節では、メシヤが金持ちの墓に埋葬されることさえも明らかにされていました。この出来事はマタイ27章57-60節にあります。

聖書を勉強すれば、こうした驚くべき預言やその成就是超自然的なものだということが解ります。神の正確な時刻表に従ってイエスがこの世に来たとき、彼は多くの旧約の預言を成就しました。

メモ:

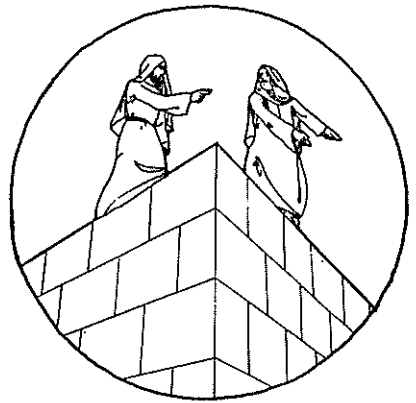
# イエス・キリストの奇跡



バプテスマ  
マタイ3:13-17

その時、見えない人の目は開かれ、聞こえない人の耳は聞こえるようになる。その時、足の不自由な人は、しかのように飛び走り、口のきけない人の舌は喜び歌う。それは荒野に水がわきいで、さばくに川が流れるからである。  
イザヤ35:5-6

さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、イエスに誓わせた。「『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」。イエスは答えて言われた、「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいはきこえ、貧しい人々は福音を聞かされている。わたしにつまづかない者はさいわいである。  
マタイ11:2-6



誘惑  
マタイ4:1-10



盲人は見え  
マタイ9:27-30



足なえは歩き  
ヨハネ5:5



らい病人はきよまり  
マタイ8:2-4



耳しいは聞こえ  
マルコ7:35-37



死人は生き返り  
ヨハネ11:41-44  
マルコ5:35-42

## V. イエス・キリストの奇跡

### 1. イエス、バプテスマを受ける

キリストの生涯で、次に記録されていることは、イエスがバプテスマのヨハネからバプテスマを受けたことです。(マタイ3:13-17) ヨハネはキリストにバプテスマを施すことを初めいやりましたが、イエスに全ての正しいこと(律法)を成就するのは必要なことであると言われ、ヨハネは従いました。イエスが水から上がった時、ヨハネは、天が開き、神の霊がはどのようにイエスに下るのを見ました。また、次のような声を聞きました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」これは、イエスがメシヤであることを示すヨハネのためのしるしでした。(ヨハネ1:32-34)

### 2. イエス、試みにあう

バプテスマの後、イエスは御霊に導かれ荒野で悪魔の試みに会いました。このことは、マタイ4章1-11節に詳細に記されています。40日40夜の断食の後で、試みる者がイエスの所に来ました。試みる者は、まず最初に、イエスの空腹に訴えかけ、イエスの持つ超自然的な力を使って石をパンに変えてみたらどうだと誘惑しました。ここで大事な点は、悪魔の攻撃が、イエスの神性に向けられていたということです。悪魔は言いました。「もしあなたが神の子であるなら〜」

イエスに自分の神性を疑わせることが悪魔の真のねらいだったのです。賢明にも、イエスはこの点について悪魔と論じることはしませんでした。イエスの神性は論じる必要のない事実だったからです。悪魔はいつも真っ先に疑いをもたせるという方法を試みます。すなわち、人に神の言葉を疑わせようと努力するのです。それはエデンの園での悪魔のやり方でもありました。

イエスは御霊の剣である神の言葉で敵に答えました。(エペソ6:17) イエスは、聖書の言葉を用いて答えました。

その後悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて、イエスの神性を疑わせようと再び試み始めました。この時は自分の誘惑を正当化しようと悪魔は神の言葉を用いて試みしました。悪魔は詩篇91篇11-12節の聖句を自分勝手に歪めて使いました。イエスは再び、正しい神の言葉でそれに応じました。

最後に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世の全ての国々とその栄華とを見せました。もしひれ伏して自分を拝むなら、これらのものを皆あげよう、と悪魔は言いました。イエスは御言を引用して答え、悪魔に退けと命じました。悪魔は一時イエスの元を去りました。(ルカ4:13) その後、御使いたちが来てイエスに仕えました。誘惑に会った後、イエスは自分の働きを始めました。弟子たちを集め、また、イザヤ61章の預言を成就しました。

「それからお育ちになったナザレに行き、安息日のように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、『主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださいましたからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである』 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。そこでイエスは、『この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した』と説きはじめられた」(ルカ4:16-21)

### 3. イエスの奇跡の働き

イエスの奇跡の働きは旧約の預言の成就でした。イエスは盲人を見えるようにしました。(マタイ9:27-31) 死人をよみがえらせました。(ヨハネ11:41-44) イエスが触れるとらい病人は清まりました。(マタイ8:2-4) あしなえが歩けるようになりました。(ヨハネ5:1-9) 耳の聞こえない人が聞こえ、口のきけない人が話すようになりました。(マタイ7:35-37)

一方、バプテスマのヨハネは、ヘロデの罪を宣告したために獄に入れられていました。兄弟の妻をめとるのは律法になかったことではない、とヘロデに言ったからです。(マタイ14:3-4) 獄中でヨハネはイエスの働きについて耳にしました。そこで二人の弟子をつかわして尋ねさせました。「『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかになれかを待つべきでしょうか」(マタイ11:3) イエスはこう答えました。

「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞こえ、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。わたしにつまづかない者は、さいわいである」(マタイ11:4-6)

### 4. イエスの働きを中心にあること

一部のユダヤ人の中には、困惑する者もいました。メシヤは宮殿で、高貴な家系から生まれ、自分たちをローマの圧制から解放してくれる方だろうと思っていたからです。彼らは預言者の言葉を誤って理解していました。

イエスは富んでいる人にだけでなく、全ての人に仕えるために来られました。イエスはこの世のものではない王国を建てるために来られたのです。(ヨハネ18:36) イエスのメッセージは革命ではなく、悔い改めのメッセージでした。(マルコ1:15) ヨハネの弟子たちが、イエスは本当にメシヤかどうか尋ねた時、イエスはその証拠として盲人、足なえ、らい病人、耳しい、死人、貧しい人々へのご自分の働きを示しました。明らかに、イエスが来られたのは、この世の権威といわれるものと自分を結び付けて自分を現すためではなく、求めている人々に教え、手を差し伸べるためでした。このことはヘブル4章15-16節に記されています。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」

どんな人であっても、イエスは決して拒みませんでした。顔を背けるようなことはだれに対してもしませんでした。イエスは全ての人を招いています。

「『～だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう』これは、イエスを信じる人が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊がまだ下っていなかったのである」(ヨハネ7:37-39)



## I. イエス、新生を教える

1. イエスとニコデモ
  - a. 新しく生まれなければならない。 ヨハネ3:1-3
  - b. 水と霊 ヨハネ3:5
2. 全て信じる者に与えられる約束 ヨハネ7:37-39
  - a. 約束
  - b. 必要条件
  - c. 約束を得る
  - d. 約束を受ける
  - e. 生ける水の川
  - f. ペンテコステの日に聖霊が与えられた

## II. イエス、たとえ話で教える

1. 種まきのたとえ マタイ13:3-23
2. 高価な真珠 マタイ13:45, 46
3. タラント(才能、タレント) マタイ25:14-25

## III. カルバリへの道

1. 勝利の入場 ゼカリヤ9:9、マタイ21:1-17
2. 最後の晩餐 マタイ26:17-29、1コリント5:7、11:23-26
3. ゲツセマネ マタイ26:40, 41
4. 裏切り マタイ26:46
5. 裁判 マタイ26:57-69
6. イエス、打たれる。 イザヤ53:5、1ペテロ2:24

## IV. 私たちの為に死なれたキリスト

1. イエス、兵士たちにあざけられる。 マタイ27:29-31
2. シモンと十字架 マタイ27:31-33
3. イエス、十字架上であざけられる。 マタイ27:34-43
4. 十字架にかけられた強盗 ルカ23:39-43
5. 十字架上での許し ルカ23:34
6. イエスの死後の出来事 マタイ27:50-55
7. イエス、埋葬される。 マタイ27:57-61

## V. キリストは生きる

1. キリストの墓に番人が置かれた。 マタイ27:63-65
2. イエス、よみがえる。 マタイ28:1-8
3. 多くのものがよみがえったイエスを見た。 1コリント15:4-8、使徒行伝1:3

## VI. 大宣教使命

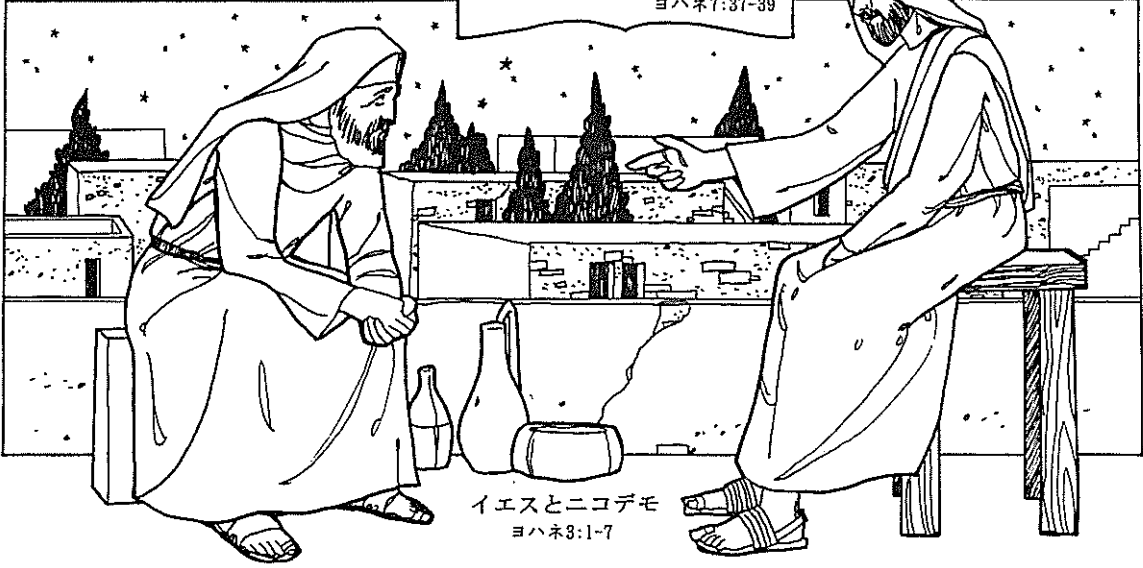
1. 大宣教使命の内容 マタイ28:19, 20、マルコ16:15-18、ルカ24:45-47
  - a. 信仰
  - b. 悔い改め
  - c. 水のバプテスマ
  - d. 超自然的なしるし
  - e. 教え
  - f. 癒し
2. イエスの昇天 使徒行伝1:1-11

## VII. キリストにおける全能の神 1テモテ3:16、2コリント5:19

# イエス、新生を教える

イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」。  
ヨハネ3:5

祭りの終わりの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」。これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。  
ヨハネ7:37-39



イエスとニコデモ  
ヨハネ3:1-7

## 1. イエス、新生を教える

人々はイエスの働きにさまざまな反応を示しました。庶民はイエスの言うことに喜んで耳を傾けたと聖書に書いてあります。(マルコ12:37) イエスは貧しい者に福音を宣べ伝えるために来ました。(ルカ4:18) しかし「学識のある」人たちは、必ずしもイエスを受け入れたという訳ではありませんでした。(1コリント1:26) 役人たちの多くもイエスを信じましたが、告白はしませんでした。会堂から追い出されるのを恐れたからです。彼らは神の誉れよりも人の誉れを好みました。(ヨハネ12:42-43)

### 1. イエスとニコデモ

「パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。この人が夜イエスのもとにきて言った、『先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしは、だれにもできはしません』 イエスは答えて言われた、『よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』」(ヨハネ3:1-3)

ニコデモは質問するために来たものではありませんでした。イエスの所に賛辞の言葉をもって来たのでした。イエスの奇跡ゆえに、ニコデモはイエスが神からつかわされた者だということを知っていました。イエスはすぐに、話の焦点を、人生で最も重要な事柄に移しました。人はどのようにしたら神の国を見、入れるのだろうか、ということです。

#### a. 新しく生まれなければならない

イエスは、人が神の国を見、神の国に入れる唯一の道は新しく生まれることであると言いました。これはニコデモにとって耳慣れない言葉でした。ニコデモはユダヤ人の指導者でしたが、「新しく生れる」ということは聞いたこと



がありませんでした。彼が思い浮かべることができたのは、再び母から生まれるということだけでした。ニコデモは尋ねました。「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか」ニコデモの質問にイエスはこう答えられました。「誰でも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」(ヨハネ3:5)

## b. 水と霊

新生は2つの要素からなります。すなわち、水と霊です。水は、水によるバプテスマを指します。霊は、神の言葉に従う者全てに約束されている聖霊のバプテスマのことを指します。

## 2. 全て信じる者に与えられる約束

イエスはユダヤの仮庵の祭を見るためにエルサレムへ出掛けました。この場所でイエスは、感動的で重要な事を言われました。「祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、『だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に誓ってあるとおり、そのはらから生ける水が川となって流れ出るであろう』これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊がまだ下っていなかったのである」(ヨハネ7:37-39)

イエスが言われたことから以下のことが判ります。

- \* 約束は全ての人に対してです。
- \* 約束を受けるのに必要なことは、その人は飢え渴いていなければならないということだけです。
- \* この約束を得ようと思う人は、イエスのもとに来なければなりません。
- \* この約束を受けようと思う人は、イエスを信じなければなりません。
- \* 信じる者から流れ出る生ける水の川は、聖霊です。
- \* その時は聖霊はまだ与えられていませんでした。イエスがまだ栄光を受けていなかったからです。(今ではイエスは栄光を受けています。聖霊が与えられています。ペンテコステの日から今日に至るまで、約束は全ての信じる者に与えられています。)

国会議員選挙の際のリンカーンの好敵手であったピーター・カートライトは無神論者の医師と一晩過ごしたことがありました。その医師は、五感で見分けられることだけが実在のものであると主張し、カートライトに言いました。

「信仰を目で見たことがありますか」

「いいえ」

「信仰を耳で聞いたことがありますか」

「いいえ」

「信仰を鼻でかいだことがありますか」

「いいえ」

「信仰を口で味わったことがありますか」

「いいえ」

「信仰を感じたことがありますか」

「はい」

「これで、4つの信頼すべき証人によって信仰は見えず、聞こえず、匂いもせず、味わうこともできないものであり、感覚というたった1つの証人によって、信仰は経験のみに基づくものだということを疑いの余地なく証明しました。証拠の重みは圧倒的なものです。あなたの負けですね」と医師は勝ち誇ったように言いました。

するとカートライトは医師に言いました。「体の痛みを和らげるふりをして、あなたはずっと騙されやすい人たちに偽善を行い、実に不快な欺満を行っていたんですね」

医師の憤慨した抗議に対して、カートライトは言いました。

「では、痛みを目で見たことがありますか」

「いいえ」

「痛みを耳で聞いたことがありますか」

「いいえ」

「痛みを鼻でかいだことがありますか」

「いいえ」

「痛みを口で味わったことがありますか」

「いいえ」

「痛みを感じたことがありますか」

「もちろんです」

「では、4つの信頼すべき証人が人間の体には痛みというものはないことを証明しました」

医師が当惑している間に、カートライトはひざまづいて祈り始めました。、間もなく彼の心の奥底が砕かれました。少しの不安と霊的苦悩の後で、彼は勝利の叫び声をあげて、主を見いだしました。彼は自費で自分の奴隷たちをリベリアへ返し、彼自身は福音の説教者となりました。

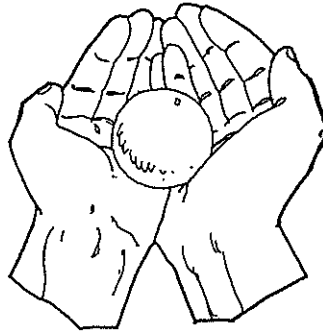
# イエス、たとえ話で教える

それから、弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、「なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか」。そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天國の奧義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。」  
マタイ13:10,11



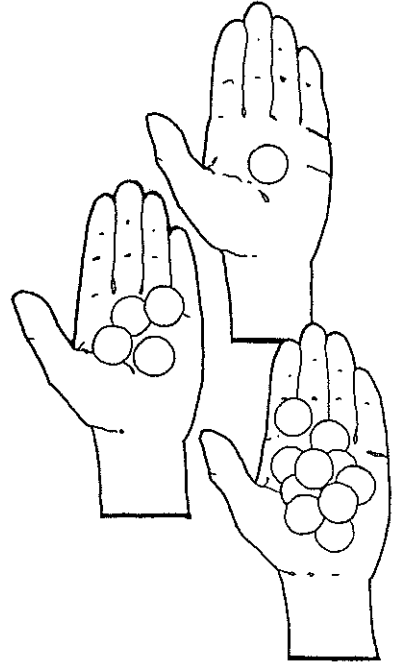
種まく人  
マタイ13:1-23

あなたは  
どんな土ですか？



高価な真珠  
マタイ13:45

あなたは何を  
扱いましたか？



タラント  
マタイ25:14-25

あなたの人生で  
何をしたいですか？

## Ⅱ. イエス、たとえ話で教える

イエスは何度もととえで教えました。こうしたたとえは大切な真理を教えるために用いられました。イエスは聞く者全てに靈的な意味も含んだたとえ話をしました。また、弟子たちの「知らないこと」を現すためにも「知っていること」を用いました。

### 1. 種まきのたとえ

種まきのたとえはマタイ13章1-9節にあり、その説明は18-23節に記されています。同じ話がマルコ4章1-20節、ルカ8章4-15節にもあります。このたとえの基本的な教えは以下のようです。

- \*まかれた種は御言葉です。
- \*道ばたの土は御言葉を聞いても悟らない者の心を表しています。すぐに悪魔が来て、その人から御言葉を奪い取ってしまいます。
- \*石地は御言葉を聞くと、しばらくは喜んで受ける人を表しています。しかし、誘惑がくると、御言葉に根差していないのでつまづいてしまいます。
- \*いぼらの地は御言葉を聞き、実を結びかける人を表しています。しかし、彼らは自分の人生で世の心遣いが占める割合が大きくなっていくのをそのままにします。結果として、御言葉に対する関心がふさがれてしまいます。
- \*良い地とは御言葉を聞いて、悟り、従う人を表しています。

このたとえは御言葉の大切さに重点が置かれています。御言葉は、人が神の国において実を豊かに結ばせる唯一のものです。それに代わるものはありません。人は御言葉を愛し、人生において第一のものとしていくべきです。(詩篇1:2) 御言葉を受け入れ、従っていくかどうかで、その人がどの土壌になりたいのかが分かります。人は自分がなりたいと思っている土壌になっていくのです。

## 2. 高価な真珠

高価な真珠のたとえはマタイ13章45-46節にあります。「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである」

イエスはこのたとえを説明されませんでした。多くの聖書研究者の間では、福音を捜し求める人のことを表していると思われています。この見解から次のことが引き出されます。

\* 全ての人は最高のものを求めています。

\* この世で最も価値のあるものは、福音のメッセージ、すなわち神の救いの計画です。

\* 真理を見つけたら、そのほかの全てのものを投げ出しても、それを得る価値があります。

箴言23章23節にこう書かれています。「真理を買え、これを売ってはならない。知恵と教訓と悟りをも買え」ここで言われていることは、どんな代価を払ってでも真理を買いなさいということです。真理は、文字通りに、お金で買うことはできません。しかし、真理を見いだしたら、それはこの世のどんな持ち物よりもはるかに価値のあるものです。真理を胸に抱くには、しばしば先入観、個人的な望み、夢を捨て去る必要があります。イエスは言いました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう」

## 3. タラント (才能 - タレント)

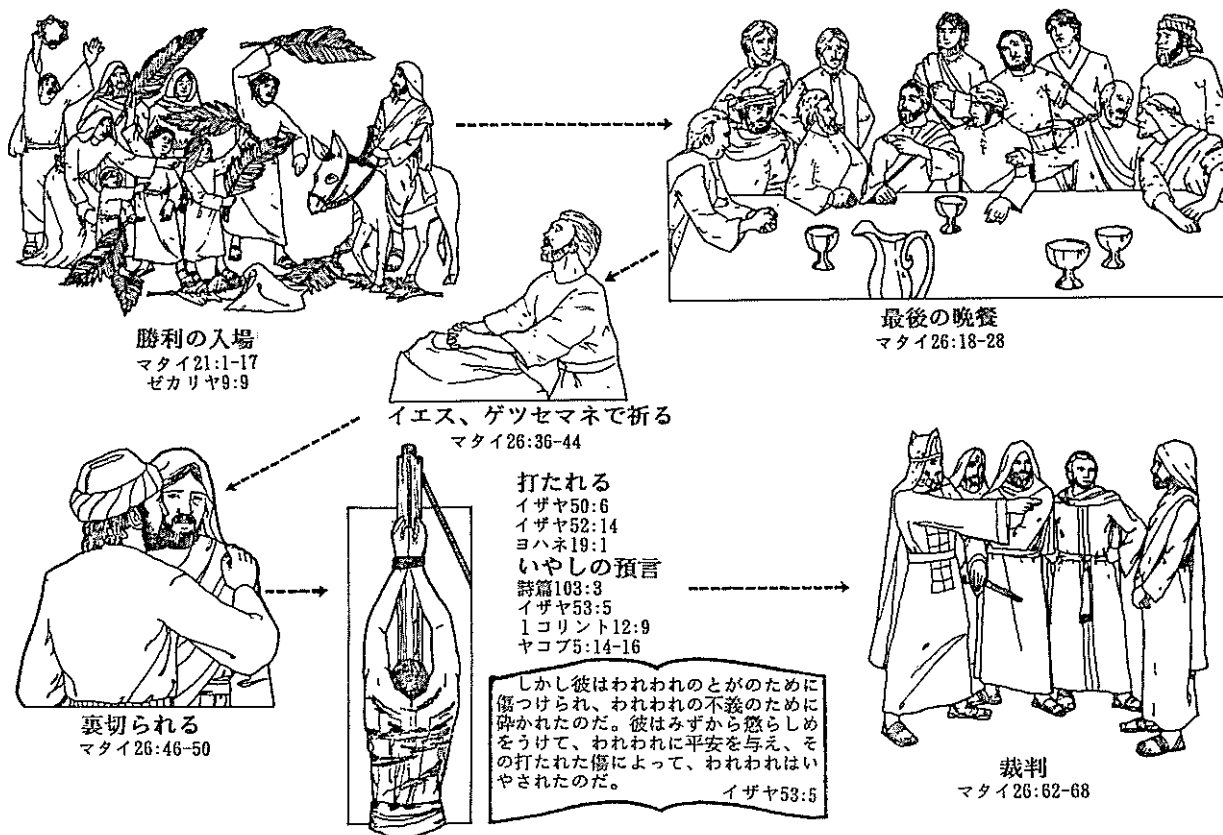
タラント (才能 - タレント) についてイエスが語られたたとえは、神が私たちに与えて下さったものを用いることに関してです。遠くの国に旅に出る人は主を表します。彼は出掛ける前に、自分の財産を分配しました。ある者には5タラント、またある者には2タラント、別の者にも1タラントを与えました。神が下さったタラントを僕たちはそれぞれ違った方法で用いたことに注意して下さい。最も多くもらった僕は最も良く自分のタラントを用いました。彼は全てを用いるという危険を犯しましたがとても良い利益を得ることができました。2タラントもらった者も同様でした。しかし1タラントもらった者はとても恐れしました。「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである」(1ヨハネ4:18)

恐れの中に働くことは困難です。しかし神のために働く時、私たちは何も恐れることはありません。ただ、神に喜ばれ、神から良くやったという言葉を得るのみです。

神に与えられたタラント (才能 - タレント) を用いなかった者は、悪い、怠惰な僕と呼ばれました。(マタイ25:26)

メモ:

# カルバリへの道



## Ⅲ. カルバリへの道

十字架につく前の最後の一週間に多くの預言が成就しました。友に対しても敵に対してもイエスは哀れみを示しました。

### 1. 勝利の入場

ゼカリヤ9章9節を成就して、イエスはロバに乗ってエルサレムに入りました。これはよく「勝利の入場」と呼ばれています。マタイ21章1-17節と同様の記述がマルコ11章1-11節、ルカ19章29-40節にあります。

イエスと弟子たちがエルサレムの近くにきた時、イエスは弟子の二人を近くの村へつかわし、そこにいるロバの子を連れて来るよう命じました。もし誰かが何か言ったなら、「主がお入り用なのです」と答えれば許してくれるだろうと言いました。弟子たちはそのようにし、子ロバの上に自分たちの上着をかけ、イエスをその上に乗せました。大勢の群衆が彼らを出迎え、子ロバの道に自分たちの上着を敷きました。他の者は子ロバが歩く道に枝を敷きました。群衆は叫びました。「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」行列がエルサレムに入った時、人々は騒ぎ立ち、「これは、いったい、どなただろう」と叫びました。

「この人はガラリヤのナザレから出た預言者イエスである」と群衆は答えました。

「ダビデの子にホサナ」と叫んでいたそのエルサレムの人々が2、3日後には「彼を十字架につけよ」と叫んでいました。

## 2. 最後の晩餐

十字架にかけられる前の週のこの出来事は、「最後の晩餐」として知られています。この出来事はマタイ26章17-29節と同様のことが、マルコ14章12-26節、ルカ22章7-23節に記されています。

毎年、ユダヤ人はエジプト奴隷状態から解放されたことの記念として、過越の祭を行いました。十字架につけられる前の週、過越の祭の食事でイエスは弟子たちに新しい教えを与えました。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べよ、これはわたしのからだである』 また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、『みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である』（マタイ26:26-28）

この食事には新しい意味があることを、イエスは弟子たちに教えました。新約の教会で「主の晩餐」と呼ばれるものです。わたしたちの過越であるキリストはわたしたちのために十字架にかけられました。（1コリント5:7）パウロは1コリント11章23-26節で、このことを説明しています。

「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである」（1コリント11:26）

- \*パンはキリストの体を表します。
- \*ぶどうはキリストの血を象徴します。
- \*この儀式は（飲むたびに）守られなければならないものです。
- \*この儀式は主が来られるときまで続けられるべきです。

過越の新しい意味を教える前に、イエスは言いました。「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている」 弟子たちはとても悲しみ、尋ね始めました。「主よ。まさか、わたしではないでしょう」 イエスは答えました。「わたしが一きれの食物をひたして与えるものが、それである」 するとユダが尋ねました。「先生、まさか、わたしではないでしょう」 イエスは言いました。「いや、あなただ」 するとユダはすぐに部屋を去り、イエスを裏切るために出て行きました。

## 3. ゲツセマネ

晩餐の後、イエスと弟子たちはゲツセマネの園に来ました。8人の弟子に自分が祈りに行く間、ここにとどまっているよう命じました。それからイエスはペテロとヤコブとヨハネを連れて園の少し離れた所へ行きました。イエスは弟子たちに自分と共に目を覚ましているよう命じました。イエスは大変悲しみ、迫り来る裏切りと十字架に思い悩みました。イエスは、3人から石を投げて届くほどの所へ行き、ひれ伏し、祈り始めました。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」 イエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネの所へ戻ると、彼らは眠っていました！

イエスはペテロに言いました。「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかったのか。誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」（マタイ26:40-41）

## 4. 裏切り

多くの祈りを捧げた後、しばらくして、イエスはこう言って彼らを起こしました。「立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切るものが近づいてきた」（マタイ24:46）

イエスがまだ話しているうちに、ユダが剣と棒を持った大勢の群衆と共にやって来ました。ユダはイエスに近寄ると「先生、いかがですか」と言ってイエスに接吻しました。これは、群衆にキリストがだれかを示すため、あらかじめ決められた合図でした。イエスはユダに言いました。「友よ、なんのためにきたのか」 そして、人々はイエスを連れて行きました。

## 5. 裁判

イエスの裁判は形式だけのいい加減なものでした。（マタイ26:57-69） イエスは律法学者と長老たちが集まっている大祭司カヤパの所へ連れて行かれました。死刑にするためにイエスに対して不利な偽証を立てるはずがなされました。

大祭司には、イエスのご自分の運命を覚悟したように思われました。大祭司は言いました。「あなたは神を汚した。どうしてこれ以上、証人の必要があろう。あなたがたは今このけがし言を聞いた」 彼は他の人たちに尋ねました。「あなたがたの意見はどうか」 人々は口をそろえて言いました。「彼は死に当たるものだ」

それから彼らは、イエスの顔につばきをかけ、彼をこぶしで打ち、手のひらでたたきました。彼らはあざけりました。「キリストよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」

これらの悲しむべき出来事の後で、キリストはカヤパの家からピラトの元へ連れて行かれました。(ヨハネ18:28-40、19:1-15) ピラトは尋ねました。「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起こすのか」ピラトはユダヤを治めるローマの役人で、罪人を死刑にするかどうかの権限がありました。

イエスを尋問した後、ピラトは宮廷を出て、ユダヤ人たちに言いました。「わたしには、この人になんの罪も見いだせない。過越の時には、わたしがあなたがたのために、ひとりの人を許してやるのが、あなたがたのしきりになっている。ついては、あなたがたは、このユダヤ人の王を許してもらいたいのか」

「その人ではなく、バラバの方を」と彼らは叫びました。バラバは強盗で、暴動を扇動し、殺人者でした。(マルコ15:7) 狂乱した群衆は神の子を拒み、罪人の方を選びました。

## 6. イエス、打たれる

彼らの要求に従い、ピラトはイエスを連れて行き、イエスをむち打たせ、たたかせました。

ユダヤ人も、またピラトも全く知らなかったことですが、彼らの行動は何年も前に神の人々によって預言されていたことの成就でした。預言者イザヤは、鮮やかに、詳細にわたって、メシヤが十字架につけられることを描写しました。イザヤはこのように書きました。「しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」(イザヤ53:5)

ピラトの元で、イエスが人々の手から受けた傷が、わたしたちのいやしの代価を払いました。何年も後に、ペテロは言いました。「～わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである」(1ペテロ2:24)

全ての罪と全ての病からの完全なあがないについて、詩篇 103篇 3 節にこう書かれています。「主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし」イエスが払った代価は部分的なものではなく、完全なものでした。

病人がいやされることは信じる者に伴うしるしです。イエスは言いました。「信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち彼らはわたしの名で～病人に手をおけば、いやされる」(マルコ16:17-18)

イエスは信者のいやしに指示を与えました。「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈りは、病んで入る人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる」(ヤコブ5:14-15)

病人をいやすことは神のみこころです。必要なのは、イエスが払った代価を信じ、神の言葉に従うことだけです。

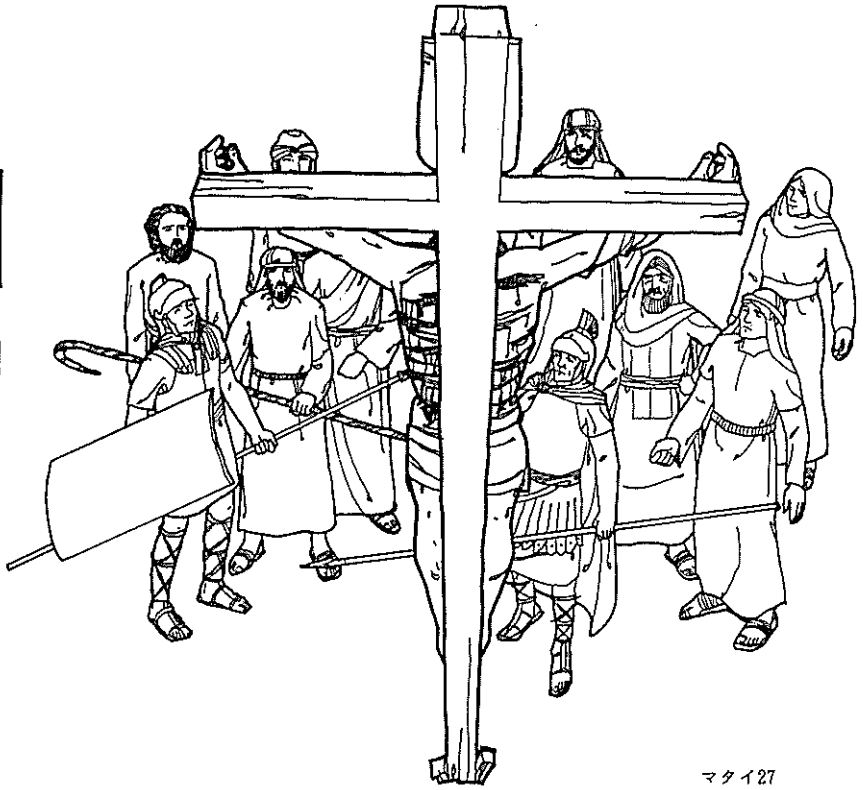
メモ：

# 私達の為に死なれたキリスト

しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。  
ローマ5:8

もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。  
ローマ5:10

神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。  
2コリント5:21



マタイ27

## IV. 私たちのために死なれたキリスト

イエスの十字架の死は、人類史上最も大事なことです。十字架でイエスは世の全ての罪をご自分で担いました。私たちの罪のために、罪を知らないご自分を罪とされました。(2コリント5:21、1ペテロ2:22、ローマ5:8-10)

### 1. イエス、兵士たちにあざけられる

イエスをむち打った後に、兵士たちはイエスを宮廷に連れて行きました。そこに全部隊が集まりました。彼らはイエスの服を脱がせ、傷つき血が出ているイエスの背に赤い外套(ローブ)をかけました。また彼らはいばらで冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、右の手に葦の棒を持たせ、その前にひざまずき、イエスを嘲弄して言いました。「ユダヤ人の王、ばんざい」 またイエスにつばきをかけ、葦の棒を取り上げ、イエスの頭をたたきました。そして、赤い外套をはぎ取って元の上着を着せ、十字架につけるために引き出しました。

### 2. シモンと十字架

彼らがカルバリへ行く途中で、シモンという名のクレネ人に出会ったので、彼に無理にイエスの十字架を負わせました。ゴルゴダに到着し、彼らはいがみをまぜたぶどう酒をイエスに飲ませようとしていました。しかし、イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされませんでした。兵士たちはイエスを十字架につけ、二人の強盗の間にその十字架を置きました。イエスの十字架の上に罪状書を掲げました。(これはユダヤ人の王イエスである) 兵士たちはくじを引いて、イエスの着物を分けました。

### 3. イエス、十字架上であざけられる

イエスが十字架につけられてから、そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言いました。「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおりてこい」祭司長、律法学者、長老たちも一緒になって、嘲弄して言いました。「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう。彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、今、救ってもらうがよい。自分は神の子だと言っていたのだから」

### 4. 十字架にかけられた

イエスの隣で十字架にかけられた犯罪人のひとりがイエスをののしって言いました。「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」しかし、もうひとりはそのをたしなめて言いました。「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」そして彼はイエスに言いました。「主よ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」イエスは言いました。「よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」

### 5. 十字架上での許し

十字架の上のイエスの言葉は、自分を十字架につけた者をさえ、イエスが哀れまれたことを表しています。イエスは言いました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」

### 6. イエスの死後の出来事

イエスの死後、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けました。大きな地震があり、岩が裂けました。また、町の外にある墓地では多くの墓が開きました。

百卒長とその部下たちは、こうした異常な出来事を見、恐れて言いました。「まことに、この人は神の子であった」遠くの方から、こうした出来事を注意深く見ている女たちが多くいました。

### 7. イエス、埋葬される

ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという裕福な人が、イエスの体を引き取る許可をピラトに求めました。ピラトはそれを承諾しました。以前、夜、イエスのみもとに行き、新しく生まれることの必要性を教えられたニコデモもヨセフを手伝いました。彼らはイエスを亜麻布で巻、まだ誰も葬られたことのないヨセフの新しい墓に納めました。

敗北のように見えたことが、実際は神の国の大勝利でした。イエスは世に来た目的を果たしました。イエスは罪深い人々の身代わりとなり、人が罪の報酬である死を逃れることができました。(ローマ6:23)

メモ：\_\_\_\_\_



# キリストは生きる

わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、3日目によみがえったこと。

1コリント15:3,4



イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、40日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。

使徒行伝1:3

イエス、弟子たちに現れる

マタイ28:16-20

マルコ16:9-20

ルカ24:13-53

ヨハネ20:19-31

1コリント15:4-7

40日見られる

使徒行伝1:3

500人以上

に見られる

1コリント15:4-7

## V. キリストは生きる

神の計画通りメシヤはよみがえりました。死も彼をとどめておくことはできなかったのです。イエスは自分が墓にいる日数も正確にあらかじめ示しました。

「そのとき、律法学者、パリサイ人のうちのある人々がイエスにむかって言った、『先生、わたしたちはあなたから、しるしを見せていただきとうございます』すると、彼らに答えて言われた、『邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし預言者ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にあるであろう』」（マタイ12:38-40）

### 1. キリストの墓に番人が置かれた

イエスが埋葬された次の日に、祭司長やパリサイ人がピラトのもとに集まって言いました。「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言ったのを、思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするようにさしずをして下さい。そうしないと、弟子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらすかも知れません。そうなると、ピラトは彼らに言った、「番人がいるから、行っている限り、番をさせるがよい」（マタイ27:63-65）ユダヤ人たちはピラトのもとを去って、墓のある所へ行き、石に封印し、番人を置いて墓の番をさせました。

## 2. イエス、よみがえる

キリストを墓の中にとどめておこうとする彼らの努力は何の役にも立ちませんでした。主の御使いが天から下って、墓の入り口にあった石をわきへ転がし、その上に座りました。その姿は稲妻のように輝き、その衣は雪のように真っ白でした。番人たちは震え上がって、死人のようになりました。

マグダラのマリヤ、ヤコブの母のマリヤ、サロメが他の女たちと共に墓に行きました。用意していた香料をイエスに塗るためでした。行く途中で彼らは言いました。「だれが、わたしたちのために、墓の入り口から石をころがしてくれるのでしょうか」しかし墓に着いてみると石はすでに転がしてありました。キリストはよみがえったのです！墓は空でした。

## 3. 多くの者がよみがえったイエスを見た

後に復活の事実を記してパウロはこう言っています。

「そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえたこと、ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。そのち、百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。そのち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、そして最後に、いわば、月足らずに生まれたようなわたしにも、現れたのである」(1コリント15:4-8)

イエスは復活後も40日の間、弟子たちに度々現れました。彼らと共に食事をし、最後のとても重要な命令を授けました。(ヨハネ20:19-31、ルカ24:13-53、マタイ28:16-20、マルコ16:9-20、使徒行伝1:3)

メモ：\_\_\_\_\_

# 大宣教使命

そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔い改めがエルサレムからはじまって、もろものろ国民に宣べ伝えられる。  
ルカ24:47

## 大宣教使命

マタイ28:19-20  
マルコ16:15-18  
ルカ24:45-47

## 使命の要素

1. 信仰
2. 悔い改め
3. 水の洗礼
4. 新しい言葉を語ることも含めた様々なしるし
5. 教えること
6. いやし

こう言い終わると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。  
使徒行伝1:9



## Ⅶ. 大宣教使命

大宣教使命は共観福音書（ルカ24:45-47、マタイ28:19-20、マルコ16:15-18）に記されています。弟子たちはエルサレムから始まって全ての国民に悔い改めとイエスの名による罪の許しを宣べ伝えるよう命じられました。（マルコ16:15）

### 1. 大宣教使命の内容

- \* 信仰
- \* 悔い改め
- \* 水のバプテスマ
- \* 異言を語る（聖霊のバプテスマを受けること）を含む超自然的なしるし
- \* 教え
- \* 癒し

### 2. イエスの昇天

イエスは弟子たちをベタニヤの近くのオリブ山に連れて行きました。イエスは弟子たちに父の約束を求めてエルサレムにとどまっていれば、間もなく聖霊のバプテスマを受けると言いました。それからイエスは手を上げて弟子たちを祝福し、雲の中、天に引き上げられました。

弟子たちが天を見つめていると、白い衣を着た二人が彼らのそばに立ち、なぜ天を仰いで立っているのか、と尋ねました。その二人は、彼らを連れ天に上げられたイエスは、同じ様子でまた来られることを弟子たちに語りました。弟子たちはオリブ山を下ってエルサレムに戻り、喜びと期待に胸膨らませていました。

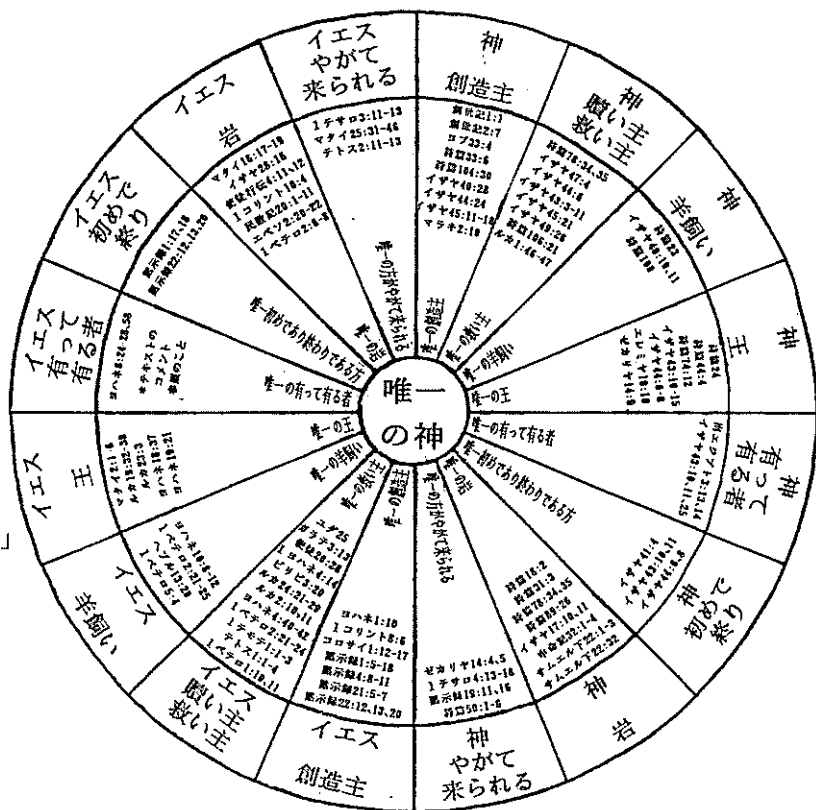
# キリストにおける全能の神

あなたがたは、むなしだましごとの哲学で、人のとりこにされないように気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言い伝えに基づくものにすぎない。  
コロサイ2:8,9

確かに偉大なのは、この信心の奥義である、「キリスト」は肉において現れ、御使いたちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた。  
1テモテ3:16

\* 英訳KJVでは「God manifest in the flesh」「神が肉において現れ」

すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。  
2コリント5:19



## Ⅷ. キリストにおける全能の神

このイエスは誰だったのでしょか。これはとても大切な質問です。イエスは弟子たちに尋ねたことがありました。「あなたがたはわたしをだれと言うか」(マタイ16:15) 彼は預言者だったのでしょか。いいえ、それ以上のお方です。旧約と新約の聖句をよく比較してみると、イエスは神が肉において現れた方であることが分かります。(1テモテ3:16 - 原本のギリシア語では、「神が肉において現れ」となっています)

申命記6章4-9節はユダヤ人の旧約の律法学者にとって、重要な聖句です。神は唯一であるという教えは全ての基をなすものです。この真理は多くの聖句でも証しされています。(チャート参照) ヨハネ4章23-24節によれば、この唯一の神は霊です。ではイエスとは一体誰なのでしょう。イエスこそがその唯一の神なのです! イエスは私たちと共におられる神です。(イザヤ7:14) イエスは全能の神、とこしえの父です。(イザヤ9:6) そしては私たちを造られた方です。(創世記1:1、マラキ2:10、ヨハネ1:3など。詳しくはチャート参照) イエス・キリストは神であると同時に人でもありました。すなわち神が肉において現れたのです。人としてイエスは飢え、渇き、眠り、疲れ、泣きました。同時に神としてイエスは5000人の群衆に食物を与え、病人をいやし、死人をよみがえらしました。

イエスが神であり、人であることを忘れてる人々によって、大きな混乱が引き起こされています。イエスは完全な神であり、完全な人なのです。

- 全ての聖句は神はただ一人のみであるという基本的真理を示しています。
- 神は創造主・・・イエスは創造主
- 神は救い主、あがない主・・・イエスは救い主、あがない主
- 神は羊飼・・・イエスは羊飼
- 神は王・・・イエスは王
- 神は「私は有って有る者」・・・イエスは「私は有って有る者」
- 神は初めであり終わりである・・・イエスは初めであり終わりである
- 神は岩・・・イエスは岩

## 神が来られる・・・イエスが来られる

イエス・キリストが誰かを知ることには非常に大切なことです。パリサイ人は「あなたの父はどこにいるのか」とイエスに尋ねました。イエスは答えました。「あなたがたは、わたしをもわたしの父をも知っていない。もし、あなたがたがわたしを知っていたら、わたしの父をも知っていたであろう。～もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである」(ヨハネ8:19-24) 弟子の一人であるピリポがイエスに言いました。「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは、満足します」イエスは答えて言いました。「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい」(ヨハネ14:8-11)

父(ヨハネ4:23-24)は御子の中にいました。(ガラテヤ4:4) 父と御子は2つの別個の人格ではなく、神(霊)が肉(体)において現れたのです。「神(霊)はキリスト(体)において世をご自分に和解させ〜」(2コリント5:19) イエスは誰だったのでしょうか。イエスは全能の神、とこしえの父でした。(イザヤ9:6) 神は自ら選んで栄光の天から僕のかたちをとって地上に来られ、人間の姿になりました。(ピリピ2:5-8)

パウロはエペソ人への手紙4章5-6節で、唯一の神の本質を明らかにしています。

「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます。すべてのものの父なる神は一つである」

破局的混乱の中にあっても、私たちがキリストを見る限り、道を誤ることはありません。彼はいつも言っています。「わたしに従ってきなさい」

### \*「イエス - 有って有る者」に関するコメント

他の言語に比べて、ある聖句の意味がはっきりと分かりにくいといった場合が翻訳では時として生じるものです。日本聖書協会の日本語訳は比較的良い翻訳です(個人的意見ですが他のどの日本語の翻訳よりも優れていると思います)が、直接ギリシア語を見た方が、より奥深い重要な点を引き出すことができる箇所があります。

この一例としてヨハネ8章24、28、58節が挙げられます。24、28節は日本語で「そういうものである」と翻訳されていますが、ギリシア語ではこの2つは58節にある「わたしはいるのである」という全く同じ言葉が使われています。ですから実際、この3カ所でイエスが言ったことは、出エジプト記3章14節で神がモーセに「イスラエルの人々にこう言いなさい『わたしは有る』』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました」と言ったのと全く同じことなのです。これらの聖句に関して、いくつかの著名な解説書からの引用を見てください。

58節に関して、ケネス・S・ウエストは優れた自著『ギリシア語新約聖書からの聖句研究』第三巻の38ページにある「より頼むべき心理」の章で以下のように述べています。

「だれがあなたを遣わしたのかとイスラエルの人々に尋ねられたならなんと答えたらいいのですか、というモーセの問いに、旧約の神が「わたしは、有って有る者」と答えた(出エジプト3:14) ときのことをイエスは人々に思い起こさせました。わたしがその有って有る者、ユダヤ人の神、自在の神である、とイエスは宣言しているのです」

英語において最も優れ、最も広範囲の説明をしている『説教注解』では上記聖句に関して以下のように言っています。

「この章で私たちの主は、信仰の対象であり、神の啓示の中心にあるものは『私は有る』ということだと三度も繰り返し教えています」

デイクの注釈付聖書は、上記24、28、58節に用いられている語句に関して以下のように述べています。

「それは永遠であり、常に存在する方を意味します～これは神の永遠の名前の一つです～ユダヤ人はイエスがこの名前を自分に当てはめ、自分の神性を明らかにしたことを理解していました」

当然ユダヤ人たちは、旧約における神の名をイエスが自分に当てはめたことを理解していたと思います。59節に、彼らはイエスに石を投げつけようとしていた、とあるからです。

**重要:** イエスが自分は旧約の「私は有る」者であると宣言したことをふまえ、私がそういう(私は有る)者であると信じなかった者はどうなる、とイエスが言ったか24節を注意して見て下さい。



## I. 教会の誕生

1. 聖霊の約束 使徒行伝1:4-8
2. 屋上の間 使徒行伝1:12-14

## II. ペテロ、キリストを語る／私たちへの神の計画

1. ペンテコステの日 使徒行伝2:1-13
2. ペテロ、説教する マタイ16:16-19、使徒行伝2:14
3. ペテロ、力強く説教する 使徒行伝2:14, 15
  - a. ヨエルの預言の成就 ヨエル2:28、使徒行伝2:16-21
  - b. 高められたイエス 使徒行伝2:22-36
4. 神の救いの計画 使徒行伝2:37-40

## III. 悔い改め

1. ソドムとゴモラ 創世記19、2ペテロ2:6、ユダ7
2. ヨナ マタイ12:41
3. バプテスマのヨハネ マタイ3:2
4. イエス・キリスト ルカ13:3
5. 大いなる使命 ルカ24:47
6. ペンテコステの日 使徒行伝2:38

## IV. バプテスマでイエスと共に埋葬される

1. どのように? マタイ28:19、マルコ16:16、使徒3:28、ローマ6:4、ガラテヤ3:27

## V. あなたは聖霊を受けましたか?

1. イエス、聖霊について述べた。 ヨハネ3:5
2. パウロ、聖霊について説教した。 ローマ8:9
3. ペテロ、聖霊について語った。 使徒行伝2:38

## VI. 聖霊のしるし

1. 屋上の間の全員が聖霊に満たされた。 使徒行伝2:1-4
2. サマリヤ人、聖霊を受けた。 使徒行伝8:13-17
3. 異邦人 使徒行伝10:44-48
4. バプテスマのヨハネの弟子たち 使徒行伝19:1-6

## VII. 聖霊の力

1. 聖霊はキリストの再臨の時に朽ちない体を与える。 ローマ8:9-11、1コリント15:51-53
2. 聖霊は力を与える。 使徒行伝1:8
3. 聖霊は教える。 ヨハネ14:26、2ペテロ1:21
4. 聖霊は来るべきことを教える。 ヨハネ16:13
5. 聖霊は義、平和、喜びを与える。 ローマ14:17
6. 聖霊は神の愛を与える。 ローマ5:5

# 教会の誕生

## 聖霊の約束

見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい。

ルカ24:49

ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。

使徒行伝1:8

イザヤ28:11-12  
エレミヤ31:31  
ヨエル2:28-29  
ヨハネ7:37-39

そして彼らは全員  
聖霊に満たされた

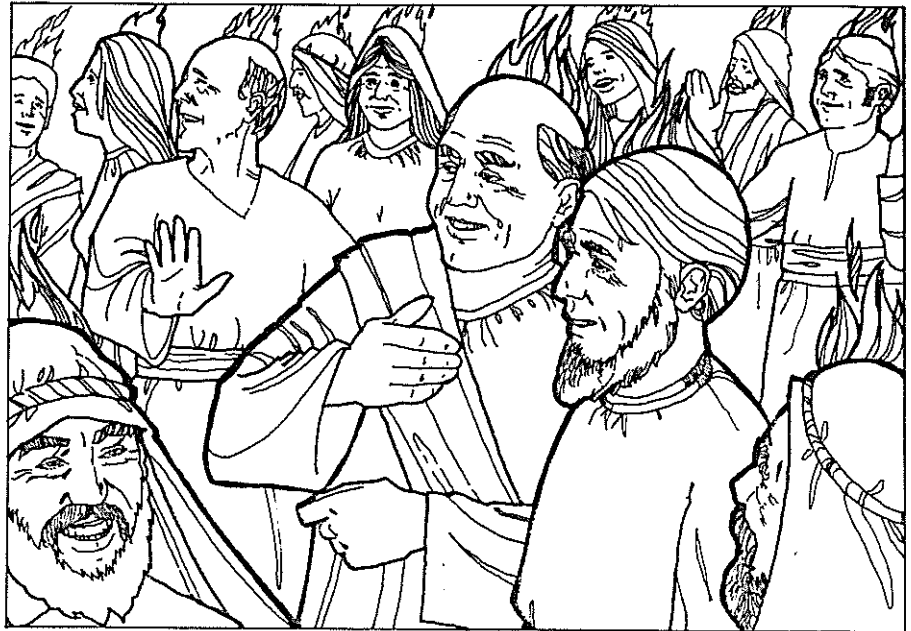
五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起こってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。

また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。

すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

使徒行伝2:1-4

使徒行伝1:5,8



## 1. 教会の誕生

### 1. 聖霊の約束

昇天する前にイエスは、弟子たちに上から力を与えられるまではエルサレムで待っているようにと命じました。聖霊のバプテスマがなければ、(マタイ28:19-20、マルコ16:15-18、ルカ24:45-47にある)大宣教使命はきっと実現不可能な仕事だったことでしょう。聖霊により励まされ、その力に満ちて福音が教えられていきました。使徒行伝1章8節で、イエスは弟子たちに力を約束しました。聖霊は弟子たちの働きを地の果てにまで及ぼさせる力でした。それはペンテコステの日エルサレムで始まることになっていました。

### 2. 屋上の間

エルサレムの屋上の間に約120名のイエスの弟子たちが集まっていました。その中には、イエスの母マリヤ(使徒行伝1:14)、イエスの兄弟たち、そして12使徒たちもいました。7日から10日の間、彼らはそこにどまり、祈りと願いとを捧げていました。そして五旬節の祭の日が来ました。

弟子たちは一つ思いになって祈り、礼拝をしていました。使徒行伝2章1-4節に、聖霊が初めて注がれたときのこと詳しく記されています。彼らが座っていた場所に、天から起こった激しい風の吹くような音が響き渡りました。

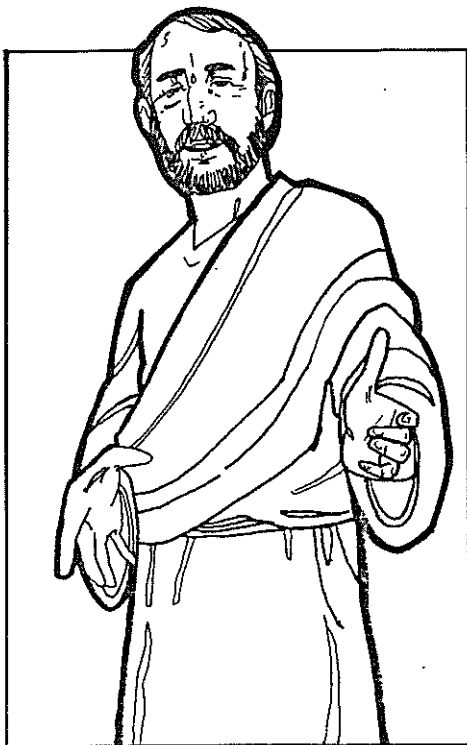
使徒行伝2章3節に、風に続いて起こった超自然的な出来事が記されています。すなわち、舌のようなものが炎のように分かれて現れ、一人一人の上にとどまったのです。

屋上の間で起こった多くの素晴らしい出来事の中でも、最大の奇跡は4節に記されている事です。彼らは全員聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに異国の言葉を語り出しました。彼らが全員聖霊に満たされた時、聖霊のバプテスマを受けたと分かるしるしが与えられました。すなわち、弟子たちは異国の言葉を話し始め、自分たちの知らない、学んだことのない言葉で神を賛美していました。

# ペテロ、キリストを語る／ 私たちへの神の計画

「ユダヤの人たち、ならびにエルサレムに住むすべての人が、どうか、この事を知っていただきたい。わたしの言うことに耳を傾けていただきたい。今は朝の9時であるから、この人たちは、あなたがたが思っているように、酒に酔っているのではない。そうではなく、これは預言者ヨエルが預言していたことに外ならないのである。すなわち、「神がこう仰せになる。終わりの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。…」  
使徒行伝2:14-17

だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである。  
使徒行伝2:36



私達は どうしたら  
よいのでしょうか？

すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがた、あなたがたの子らと、遠くの者一同に、与えられているものである」。  
使徒行伝2:38、39

3,000人が改心した！ 使徒行伝2:41

## Ⅱ. ペテロ、キリストを語る／私たちへの神の計画

### 1. ペンテコステの日

過ぎ越しの祭から50日後のペンテコステの祭はイスラエルの聖日でしたので、世界中からユダヤ人がエルサレムに集まっていました。屋上の間で起こった事は町中に伝わっていました。何が起きているのかを見ようと大勢の人が集まりました。弟子たちは聖霊の力に満たされて喜びながら異言を語っていました。イエスは弟子たちにヨハネ16章22-24節で、間もなく彼らの心は喜びで満たされ、その喜びを取り去る者はだれもないだろうと約束しました。聖霊のバプテスマはその約束の成就でした。使徒ペテロは後にそれを「言葉につくせない輝きにみちた喜び」と語っています。(1ペテロ1:8) 弟子たちが引き続き喜んでると、群衆の中に突如ざわめきが起こりました。弟子たちが彼らの生まれ故郷の言葉で神を賛美しているのが聞こえて来たからです。彼らの生まれ故郷の言葉など使徒たちが知る由もありませんでした。「これは、一体どういう訳なのだろう」と不思議に思う者もいれば、弟子たちが単に酒に酔っているのだろうということとその一件を片付けてしまう者もいました。

### 2. ペテロ、説教する

酒に酔っているのだという人々の言葉を聞いて、ペテロはすぐに弟子たちの弁護に立ち上がりました。その時のペテロは、主イエスが十字架につけられる際に臆病にも主を否定したあの弱いペテロではありませんでした。立ち上がり、この出来事を見に集まった群衆に向かって語り出したのは、力強いシモン・ペテロでした。それは、聖霊のバプテスマによって上から力を受けたからです。それはイエスがペテロに天国の鍵を与えると云ったときに、イエスが予想していた姿でした。ペテロは今やイエスに与えられた鍵を使う用意ができていました。以前は主を否定していたそのペテロが今度は主を大胆に語り出しました。彼の言葉は臆病で否定的なものではなく、勝利の響きをもっていました。



### 3. ペテロ、力強く説教する

ペテロは聖霊の注ぎによって、力強く説教しました。新しく誕生したイエス・キリストの教会におけるペテロの最初の説教に他の11人の弟子たちも全く同意していました。

「ユダヤの人たち、ならびにエルサレムに住むすべての人が、どうか、この事を知っていたきたい。わたしの言うことに耳を傾けていただきたい。今は朝の9時であるから、この人たちは、あなたがたが思っているように、酒に酔っているのではない」（使徒行伝2:14-15）

#### a. ヨエルの預言の成就

聖霊の注ぎはヨエルの預言、すなわち、終わりの時に神がすべての肉なる者にご自分の霊を注ぐだろう、と言われたこと（ヨエル2:28）の成就であるとペテロは宣言しました。他国の言葉を語るといふしを伴い、聖霊が世界各地で注がれることは教会時代全体を通じて人類への神の祝福です。ペテロは人々にキリストの死、埋葬、復活を説教しました。そして彼らの罪深い手でキリストをカルバリで死なせたのだと彼らに語りました。

#### b. 高められたキリスト

彼らが十字架につけたこのイエスを、神は、主、またキリストとして立てられたことを宣言してペテロの説教はクライマックスに達しました。人々は油注がれたペテロの説教を聞いて罪の意識に責められました。強く心を刺され、真剣に、彼らはペテロや他の使徒たちに問いかけました。

「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」（使徒行伝2:37）

### 4. 神の救いの計画

真摯な問いかけには真実な答えがきます。人の永遠の命がかかっている時には特にそうあるべきです。彼らは「わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と尋ねました。これはとても大切な質問です。彼らは自分たちがどうしたら救われるのかを知りたがっていました。人々に正しい新約の救いの計画を伝える責任はペテロの肩にかかっていました。このペテロには天国の鍵が与えられていました。そこでペテロは鍵を使って救いの扉を開けようとした。躊躇することなく、他の使徒たちの同意を受けて、この霊的に飢え渴いた人々に大胆に答えました。

「すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりひとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう』（使徒行伝2:38）

なんと素晴らしいことでしょう！ 罪を悔い改めてイエス・キリストの名によってバプテスマを受けるという神の命令に従うことで、彼らもあの120人が受けたのと同じ素晴らしい聖霊のバプテスマを約束されたのです。39節でペテロは、イエスが再び来られるまでの教会時代全体に、全ての信者への聖霊の約束を宣べました。

「この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」（使徒行伝2:39）

ペテロは多くの言葉を語り、時が迫っているのでためらうことなく救われるようにと群衆を勧めました。ペテロが語り終えるまでに神の言葉が働きました。3千人がイエスの御名によってバプテスマを受けました。神はその約束を成就され、彼らは全員聖霊のバプテスマを受けました。神の力強い祝福がエルサレムに下りました。

# 悔い改め

## 神の救いの計画の第一歩

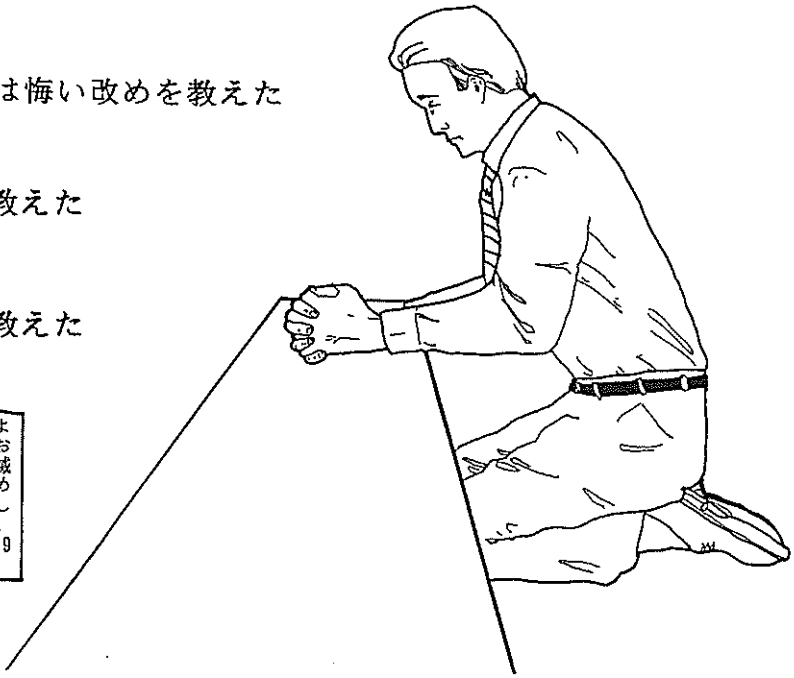
過去の罪に対して嘆きと  
自責の念を感じ、今後は  
罪から離れること。

バプテスマのヨハネは悔い改めを教えた  
マタイ3:2  
マルコ1:4

イエスは悔い改めを教えた  
ルカ13:3  
ルカ24:47

ペテロは悔い改めを教えた  
使徒行伝2:38

ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔い改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。  
2ペテロ3:9



### Ⅲ. 悔い改め

悔い改めはペンテコステの日に与えられた最初のもので、悔い改めとは次のようなことを意味しています。

悔い改め— 犯した罪に対して、神からくる悲しみと、罪の自覚を感じ、それらの罪に背を向けようと強く決心して、神に立ち返ろうとすること。

悔い改めは罪の生活を離れる行為です。悔い改めは救いのためには不可欠であると、聖書は強調しています。

1. ソドムとゴモラ  
(創世記19章) — 悔い改めませんでした。そのためこれらの町は火と硫黄で滅ぼされました。
2. ヨナ  
(マタイ12:41) — ニネベの人たちは、ヨナの説教を聞いて悔い改めました。この事実は今の世代に悔い改めることを拒む人々を責めるであろうとイエスは言いました。
3. バプテスマのヨハネ  
自分の働き(ミニストリー)において、全てのユダヤ人に、悔い改めて天国のために心を備えよと命じました。
4. イエス・キリスト  
(ルカ13:3) — 何度も「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」と言いました。
5. 大宣教使命  
(ルカ24:47) — イエスが昇天する前、イエスが最後に言ったことは悔い改めの命令でした。
6. ペンテコステの日  
(使徒行伝2:38) — 悔い改めは使徒ペテロにが説教した救いの計画の第一歩です。

# バプテスマで イエスと共に埋葬される

すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいのちに生きるためである。  
ローマ6:4

イエスは答えられた、「よくよくあなたがたに言うておく。だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない。  
ヨハネ3:5

すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。  
使徒行伝2:38

キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。  
ガラテヤ3:27

人々はこれ聞いて、主イエスの名によるバプテスマを受けた。  
使徒行伝19:5

そこで車をとめさせ、ピリポと宦官と、ふたりとも、水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。ふたりが水から上がると、主の霊がピリポをさらって行ったので、宦官はもう彼を見ることができなかった。宦官はよろこびながら旅をつづけた。  
使徒行伝8:38,39

こう言って、ペテロはその人々に命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、なお数日のあいだ滞在してもらった。  
使徒行伝10:48

そこで今、なんのためらうことがあるうか。すぐ立って、み名をとなえてバプテスマを受け、あなたの罪を洗い落とさなさい。  
使徒行伝22:16

信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。  
マルコ16:16

それゆえに、あなたがたは行って、すべての國民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、  
マタイ28:19

それは、彼らはただ主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだだれにも下っていないからである。  
使徒行伝8:16

方法は？ イエス・キリストの御名による全身浸礼

誰が？ 新約を信じる者は全てイエスの御名によりバプテスマを受けた

## IV. バプテスマでイエスと共に埋葬される

次にペテロが命じたことはバプテスマを受けることでした。

### 1. どのように？

聖書に示されているバプテスマの方法は1つだけです。それは全身浸礼によるものです。バプテスマという言葉はギリシア語の「バプティゾ」という言葉から来ており、「浸す」、「沈める」、「水に浸ける」ということを意味します。バプテスマを受ける者を水に完全につけることは大切です。聖書では悔い改めは死を表します。イエス・キリストに出会う前の、罪や不信仰な生活に対する死です。霊的な意味で言えば、人が悔い改めの祭壇に来るとき、その人は実際にカルバリの十字架に来ているのです。古い肉の性質は、キリストと共に十字架につけられます。(罪に)死んだ後は、埋葬されなければなりません。それは、ローマ6:4「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである」からです。悔い改めにおいてカルバリへとイエスに従います。バプテスマについて墓へとイエスに従い、彼と共に埋葬されます。では、どのように人は埋葬されるのでしょうか？ 埋葬の際手のひらに何回分かの土をかけて済ませるのでしょうか。勿論そんなことはしません！ それでは正しい埋葬とは言えません。「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒行伝4:12)

イエスはマタイ28章19節で「父と子と聖霊の名(単数形)・・・in the Name of・・・」によってバプテスマを授けるよう弟子たちに命じました。父と子と聖霊は名前ではなく、神の肩書です。

- イエスは創造における父です。
- イエスは贖いにおける御子です。
- イエスは信じる者のうちに住む聖霊です。

父と子と聖霊というのは、ただ単に肩書にすぎません。大宣教使命（マタイ28:19）が与えられた時に、それは一つの名でバプテスマを受けるべきこと、そしてその一つの名とは父と子と聖霊の名であり、その名がすなわちイエスであると、弟子たちは理解していました。

父の名はイエスーヨハネ5:43

御子の名はイエスーマタイ1:21

聖霊の名はイエスーヨハネ14:26

イエスはルカ24章45-47節で、イエスの御名のこの偉大な真理に対する理解力を弟子たちに与えられました。ですから聖書の様々な箇所、弟子たちは罪の許しのためにいつもイエス・キリストの御名によってバプテスマを受けることで、マタイ28章19節に従いました。（使徒2:38、使徒8:16、使徒10:48、使徒19:5）

第8課／チャート5

# あなたは聖霊を受けましたか？

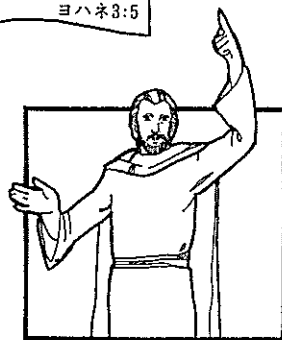


イエスが言った

イエスは答えられた、「よくよくあなたがたに言っておく。だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない。  
ヨハネ3:5

ペテロが言った

すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」。  
使徒行伝2:38、39



パウロが言った

しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは内におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人は、キリストのものではない。  
ローマ8:9

## V. あなたは聖霊を受けましたか？

使徒行伝2章38節で与えられている救いの計画の3つ目のステップは「聖霊の賜物を受ける」ことです。

### 1. イエス、聖霊について述べた

イエスはヨハネ3章5節で、この素晴らしい経験を預言しました。「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」 この聖句だけでも、聖霊のバプテスマを受けることが絶対に必要であることが解ります。

## 2. パウロ、聖霊について説教した

聖霊の素晴らしい賜物を受けることが必須であるという事実が、使徒パウロの言葉でも強調されています。「もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない」(ローマ8:9) それはイエス・キリストの血により得られる素晴らしい特権です。今までに主が人に与えられたもののうちで最大の経験です。キリストが人の体(宮)の中に住みます。その体は全能の神の宮となります。

## 3. ペテロ、聖霊について語った

使徒ペテロは使徒行伝2章38節で、聖霊の経験について語りました。聖霊のバプテスマによって、創造主が自分で造った人間の中に住む時の感動をペテロは説明しています。すなわち「言葉につくせない、輝きにみちた喜び」と言っています。パウロはそれは「義と平和と喜び」であると表現しています。(ローマ14:17) しかし、最も素晴らしいのは、悔い改めて、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるという命令に従う全ての者に聖霊のバプテスマが約束されていることです。

第8課/チャート6

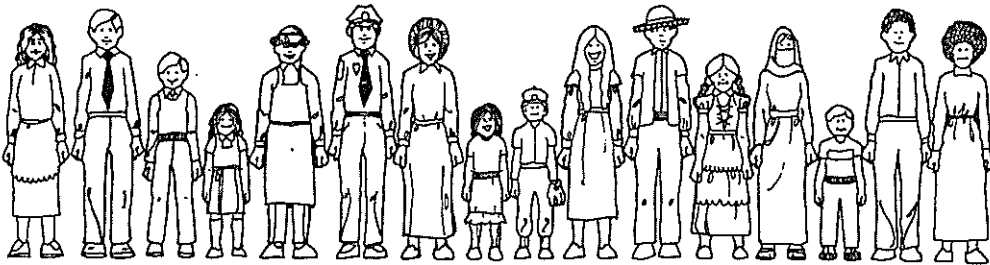
# 聖霊のしるし

「・・・御霊が語らせるままに、  
いろいろの他国の言葉で語りだした」

使徒行伝2:4

それは、彼らが異言を語って神をさんびしているのを聞いたからである。  
使徒行伝10:46

使徒達 — 使徒行伝2  
イエスの母 — 使徒行伝2  
サマリヤ人 — 使徒行伝8  
コルネリオと彼の家族、友人達 — 使徒行伝10  
バプテスマのヨハネの弟子達 — 使徒行伝19  
パウロ — 1コリント14:18,39



聖霊は全ての人に 使徒行伝11:14-17

## VII. 聖霊のしるし

使徒行伝2章1-4節に、初めて聖霊が下ったときのことが記されています。屋上の中で、彼らは他国の言葉(異言)を語りました。聖霊を受けると皆、異言を語るのでしょうか? これは真剣に考えるべき問題です。異言を語る必要性についての答えは全て聖書にあります。聖書の中で、だれが異言を語ったでしょうか?

### 1. 屋上の間の全員が聖霊に満たされた

使徒行伝2章4節には、ペンテコステの日に彼らが「全員」聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに他国の言葉で語り出したことが記されています。除外された者は一人もいませんでした。神がご自分の霊を注いだ時、120人全員が異言を語りました。その120人の中にはイエスの母マリヤ、イエスの兄弟たち、残りの使徒たち全員も含まれていました。

### 2. サマリヤ人、聖霊を受ける

使徒行伝8章13-17節 — サマリヤ人も聖霊を受けたときに異言を語りました。ですから彼らが聖霊を受けたことはだれの目にも明らかでした。魔術師のシモンさえ、彼らが聖霊を受けたことが分かりました。

### 3. 異邦人

使徒行伝10章44-48節 — 聖霊がコルネリオと一緒にいた他の異邦人にも下り、彼らは全員異言を語りました。

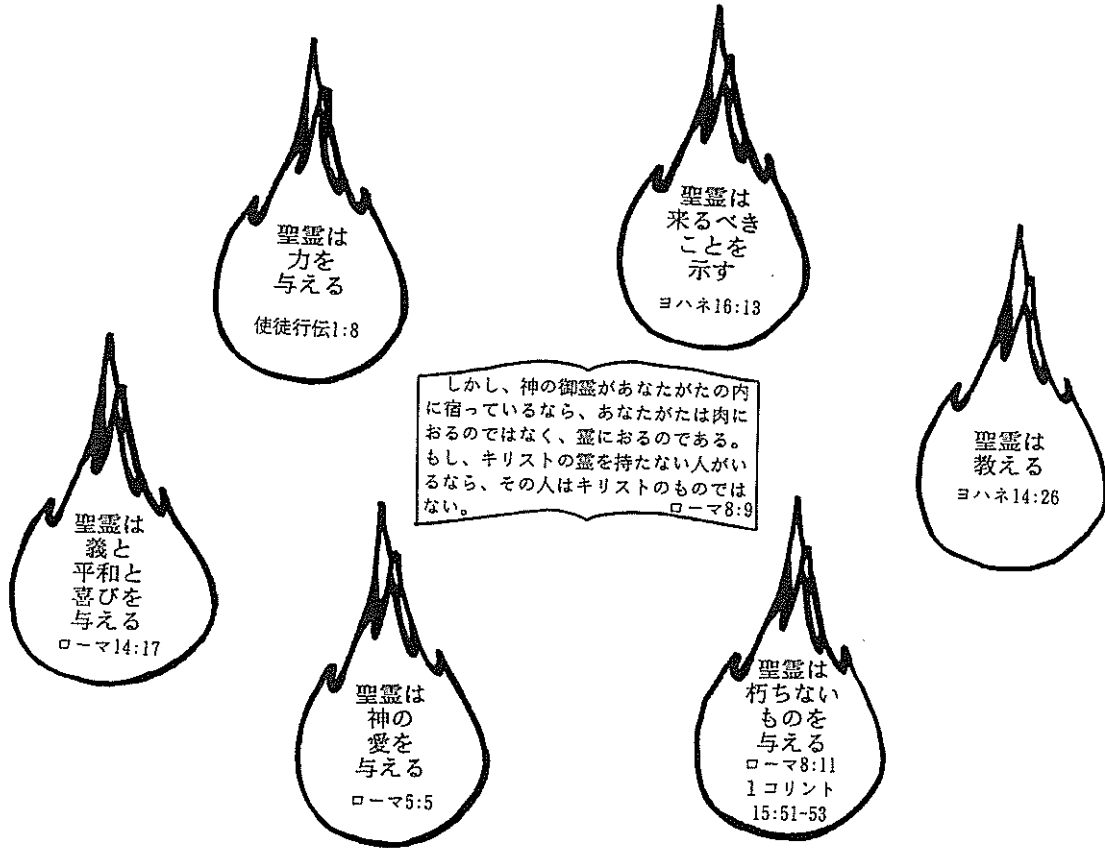
### 4. バプテスマのヨハネの弟子たち

使徒行伝19章1-6節で、バプテスマのヨハネの弟子たちは、使徒パウロによってイエスの御名によるバプテスマを受け直し、異言を語るというしるしを伴って聖霊に満たされました。

聖霊が注がれた時はいつも、異言を語るしるしが伴います。使徒行伝を通してそのような表現が必ずなされているか、少なくとも強く暗示されています。

メモ： \_\_\_\_\_

# 聖霊の力



## Ⅶ. 聖霊の力

### 1. 聖霊はキリストの再臨時に朽ちない体を与える

聖霊のバプテスマは、イエス・キリストを死からよみがえらせたまさにその力です。このことだけでも、私たちがイエスの霊のバプテスマを受ける必要性が解ります。私たちの内に住まわれるキリストの霊がなくては、再臨されるイエスにお会いする時、私たちをよみがえらせてくれる力がないことでしょう。ですからパウロはローマ8章11節でこう言っているのです。「もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださいませるであろう」ローマ8章9節、1コリント15章51-53節も参照して下さい。

### 2. 聖霊は力を与える

聖霊のバプテスマは信じる者に主の証人となる大きな力を与えます。初期教会の弟子たちが当時の墮落した世界を救うには、聖霊の力がなくては無力だったことでしょう。しかし、彼らの内にある神の霊によって、強大なローマ帝国でさえ、カルバリの福音で征服することができました。この同じ力を信仰をもって求めるなら、その人に与えられるでしょう。イエスは使徒行伝1章8節で言っています。「聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、～」

### 3. 聖霊は教える

聖書は人の考えや能力の産物ではなく、「人々が聖霊に感じ、神によって語った」書物です。(2ペテロ1:21)  
聖書が書かれるのに神の靈感が必要なのですから、聖書を理解するにも神の靈感が必要です。イエスは、聖霊が「あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう」と約束されました。(ヨハネ14:26)

### 4. 聖霊は来るべきことを教える (ヨハネ16:13)

主は、主と共に歩む者にご自分の預言的な言葉を理解する力を与えます。また終わりの世にある私たちに、教会や世界が進む方向を悟らせます。1テサロニゲ5章4節を参照下さい。

### 5. 聖霊は義、平安、喜びを与える (ローマ14:17)

聖霊は聖く、健全な生活をするための力を与えるだけでなく、キリストの霊の満たしのみが与えることのできる喜びと平安をも伴います。それはまさしくパウロが表現したように「言葉につくせない、輝きにみちた喜び」です。(1ペテロ1:8)

### 6. 聖霊は神の愛を分け与える

ローマ5章5節は「わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」と言っています。聖霊の賜物は神の愛のパプテスマです。神自身から出る限りない愛は、私たちの心を満たし、私たちの中から力強い激流のようにあふれ出ます。それは渴く者の心に本気で呼びかけている愛です。「かわいている者はここに来るがよい」(黙示録22:17)

メモ : \_\_\_\_\_





## I. 聖霊の賜物

1. 賜物は教会の益になるためである。 1コリント12:7
  - a. 聖霊の賜物と聖霊の実の違い 1コリント12、ガラテヤ5:22-26
  - b. 賜物を用いる際の細心の配慮 1コリント14
2. 霊の9つの賜物
  - a. 超自然的に「知る」力を与える賜物
    - 1) 知恵の言葉 1コリント12:8、マタイ21:23-27、22:15-22
    - 2) 知識の言葉 1コリント12:8、使徒5:1-10
    - 3) 霊を見分ける力 1コリ12:10、1ヨハネ4:1、使徒8:23、16:16-18
  - b. 超自然的に「行う」力を与える賜物
    - 1) 信仰 1コリント12:9、ヘブル11:6、使徒3:4,16
    - 2) 力あるわざ 1コリント12:10、使徒9:40、19:11,12、20:10
    - 3) いやしの賜物 1コリント12:9
  - c. 超自然的に「話す」力を与える賜物
    - 1) 預言 1コリント12:10、14:3,5,22
    - 2) 種々の異言 1コリント12:10、14:13-27
    - 3) 異言を解く力 1コリント12:10、14:13,28

## II. 古い人から新しい人へ

1. 大いなるわざ
  - a. イエス、変化をもたらす 2コリント5:17、エペソ4:22-24
  - b. イエス、勝利をもたらす ヨハネ16:33、1コリント15:57、1ヨハネ5:4,5
  - c. 人の3つの敵
    - 1) 悪魔 ヘブル2:14
    - 2) 不信仰な欲に満ちた世 1ヨハネ2:16
    - 3) 肉 ヘブル4:15
2. 肉の働き — 古い人 ガラテヤ5:19
3. 霊の働き — 新しい人 1コリント13:11
4. 聖霊の実 ガラテヤ5:22,23、エペソ4:24
  - a. 豊かな命のための法則 ルカ6:43-45、ローマ12:21
  - b. 自分の民への神の計画 ヨハネ15:8、1コリント10:3-5、ガラテヤ4:29
  - c. パウロの忠告 ローマ6:12,13

## III. 聖潔の美

1. 命の道 申命記30:19
  - a. どの道に私たちは行くべきか? ヘブル11:25
  - b. よりイエスのようになる 2コリント4:4、エペソ4:24、コロサイ1:15、1ペテロ1:15
  - c. 聖潔—美しい命の道 詩篇29:2
2. 聖潔を完成していく ローマ6:19、8:16、1コリント6:17、2コリント5:17
  - a. 主によって成長する エペソ4:15、1ペテロ2:2、2ペテロ3:18
  - b. 気にかけて下さっているキリスト ヨハネ3:16

# 霊の賜物

1コリント12:1-10



## 1. 霊の賜物

神の霊の注ぎは、聖書で「教会」として定義されている霊的な体（信者の集団）を形成しました。（エペソ1:22-23） 霊の超自然的な現れが起きました。それは「霊の賜物」と呼ばれています。「超自然的」とはそれが人間の理性で理解したり説明したりすることは不可能で、「自然の法則」にも縛られないということです。普通の人間の理解力だけで、神の力を制限すべきではありません。神が以下のように語っているからです。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ55:8-9）

使徒パウロは霊の賜物の使い方についてコリント人に教える前に、コリント人への第一の手紙2章11節で、彼らに以下のように思い起こさせています。

「～神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない」

これは人が神のことを学ぶことはできないと言っているのではなく、世の知恵によって理解することができないということです。人間の理性では霊的な真実を会得することはできません。

### 1. 賜物は教会の益である

霊の賜物は教会やそのメンバーの益となるように、教会に与えられたものです。

「各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである」（1コリント12:7）

今日、賜物はもはや教会で経験するようなものではないと言う人がいます。しかしどの賜物の働きもなくなった記録は、歴史にないだけでなく、聖句にもそのような表現はありません。

人の体は手、指、目、耳など多くの部分から成っています。キリストの体も同様です。一つの体に多くの部分があ

り、その全てがとても大切です。ある部分は目立って大切なように思われるかも知れませんが、どの部分も必要とされているのです。

#### a. 霊の賜物と御霊の実の違い

霊の賜物は御霊の実と混同しないようにすべきです。御霊の実は信者の性格における霊の恵みです。御霊の実は全て信者一人一人に現れるべきものです。一方、霊の賜物は神により教会を導き、祝福するのに用いられるものです。

#### b. 賜物を用いる際の細心の配慮

霊の賜物を用いるには十分な配慮が払われなければなりません。コリントの教会は「人目を引くような」賜物ばかりに目が向き過ぎてしまいました。そのためパウロはその教会に霊の賜物の約束事を教えるため手紙を書きました。(1コリント14参照)

### 2. 霊の9つの賜物

「霊の賜物については、次のことを知らずにいてもらいたくない」(1コリント12:1)

賜物は以下のように3種類に分けられます。

#### a. 超自然的に「知る」力を与える賜物

##### (1) 知恵の言葉

辞書によれば普通の知恵とは、身につけた経験や知識を応用する能力です。

「知恵の言葉」と「知識の言葉」は霊の超自然的な現れで、普通の人間では及ばないレベルのものです。

「知恵の言葉」は、「知識の言葉」が通常の知識とは関係ないのと同様に、通常の知恵とは何の関係もありません。

「知恵の言葉」は超自然的で、この世の知恵とは関係ありません。

私たちが必要としている答えが、人の知恵によって来ないような場合、特定の状況に、特定の時に、霊により与えられる特別な「知恵の言葉」が必要となります。

それが「知恵の言葉」の賜物なのです。それは、永久に超自然的な知恵が与えられているというのではなく、その時々々に聖霊の直接の働きを通して語ることを示唆しています。

教会の通常の生活において、常に賢い指導者が求められています。問題が起こり、扱いにくい状況が最も霊的な信者の間に起こることでしょう。

- 例： A. やもめへの日々の世話の問題に関する使徒たちの対処の仕方 使徒行伝6:1-7  
B. バプテスマのヨハネについての質問へのイエスの対処の仕方 マタイ21:23-27  
C. カイザルに税金を納めることに関する質問 マタイ22:15-22

しかし「知恵の言葉」は聖霊による超自然的な神の意志の現れです。すなわち超自然的に神の思いと意志を明らかにし、物事、人事、個人、社会や国に至るまでの神の計画と意志を表します。

##### (2) 知識の言葉

クリスチャンは皆「わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて」成長するよう熱心に努めなければなりません。(2ペテロ3:18)

聖書は「知識の賜物」とは言わずに、「知識の言葉」と言っています。

全ての知識は結局は神と共にあるものであり、「キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されています」(コロサイ2:3) 神の霊は望むままにどんな時にも、その「全ての知識」の中から必要な知識を与えて下さいます。聖霊の油注ぎにより人に「知識の言葉」を与えられます。それは人、場所、物、出来事について、神が示されなければ知ることができないようなことの、神からの事実と言えます。

- 例： ペテロとアナニヤとサッピラ 使徒行伝5:1-10

##### (3) 霊を見分ける力

聖書は「見分ける賜物」とは言わず、「霊を見分ける力」と言っています。

1ヨハネ4章1節は私たちにこう警告しています。「～すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい～」

この賜物は何が事実で、何が偽りかを見分ける手段として教会に与えられます。

「霊を見分ける力」の賜物は、防御というだけでなく、ある人を通して悪霊がある人に働いているのを見分けることができれば、イエス・キリストの御名の力によってその人を救うことができるという点で攻撃でもあります。

- A. ペテロの魔術師シモンへの叱責は、シモンの心にある霊を識別したことによっています 使徒行伝8:23  
B. パウロはピリピで女に取り憑いていた霊を叱責しました 使徒行伝16:16-18

## b. 超自然的に「行う」力を与える賜物

(1) 信仰： 信仰という御霊の賜物は、それが無くては神を喜ばせることはできないという普通の信仰（ヘブル11:6）とは異なるものです。

救いの信仰は神の賜物です（エペソ2:8）が、これは1コリント12章9節に書かれている御霊の賜物である信仰とは異なります。

神の言葉を聞くことによって来る信仰もあります（ローマ10:17）が、信仰の賜物は御霊によってもたらされます。

（1コリント12:7,9,11）

「信仰」の賜物は、私たちが神の子として持っている信仰以上の信仰です。他の霊の賜物と同様に、御霊によって私たちに与えられた特別な信仰です。信仰の賜物はどんな分別も越えて、臆せず不可能な事柄を見、それらを奇跡へと変えます。（使徒行伝8:4,16）

無条件に神を信じることができる、という時が人生にはあることでしょう。その信仰により行動しなさい。そして神が信仰を通してなされることを喜びなさい。

(2) 力あるわざの賜物： 新約聖書は以下のような奇跡が起こったことを記しています。

A. 蘇ったドルカス（タビタ） 使徒行伝9:40

B. 蘇ったユテコ 使徒行伝20:10

C. エペソで神は奇跡的な数々のいやしをしました 使徒行伝19:11,12

奇跡の働きは、御霊の賜物であり、人を通して神の超自然的な力が働き、瞬時の超自然的いやしや出来事をもたらします。

(3) いやしの賜物： ある人にだけ与えられているこの特別な「いやしの賜物」は、イエス・キリストの信者が病人がいやされるように手を置くこと（マルコ16:18）や、教会の長老がいやしのために油を塗ること（ヤコブ5:14）を排除するものではありません。

そのような務めは、いやしの賜物を持っているかどうかに影響されません。

「いやしの賜物」が働いて、手が病人の上に置かれたとき、神は病気や悩みの源を取り除くことができ、いやしがそれに続きます。

## C. 超自然的に「語る」力を与える賜物

(1) 預言： 預言は2種類に分けられます：

1. forthtelling 油注がれてあたまも目の前で練り広げられていることのように語る（聖書の中の話などを）

2. foretelling 先のことを語る、預言

預言は常に神の言葉と一致するというのを記憶しておくべきです。預言は聖書にとって代わるものではなく、聖書の価値を半減したりするようなものではありません。預言はいつも聖書と一致しているべきです。

預言者は預言をしますが、預言の賜物を用いるからといって、その人が預言者であるとは言えません。（エペソ4:11-13）

預言の賜物は徳、励まし、慰めを教会にもたらします。 1コリント14:3,5 「預言は未信者のためではなく信者のためのしるしである」 1コリント14:22

(2) 種々の異言： 聖書は異言を語ることを3つに分類しています。

A. 聖霊のバプテスマを受けた最初のしるし 使徒行伝2:4,10:44-46,19:6

B. 祈りの中で神に語る 1コリント14:2,14,15; 1コリント14:4「異言を語る者は自分だけの徳を高める」  
信者は個人的な祈りにおいて異言で語るができ、解き明かしの必要は全くありません。

C. 教会へ宛てられたもの。解き明かしが伴います。 1コリント14:13-27

(3) 異言の解き明かし： これは一字一句をそのまま別の言葉に置き換える（翻訳）という意味ではなく、別の言葉で解釈することなのだということに注意して下さい。「種々の異言」の賜物によって教会にメッセージがもたらされた場合、教会の徳を高めるために「異言の解き明かし」の賜物もなくてはなりません。

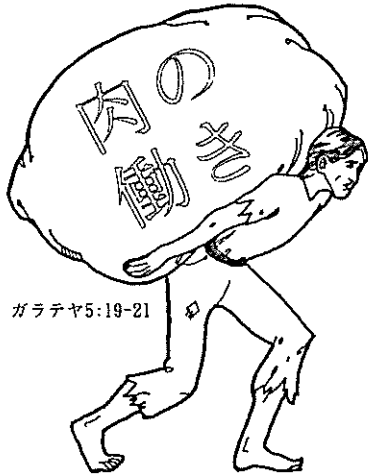
1コリント14:13「異言を語る者は、自分でそれを解くことができるように祈りなさい」 教会の徳を高めるように求めるべきです。 1コリント14:12

もし解き明かす人が一人もいないなら、異言を語っている人は教会では黙っているべきです。1コリント14:28  
霊の賜物は全て牧師の管理の下にあるべきです。

正しい指示の下での賜物は、それぞれの教会において大きな祝福となります。牧師はいつでも御霊の賜物の働きを最終的に判断する監督者であるべきです。（1コリント14:29,33 参照）

霊の賜物の働きを判断できる人がいることは大切なことです。（29節）

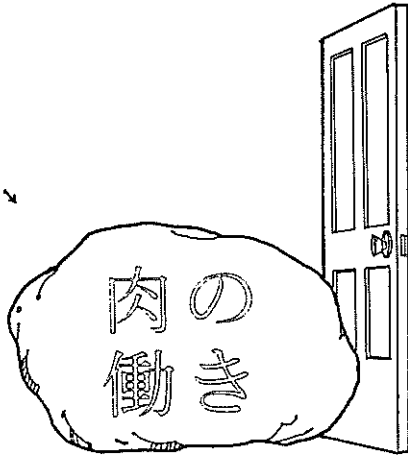
# 古い人から新しい人へ



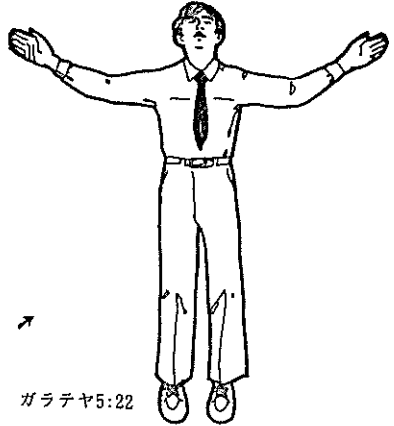
ガラテヤ5:19-21

不品行(姦いん、情交) 汚れ 好色  
偶像礼拝 まじない 魔道 争い  
そねみ 怒り 党派心 分裂 分派  
ねたみ (殺人) 泥酔 宴楽

すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。  
エペソ4:22-24



御霊の実



ガラテヤ5:22

愛 喜び 平和 寛容  
慈愛 謙遜  
忠実 柔和 自制

## II. 古い人から新しい人へ

奇跡的な神の力が教会で現されるのを見るのは素晴らしいことです。ですが、起こり得る奇跡の中でも最大のものは、「新生」による人生一変の経験をするることでしょう。(ヨハネ3:5) イエスは自分の働きの中で、死人をよみがえらせたり力強い数々の奇跡を行いました。イエスは使徒たちにも同様の奇跡を行う力を授けましたが、霊が彼らに服従するからといって喜ぶのではなく、「あなたがたの名が天にしている」ことを喜びなさいと言いました。(ルカ10:20) 他どの奇跡にもまして、救いと永遠の命という奇跡に、主はより関心をもっていたことが分かります。救いは常に、人に対して神が最優先するものなのです。

### I. 大いなる使命

奇跡に関してイエスはこう言いました。「そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである」(ヨハネ14:12) イエスが行った以上の大きな奇跡のわざをどうやって人が出来るのでしょうか? これは主がカルバリに行かれた後になされる奇跡を表していました。行われる中でも最大の奇跡はイエスの血の解放力、イエスの霊を通して与えられる「新しい命」について語ることでした。(使徒行伝2:4, 38, 39) カルバリで自分の命を与え、よみがえり、昇天してからずっと、自分のもつて来る全ての者に対してイエスは「新しい命」という素晴らしい奇跡を与えています。(ヨハネ10:10)

#### a. イエス、変化をもたらす

イエスの教え、愛、哀れみは全て、人々の注意を神の力に向けさせるためでした。この力は悩む空虚な命を喜びのある豊かな命へと変え得るものでした。イエスの務めは天の喜びを与え、人の心や魂に神の命を与えることでした。

## b. イエス、勝利をもたらす

イエスは悪魔の力、人の弱さ、人生の苦闘に対する勝利を与えています。(ヨハネ16:33、1ヨハネ5:4-5、1コリント15:57) えじきとなっている者から罪ののろいを取り除くという勝利の代価を、自分の命を与えることで支払いました。それによって、罪を征服し、人がこの「新しい命」を受けるための扉を開きました。イエスは人に自分の命を与えました。それによって、人がまさった命の道である「新しい命」を経験できるようになります。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」(2コリント5:17)

## c. 人の3つの敵

聖霊のバプテスマを受けることは、実際、内に宿られる神のご臨在と命を受けることです。イエスは以下のものを征服しました。

- (1) 悪魔(ヘブル2:14)
- (2) 不信仰な欲に満ちた世(1ヨハネ2:16、ヨハネ16:33)
- (3) 肉(ヘブル4:15)

イエスは信じる者の心に住み、今もこれら3つの敵を打ち負かし続けています。これらの敵のうち2つ(悪魔と世)は、体の外にあります。しかし最強の敵は人自身の中にあるように思われます。「すなわち内部から、人の心から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、姦淫、食欲、邪悪、欺き、好色、ねたみ、誹り、高慢、愚痴。これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」(マルコ7:21-23)

## 2. 肉の働き — 古い人

これらの全てのことは肉の欲と罪の性質から来ます。この性質はガラテヤ5章19-21節に描かれています。「肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである」 そのままの状態では、信じがたい程の悪を行う可能性が人の心に秘められています。この罪の性質の願望に従って生きる限り、神を喜ばすことは不可能であり、そのような心は神に敵対するものである、と聖書は教えています。肉の思いは神の律法に従い得ません。(ローマ8:7) それ故に神は、新しい性質(ローマ7:6、1コリント6:17)、新しい思い(1コリント2:16)、新しい心(エゼキエル36:26-27、ローマ5:5)を下さり、新しい命に満ちた(ローマ6:4、2コリント5:17)、新しい人(エペソ4:24)にして下さるのです。なぜなら古き人(エペソ4:22)では神を喜ばすことはできないからです。古き人は神のことを理解することができません(1コリント2:14)し、神の前に聖く生きることもできません。(ローマ8:5-8) 甘い水と苦い水が同じ泉から湧き出ることがあり得るでしょうか。(ヤコブ3:11) もちろん、そんなことはありません! 同様に、古い劣った性質に生きる人が、新しく造られた人のような実を結ぶことはできません。

## 3. 霊の働き — 新しい人

この新しい人に、神は多くの約束を与えています。古い人にはのろいばかりがありました。行動は心から直接くるもの(ルカ6:45、1コリント13:11)です。それ故に神は、人の心に新しい性格をもった新しい心を作る必要がありました。心にある感情に頼ることはできません。本来の人の心は「よろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だがこれを、よく知ることができようか」とある通りだからです。(エレミヤ17:9) あなたが知る限りで最も邪悪で不誠実な人に全てのことを任せるのは安全なことでしょうか。賢い人ならそのようなことはしません。そして自分の心さえも頼ることはできないと聖書に記されています。詩篇の著者であり、王であったダビデは自分の心に殺意があるとは夢にも思いませんでした。ダビデは自分の心を信頼することはできないと気づくのが遅すぎました。ダビデは神に自分の心を探り、試し、心の内に悪い道があるかないかを見て、とこしえの道へ自分を導いて下さるように求めるということを学びました。(詩篇139:23-24) 神に対するこうした正直な心からの願いは、自分の永遠の運命を左右する、唯一の望みです。

聖霊が心を照らすことなしに、推理や世の論理で神のものを知ったり、見いだしたりすることはできないということ覚えておいて下さい。(1コリント2:11、2コリント4:6)

## 4. 御霊の実

心の中に住まわれた神の霊は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、慈善、忠実、柔和、自制の実を結びます。(ガラテヤ5:22-23) 内住の御霊は、以前は人を滅ぼしていたものを征服します。不信仰は信仰に、憎しみは愛に、怒りと争いは寛容と自制に、恐れは愛と忍耐に、束縛は解放にと、征服されます。神が古き人を全く新しい人に変えて下さり、真の神の姿へと開花するのを見るのは何と素晴らしい経験でしょうか。(エペソ4:24)

### a. 豊かな命のための法則

パウロは豊かな命のための法則を与えました。「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい」(ローマ12:21) イエスがルカ6章43-45節で言ったことに耳を傾けてみましょう。「悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。心からあふれ出ることを、口が語るものである」 ですから、良い実を結ぶためには、新しい心を持つ必要があります。(箴言4:23) クリスチャンが異言で神への賛美と礼拝を語るのは別に不思議なことではありません。こうした賛美は、イエスが今住んでいる心から流れ出るからです。(ローマ8:26参照) この御霊による言葉は人が新しい心を受けているという、全く否定できないしるしです。「なぜなら人の口は心を満たしていることを語るからである」(Today's English Version, ルカ6:45)

### b. 自分の民への神の計画

神の民の心に「御霊の実」を結ぶことは、神の最終的な目的です。(ヨハネ15:8) 御霊の実を結ぶ命は意味のある完全な命であると神は知っています。

しかし、各自の心の中の神の働きに古い人(罪の性質)による妨害があります。今や新しい人の中には神の性質と肉の罪深い性質(ガラテヤ4:29)という2つの性質があるからです。(2コリント10:3-5) この罪深い性質を打ち負かすべきであるとパウロは言いました。時として、人の心の中での苦闘が失敗に終わることもあります。しかし神を信頼し続けるならば、きっと勝利を得ることでしょう。子供がようやく歩けるようになるまでには何度も転びます。神の子供が過ちを侵して転んでも、神は怒られずに、許しと起き上がって再び歩く力を約束して下さっています。(ヘブル12:3-4、1ヨハネ1:9、ヘブル4:15-16)

### c. パウロの忠告

こうした苦闘の間に、突然古き人の支配を許してしまったローマのクリスチャンにパウロはこう戒めを与えました。

「だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげるがよい」(ローマ6:12-13)

メモ: \_\_\_\_\_

## 聖潔の美

み名の栄光を主に帰せよ。聖なる装いをもって主を拜め。

詩篇29:2

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

マタイ5:16

愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。

2コリント7:1

すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。

ヘブル12:14



私達の生活はイエスのようであるべきである

### Ⅲ. 聖潔の美

人生の旅路を具体的にみる事ができるとしたら、おそらく人は目の前に遥かな時へとつながっている二つの道を見ることと思います。この2つの道は(1)命の道(使徒行伝2:28)と(2)死の道(箴言14:12)です。1つは祝福の道であり、もう片方はのろいの道です。

「わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう」(申命記30:19)

#### 1. 命の旅

どんな旅でもその途中には様々な楽しい場所があるものです。旅の各地点での楽しみを十分に味わわないとしたら、おそらくその旅は味気無いものになってしまうでしょう。出掛ける時には、大抵の場合、旅行時間が許す限り多くのことを楽しもうと計画をたてるものです。同様に、神は人生の旅が多くてワクワクするような冒険に満ちたものになるようにとすでに予約をしてくれています。人がこの「高き道」を旅するにつれて、それぞれの冒険はその人の一部となっています。



### a. どの道に私たちは行くべきか

旅のコースを選ぶ際に、以下のことをよく検討するのは大切なことです。(1)これらの冒険の結果はどうなるのか、(2)この選んだ道はどこへと続くのか。モーセははかない罪の歓楽にふけるよりも、聖潔の「高き道」を選びました。(ヘブル11:25) この聖なる生き方は特別な道であり、多くの人々が選ぶ道とは異なっています。

### b. よりイエスのようになる

新生クリスチャンが聖潔の「高き道」での人生を歩み続けるにつれて、神は彼をご自分の姿に栄光から栄光へと変えます。(以前の死に至る低い道を歩ませようといつも追ってくる)古き人をクリスチャンが征服し続けるにつれて、神は、新しき人の心の中に見えない神の姿であるイエス(コロサイ1:15、2コリント4:4)の性格と美を築いてくれます。神の真の姿(1ペテロ1:15、エペソ4:24)は、ご自分の民の中で、イエス・キリストの聖なる姿の反映を妨げるものから清める神の霊によってのみ、映し出すことができます。主と共に歩み続けければ、更に多くの人が主のもとへと引き寄せられます。この悩み苦しむ世代の人々は神の民を通してのみ神を見ることができのです。「きよくならなければ、だれも主を見ることはできない」と聖書は言っています。(ヘブル12:14) 裁きの日には、神はご自分と同じ義の衣を着ている者を群れから捜し出します。義の衣を着た人々は暗黒の時代に、まばゆい光のように輝いていることでしょう。

### c. 聖潔 — 美しい命の道

聖潔とはとても美しい命の道です。イエスは私たちが罪から救うために来られたと聖書に書いてあります。つまり、イエスが人を守り、保ち、豊かな命を妨げるものから離れさせるために来たのです。罪を犯すということは、的はずれ、すなわち神が計画した人としての目的をそれらとうことです。滅びるということは、人生の真の目標をそれら、すなわちあなたの人生が破滅するということです。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで(真の目的に満たされた命を失わず)、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)

ですから聖潔は魂に戦いを挑んでくる三つの主な敵(1ヨハネ2:16)からの神の守りと祝福を保証しています。聖潔は規則のリストではありません。その道に従う者を豊かで美しい神の国へと導く優れた命の道です。

「み名の栄光を主に帰せよ、聖なる装いをもって主を拝め」(詩篇29:2)

## 2. 聖潔を完成していく

多くの者が聖潔の素晴らしさを誤解しているのは、とても悲しいことです。神がご自分の聖なる霊で人を満たしたとき、人は聖なるものとなります。(1コリント6:17) 人が聖なる者になるために様々な肉体的、精神的修行を積む必要はないのです。聖潔は人の意志より出るものではなく、神の聖なる霊で満たされた心から出るものだからです。(ローマ8:16、ヨハネ1:13) 聖潔は御霊が生み出すものであることを覚えておいて下さい。聖霊に満たされた人の心はイエスのようになりたいという願いを強く持つようになります。そして、聖霊の働きのもとで、イエスの聖なる姿のようにと変えられていきます。その人は神の力と導きに自分を委ねるべきです。(ローマ6:19) 神の聖なる霊の流れは、人の生活のあらゆる部分に及ぶことでしょう。(1ペテロ1:15) それは人に悪しき態度をとることを控えさせ(詩篇101:3)、新しい道を(主が歩まれたように)歩ませ、服装、行動、話し方、そして考え方(ピリピ4:8)までも変えさせることでしょう。その人は新しき人となります。「古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」(2コリント5:17) 「むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい」(1ペテロ1:15)

### a. 主にあって成長する

神の御旨を知ること成長するにつれて、新しき人はキリストにある新しい人生に危険を及ぼすような活動や態度を察する能力においても成長していきます。時には、聖霊からの警告を感じても、自分がやっていることを別に危険だとは思わない人がいます。しかし牧師を通じて神が巧妙な罪からその人を守ってくれることに感謝します。牧師は、その人が危険な罪と死の道から遠ざかるようにと導いてくれます。人生は何が罪で、何が罪ではないかといった質問に左右されるのではなく、それがクリスチャンの人生におけるキリストのイメージを保つか保たないかということに左右されるべきものなのです。ですから先程の人は、聖霊からの「危険」という警告を感じるのです。キリストのイメージに影響を及ぼすようなことから守るために、牧師は大きな助けとなることでしょう。

## b. 気にかけて下さっているキリスト

イエスは今、だれにでも御手を伸ばしています。人々の必要を知り、また人々の心の誠実さを見ます。どの家族も滅びることなく救われて欲しいと願っています。イエスは自分の愛を人に無理やり押し付けたりはしません。しかし、神は人々に変化（聖潔）を望んでいます。彼は全ての人のために新しい心を用意しており、御使いたちは天にまた新しく人の名前が記されるのを心待ちにしています。神を求める人たちにあらゆる素晴らしい約束が待ち受けています。だれでも、いつでも神を受け入れることができます。全ての者が救われるのは神のみどころですが、選択はその人個人の決意にかかっているのです。

メモ： \_\_\_\_\_



## I. 新約の教会

1. 交わり 使徒行伝2:42
  - a. 使徒たちの教え マタイ28:20
  - b. 教会の交わり 使徒行伝2:22, 42、1ヨハネ1:3, 7
  - c. パンをさき 一家から家へ 使徒行伝2:42
  - d. 祈り 使徒行伝2:42
2. 教会の最初の奇跡 使徒行伝3:1-11
3. 教会の与える心 使徒行伝4:32
  - a. 主の執事 使徒行伝4:34, 35
  - b. バルナバ、道を示す。 使徒行伝4:36, 37

## II. 教会の迫害

1. ステパノ、選ばれる。 使徒行伝6:1-4
  - a. ステパノの資格 使徒行伝6:8
  - b. 裁判でのステパノ 使徒行伝6:10
  - c. ステパノ、説教をし、死ぬ 使徒行伝6:12, 13、7:54-60
2. サウロの回心 使徒行伝9
  - a. 迫害者サウロ 使徒行伝7:58、8:1-3、9:1
  - b. ダマスコ路上でのサウロ 使徒行伝9:3-8
  - c. サウロ、視力を取り戻す 使徒行伝9:10-18

## III. 福音が異邦人へ／ペテロ

1. コルネリオと御使い 使徒行伝10:1-8
2. 屋上でのペテロ 使徒行伝10:9-18
3. 異邦人、聖霊を受ける。 使徒行伝10:34-48

## IV. 福音が異邦人へ／パウロ

1. アレオパゴスの評議所でのパウロ 使徒行伝9:15、使徒行伝17:22-34
2. パウロ、獄で手紙を書く。 2テモテ4:7

# 新約の教会

教会の成長

3,000人 (使徒行伝2:41) \* 5,000人 (使徒行伝4:4) \* 多くの者 (使徒行伝5:14) \* 多数の祭司達 (使徒行伝6:7)

交わり

教会の最初の奇跡

バルナバ、道を示す



そして一同はひたすら、使徒たちの教えを守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈りをしていた。  
使徒行伝2:42

踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。  
使徒行伝3:8

自分の所有する畑を売り、その代金をもってきて、使徒たちの足もとに置いた。  
使徒行伝4:37

## 1. 新約の教会

前68年頃、ルカは「使徒行伝」を書きました。ここには新約教会の誕生、発足、目覚ましい成長が書かれています。教会は力強い団体へとなくなりました。また忠実ではあっても弱かった信者たちが、正義のための力強い霊的戦士たちへと変えられました。この頃は新約聖書の編集に関して言えば、「語る時期」と呼ばれています。イエス・キリストの一生、死、復活、昇天で明らかにされた神の計画について、人々は聖霊に油注がれて語り広めました。彼らは自分と神との出会いや知識を力強く語りました。彼らはイエスの主権を自分で目にする機会が与えられていたからです。(2ペテロ1:16)

「語る時期」は紀元後30年から50年頃でした。  
執筆の時期(新約聖書を書き終えるのに用いた時期)は紀元後50年から100年頃でした。

紀元後100年から150年までの50年間に要して新約聖書が編集されました。

### 1. 交わり

#### a. 使徒たちの教え (マタイ28:20、使徒行伝2:42)

使徒たちに神の言葉を教えてもらいたいという願いが新しく信じた者たちの間にありました。イエス・キリストに自分の人生を捧げると決心したのならだれでも、神の言葉を聞くためにあらゆる努力を払わなければなりません。御言葉は人が立つ土台となるものです。

何かに堅く立っていない者は何に対してもたやすく屈してしまいます。人は生きるために御言葉が必要です。(マタイ4:4) 信じる者はだれでも神の言葉から来る信仰が必要です。(ローマ10:17)

#### b. 教会の交わり (使徒行伝2:42)

初期教会を語る際にまず言われることは、「信者たちはみな一緒にいて、いっさいの物を共有し」ということです。(使徒行伝2:44) この「一緒にいる」ことをクリスチャンは「交わり(フェロシップ)」と呼んでいます。この交わりはイエス・キリストとの交わりから始まっています。(1ヨハネ1:3) 「わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである」そしてヨハネは7節で言っています。「わたしたちは互いに交わりをもち」と言っています。

#### c. パンをさま、家から家へ (使徒行伝2:42)

証しとは、神が自分たちに何をして下さっているかを全ての人に告げることでした。彼らは平信徒の働きとして、家から家へと福音を伝えました。証しをすることと主の道を備えることは、現代の信者の生活においても重要かつ不可欠なものです。

#### d. 祈り (使徒行伝2:42)

聖霊が注がれた後も教会は祈り続けました。祈りはクリスチャン生活に無くてはならない武器です。彼らの祈りと賛美ゆえに、神は教会を恵まれ、多くの人が日々仲間に加えられていきました。

### 2. 教会の最初の奇跡 (使徒行伝3:1-11)

イエスが昇天され、教会が設立された後の初めての奇跡は美しの門にいた足なえの男が癒されたことでした。この奇跡はイエス・キリストの力が信者たちの上にあることの証しとなりました。弟子たちの信仰を通してイエスのご臨在があり、癒しがなされました。(マタイ10:1-8、マルコ6:7-13 参照)

主は変わることがありません。主は現在でも癒しをなさいます。不信仰、不従順、世的な生活を捨て去った時に、初期教会でして下さったように主は奇跡を行われるでしょう。

足なえの男の癒しで人々が集まり、ペテロは二度目の説教をしました。そして多くの者が信じました。信じた人の数は約 5,000人でした。(使徒行伝4:4)

聖霊が初めて下ったとき、そこには 120人の人がいました。その 120人に加えて、更に同日3千人が救われました。これら改宗者たちが使徒の教えを守って集まり、主は日々人々を教会に加えてくれました。

この癒しの奇跡の後、さらに多くの者が信じました。信じた人の数は約 5,000人でした。ペンテコステ(五旬節)の日から改宗した者の数は、合計約1万人に達しました。

### 3. 教会の与える心

誕生したばかりの教会が大きくなっていく上で交わりと奇跡は大切な要素となりました。また、自分のことばかりを考えずに神を中心にして捧げ物をし、献身をし、互いの必要を満たし合い、ひとつ心になっていました。初期において教会は人を和らげることにに関して純粋かつ純真でした。多くの改宗者が共に集まったことにより、さまざまな物質的必要が生じました。何千にもなるグループのうちには、やもめ、家のない者、貧しい者、日々かろうじてやりくりして生活しているあまり豊かではない者たちがいます。これら新しい信者たちはかの地で、より良いものを受け継ぐことを思い、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がありませんでした。(使徒行伝4:32) 自分たちが神の賜物や恩恵の所有者ではなく、単に責任者(執事)にすぎないということを彼らは理解していました。

#### a. 主の執事 (使徒行伝4:34-35)

主の恵みの執事として物質的に豊かな者は、その恵みを必要と感じている兄弟姉妹に心から分け与えました。家や所有地が売られ、その収益は使徒たちの足もとに置かれました。このことから彼らがはかないこの世の富を愛することはしなかったことが分かります。ある評論では心から捧げ物するというこの感動的光景に関してより深い洞察を与えています。

「博士は、この五旬節の年がユダヤのヨベルの年、すなわち50年目毎の解放の年であったと推定している。(1400年前にカナンに住み始めてから28回目のヨベルの年) そのためその年に売却したものは次のヨベルの年まで返却されない。従って土地は(ヨベルの後の年数が長いために)高く、それらの土地を売った合計は相当な額になったであろう」(第2巻、747ページ)

#### b. バルナバ、道を示す (使徒行伝4:36-37)

バルナバはレビ人でした。何百年も前に神自らがレビ人の嗣業であり受くべき分であると約束されたことをバルナバも覚えていたことでしょう。(申命記10:9) 彼はこの世のことに縛られていませんでした。(2テモテ2:4) バルナ

バは神をあがめ、神もバルナバに光栄を与えました。バルナバは使徒の1人として、特に神の霊によって選ばれ、加わりました。彼は寛大に心から捧げ物をしました。そしてそのことのゆえに彼は使徒たちから「慰めの子」という意味のバルナバと呼ばれています。彼には励ましと慰めの働きがありました。後年、彼は教会の多くの人々を元気づけ、励ましています。(使徒行伝11:22-24) また、パウロを同労の説教者として使徒たちのうちに受け入れるよう勧めました。

---

メモ：

# 教会の迫害



ステパノへの投石  
使徒行伝7:54-60

彼を市外に引き出して、石で打った。これに立ち合った人たちは、自分の上着を脱いで、サウロという若者の足もとに置いた。

使徒行伝7:58

サウロはステパノを殺すことに賛成していた。

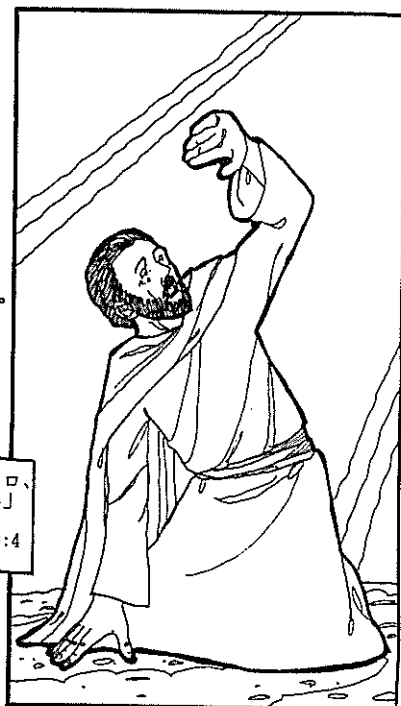
使徒行伝8:1

サウロは教会を荒らした。

使徒行伝8:3

彼は地に倒れたが、その時「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。

使徒行伝9:4



サウロの回心  
使徒行伝9:1-31

## II. 教会の迫害

### 1. ステパノ、選ばれる

教会の急速な成長につれて、使徒たちは責任分担をすることが必要になってきました。(6章)使徒たちが配給の仕事(4:35-36)をし、なおかつ祈り、説教、御言を教えることに時間を費やすのは不可能でした。使徒たちの重荷を軽くするために、7人の人が選ばれました。そのうちの一人がステパノです。

#### a. ステパノの資格 (使徒行伝6:8)

ステパノは「信仰と力とに満ちて」おり、食卓のことに携わる者の一人でした。ステパノは神に与えられた仕事をただけではなく、他にも仕えることはないかと求めていました。神はこうした思いを持っている人をいつでも用いることができます。ステパノの働きはとてもめざましかったので、急成長する教会に敵対する人たちに標的にされました。

#### b. 裁判でのステパノ (使徒行伝6:10)

ステパノの知恵と御霊においては、だれも並ぶ者はありませんでした。そこで人々はステパノを殺そうと今度は暴力を用いて彼を捕らえました。そして、偽りの証人をたてて、ステパノを議会の裁判にかけました。ステパノは一連の偽の供述に基づいて裁判を受けました。

### c. ステパノ、説教をし、死ぬ (使徒行伝6:12-13)

会衆は人を雇ってステパノの言動について偽りの証言をさせましたが、ステパノをくつがえすことはできませんでした。聖霊により大胆に説教するステパノの顔は天使の顔のように見え、人々に強い畏怖の念を起こさせました。

ステパノは彼らに、神が旧約においてどのように人と関わってこられたかを説教しました。そして、彼らが否定することのできない真理を語り、神の御子を裏切り、殺したことを強く責めました。ステパノの殉教で迫害者たちは初めてクリスチャンの血を流しました。タルソのサウロは、この迫害を扇動していた者の一人で、ステパノの死を見ており、彼を殺すことに賛成していました。ある賢人が的を得た言い方をしています。「彼らはエルサレムで神の火を踏み消そうとして、逆に世界中に火の粉を撒き散らしてしまっただけです。まさにこのことが起こりました。真理はユダヤ、サマリヤ、そして全世界へと広がっていきました。」

## 2. サウロの回心

9章に、サウロがパウロとなったいきさつが書かれています。パウロは新約の多くの部分で大きな役割を果たす人物です。

サウロは厳格なパリサイ派の人で、教会の迫害者でした。しかし神の力によって、彼は献身的な使徒であり異邦人への説教者であるパウロとなったのです。

サウロの回心があまりにもあり得そうにないことだったので、19世紀のイギリスのある不可知論者はパウロの回心は誤りだと簡単に説明できるだろうと考えました。誤りであると分かれば、パウロの回心から後の新約聖書は、全くでたらめだと示せると思いました。

その不可知論者、ジョージ・リトルトンは、サウロのような人物があんなにも劇的に回心することはあり得ないと示したかったのです。リトルトンは自分の研究結果を「パウロの回心と使徒としての働きに関する考察」という本にまとめました。彼の驚くべき研究結果はどんだったのでしょうか。「パウロの回心と使徒としての働きを考慮するだけでも、キリスト教が神に関わるものであることを十分証明し得る証しとなる。」

### a. 迫害者サウロ

会衆がステパノを石で打ったとき、サウロはそのことに同意していました。サウロはこの出来事を教会を徹底して迫害するために用いました。(使徒行伝8:3) ダマスコにいるクリスチャン宛に大祭司からの強制帰国命令書をサウロは持っていました。

### b. ダマスコ路上でのサウロ

ダマスコへ向かう途中で、天からの輝く光がサウロの周りを照らしました。そして、「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」という声を聞きました。その出来事について不適当な多くの解説がありますが、パウロの回心にはパウロに起こった変化について彼自身の言葉がなくては分かりません。彼はイエスを見、完全に従うようになりました。パウロは神と出会ったのです。

パウロはイエスに「主よ、あなたは、どなたですか」と言いました。「わたしはあなたが迫害しているイエスである」とイエスが答えられたとき、パウロは確信を持ちました。そして「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」と尋ねました。(使徒行伝22:10)

私は何をしたらよいでしょうかと神に問うような態度を持つことはとても大切です。そうすれば実を結ばない年月を過ごさずにすみます。真の神と出会ったサウロはすぐにこのような態度を持ちました。ダマスコの路上でイエスと出会ったサウロの人生は以前とは全く違ったものになりました。

### c. サウロ、視力を取り戻す (使徒行伝9:18)

サウロは天のものを見たことによって、目が見えなくなりました。そして助けを見いだすであろうと主が言われた場所ダマスコへと連れて行かれました。3日間、サウロは目が見えないまま祈り、断食をしました。それから主はある人にサウロへのメッセージを授けました。アナニヤという弟子がサウロのもとを訪れ、サウロの上に手を置いて祈りました。すると、すぐにサウロは元どおり見えるようになり、聖霊に満たされました。そしてアナニヤはサウロにバプテスマを施しました。その日、サウロは再び目が見えるようになっただけでなく、霊的にも見えるようになりました。(使徒行伝9:18)

パウロはためらわず主の働きに忙しく従事しました。そして直ちに証しを始めました。パウロのような回心は人をわくわくさせる劇的な証しとなります。たいていの人は幻や劇的な苦しい体験なしに神のもとへ来ますが、パウロのような回心は今も起こっています。新しく生まれるということは、水と霊によるもので、その経験だけでも素晴らしい変容の奇跡です。



# 福音が異邦人へ／ペテロ

ある日の午後三時ごろ、神の使いが彼のところにきて、「コルネリオよ」と呼ぶのを、幻ではっきり見た。  
使徒行伝10:3

・ペテロは祈をするため屋上にのぼった。時は昼の十二時ごろであった。彼は空腹をおぼえて、何か食べたいと思った。そして、人々が食事の用意をしている間に夢心地になった。  
使徒行伝10:9-10

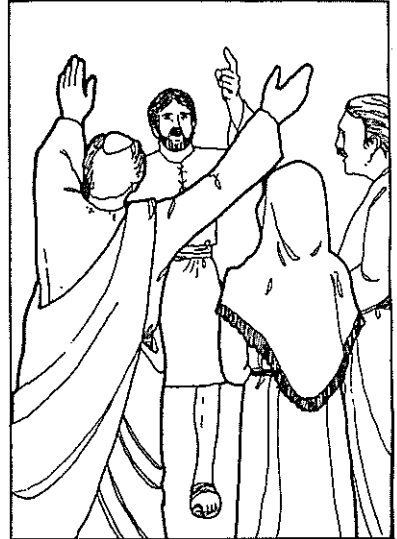
そこでペテロは口を開いて言った、「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。  
使徒行伝10:34,35



コルネリオと御使い



屋上でのペテロ



異邦人、聖霊を受ける

## Ⅲ. 福音が異邦人へ／ペテロ

### 1. コルネリオと御使い (使徒行伝10)

それから福音は、エルサレム、ユダヤ、サマリヤから地の果てまで広まりました。10章は使徒行伝でも新たな注目すべき転機となっています。10章までは、使徒たちはユダヤ人だけに説教しました。しかし今、信仰の扉が異邦人に対しても開かれたのです。

ローマ軍の百卒長コルネリオは、正しい人で貧しい者に施しをし、神を恐れ、祈りに忠実な人でした。コルネリオの祈りの人生により、彼のもとへペテロが導かれて来ました。神はこれからも祈りを通じて導きを与えて下さることでしょう。

コルネリオは幻を見ました。その幻の中で、御使いがコルネリオにするべきことを伝えました。コルネリオは喜んで、すぐに言われたことをしました。御使いはヨッパに人をやって、ペテロという人を呼びにやりなさい、そうすれば、彼がするべきことを教えてくれるだろうとコルネリオに言いました。「ついては今、ヨッパに人をやって、ペテロと呼ばれるシモンという人を招きなさい。この人は、海べに家をもつ皮なめしシモンという者の客となっている」(使徒行伝10:5-6)

### 2. 屋上でのペテロ

コルネリオの使いが旅の途中にいた頃、ペテロはヨッパで皮なめしシモンの家にいました。その家の屋上にいたとき、ペテロは幻で大きな布のような入れ物が天から降りて来るのを見ました。その布の中には清くない生き物が入っていました。主はペテロに「立って、それらをほふって食べなさい」と言いました。ユダヤ人のプライドにかけて、ペテロはそのようなことは自分を汚すことだと思ひ食べようとしませんでした。しかし、神はユダヤ人の使徒たちが清くないと考えていた異邦人への宣教の働きのためにペテロを教えて準備していたのです。

ちょうどその時、コルネリオから送られた人たちが到着しました。ペテロは彼らと共にカイザリヤへ旅をしました。カイザリヤでペテロは、神が人をかたよりみないかたで、聖霊は「求めるすべての者」に与えられることを学びました。(使徒行伝10:34-35)

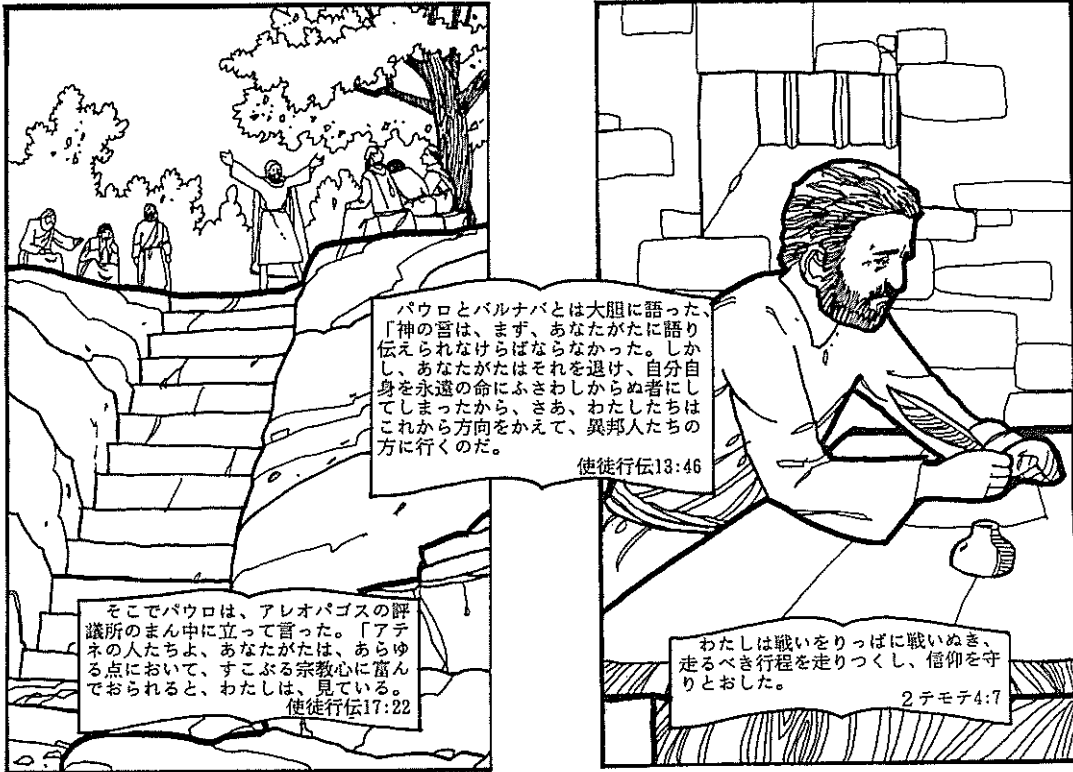
### 3. 異邦人、聖霊を受ける

ペテロが、コルネリオと家の者たちに説教をしていると、聖霊が彼らの上に、エルサレムでユダヤ人に下ったのと同じように、下りました。それからペテロは彼らに命じて主イエスの御名でバプテスマを受けさせました。(使徒行伝10:48)

使徒行伝1章8節で語られている力は、教会が全地に証しをすることを助けました。

メモ： \_\_\_\_\_

# 福音が異邦人へ／パウロ



アレオパゴスの評議所でのパウロ

パウロ、獄で手紙を書く

## IV. 福音が異邦人へ／パウロ

パウロは異邦人に宣教するために選ばれた器でした。（使徒行伝9:15） 主の名を異邦人たち、王たち、イスラエルの人々にも伝えることが彼の務めでした。

### 1. アレオパゴスの評議所でのパウロ

パウロは、一部屋だけを明るくする卓上のろうソクのようにありませんでした。むしろ、地球の各地を照らし続けていく太陽のようでした。

17章で、パウロは再び伝道旅行に出かけ、テサロニケ、ベレヤ、アテネで説教しました。アテネの人々の偶像崇拜にパウロは驚きました。アテネは神殿、寺院、偶像、彫像、異教の祭壇で満ちあふれていました。

アテネの哲学者と論じあったパウロは、アレオパゴスの評議所へと連れて行かれました。注釈と引照が付いているDake聖書によれば、その評議所は異邦人の世界ではとても神聖で、有名な場所でした。

パウロより4世紀前には、この評議所でソクラテスが罪に定められました。

パウロは、アテネの人たちが知らない神へ捧げた祭壇について彼らに説教しました。世の初めからおられ、命を与え、守られる唯一の神（イザヤ46:9-10、マルコ12:32）についてパウロは大胆に語りました。だれでも主を見いだす事ができる、とパウロは述べました。（使徒行伝17:27、エレミヤ29:13）

神はこれまでは人の愚かさを見ごしにされてきましたが、まもなく裁きが来るであろう、とパウロは言いました。すなわち、死からの復活により自分を裁くにふさわしい者としたイエス・キリストによって裁きもたらされる、と言いました。これを聞いたある者たちはあざ笑い、ある者たちは信じました。信じた者の中には、アレオパゴスの評議所の一員であるデオヌシオがいました。後にアテネに誇り多い教会が建てられました。

## 2. パウロ、獄で手紙を書く

「使徒行伝は書簡の一つなのではなく、書簡を紹介するものだ。使徒行伝は福音書と書簡の間の連絡係なのだ。」とJ・シドロウ・バクスターは言いました。

パウロは自分の手紙の大半を、獄で裁判を待っている間に書きました。パウロやキリストの他の弟子たちによって始まったキリストの諸教会宛てにパウロは手紙を書きました。獄にいる間もパウロは多くの番人や訪問者たちに証しをし、彼らの魂を主に勝ち取りました。オネシモ（ピレモン）は、パウロの獄中での働きにより改宗した者の一人でした。

その後パウロは一時的に解放されたが新たな迫害で再び捕らわれの身となった、とある聖書学者たちは考えています。ついに、何年ものつらい獄中生活を過ごした後、パウロは裁判で判決を受け死刑に処せられました。パウロの最後の言葉は「～わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした～」ということでした。（2テモテ4:7）

パウロのように信仰と望みと勝利に満たされて死を迎えることは、なんと素晴らしいゴールではないでしょうか。

メモ： \_\_\_\_\_



## I. エルサレムの崩壊

1. エルサレム - ユダヤの中心地 ルカ19:41-44
2. イエス、エルサレムを嘆き悲しんだ。 マタイ23:37,38
3. エルサレム、テトス帝の軍隊により崩壊 マタイ24:2

## II. ユダヤ人、パレスチナに戻る イザ11:12、43:5,6、エレ29:14、31:1

## III. 異邦人の時代

1. ネブカデネザル王の夢 ダニエル2:31-45
  - a. 純金の頭 (バビロン)
  - b. 銀の胸と両腕 (メディア-ペルシア)
  - c. 青銅の腹ともも (ギリシア)
  - d. 鉄のすね (ローマ)
  - e. 鉄と粘土の足 (復活したローマ帝国)
  - f. 石 (イエス・キリスト)

## IV. 終末のしるし マタイ24、ルカ21:26、2テモテ3:2-5

## V. イエス、教会を迎えに 1テサ4:13-18、1コリ15:51-54、テトス2:11-13、マタイ24:40-42

# エルサレムの崩壊



## I. エルサレムの崩壊

預言はまさに聖書の力です。将来、歴史的事実となる多くの出来事を聖書はまるで絵を見るように詳しく預言しています。預言は聖書研究の中でもとても興味深いものだといえます。

### \*教師への特別メモ

教師は預言が難しくて分かりにくいものだ、といった感情を教える場に持ち込まないようにすべきです。教師は、主な出来事を用いてレッスン内容を強調するようにしていきます。11課、12課では、教師のために、こうした主な出来事をその都度正確に示してあります。預言の勉強をしている人でも、ない人でも、この家庭聖書研究を教える際には問題ありません。自分が受けた召しと選びとを確かなものにする(2ペテロ1:10)時とすでになっているのだ、ということを生徒に理解させるのに十分な情報が教師に与えられています。

旧約の預言者たちは、ユダヤ人が再び聖地に集まることを繰り返し預言しました。この成就には彼らが住んでいた土地を離れ、各地に散るということが起こらなければなりません。

イエスは弟子たちにこの出来事を預言しました。そしてその成就はあまり遠いことではないので、教会はやがて来る困難や患難に対して備えをするようにと警告しました。

ルカ19章41-44節で、イエスは、来るべきエルサレムの崩壊のことを語りました。43、44節でこう言っています。「いつかは、敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」

### 1. エルサレム：ユダヤの中心地

エルサレムはユダヤ人たちの活動の中心地でした。大都市であり、宮がそこにあったので宗教の中心地でもありました。エルサレムは文化の面も象徴的存在でした。彼らの生活がユダヤの宗教に強く影響されていたからです。またエルサレムは過去何世紀にもわたって商業の中心地でした。北、南、西からの交易ルートはエルサレムに集結します。エルサレムは世界の交易ルートの交差点でした。

### 2. イエス、エルサレムを嘆き悲しんだ

おそらくイエスは、ベタニヤとエルサレムの間を旅しており、エルサレムを見渡せるオリブ山の山腹にいたのでしょう。モリヤの丘に建つ壮大な宮をイエスは見ました。ダビデの町がモリヤの丘からケデロンやヒンノムの谷にまで及んでいるのが見えたことでしょう。それからイエスは立ち止まり、嘆いて言いました。「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう」（マタイ23:37-38）

### 3. エルサレム、テトス帝の軍隊により崩壊

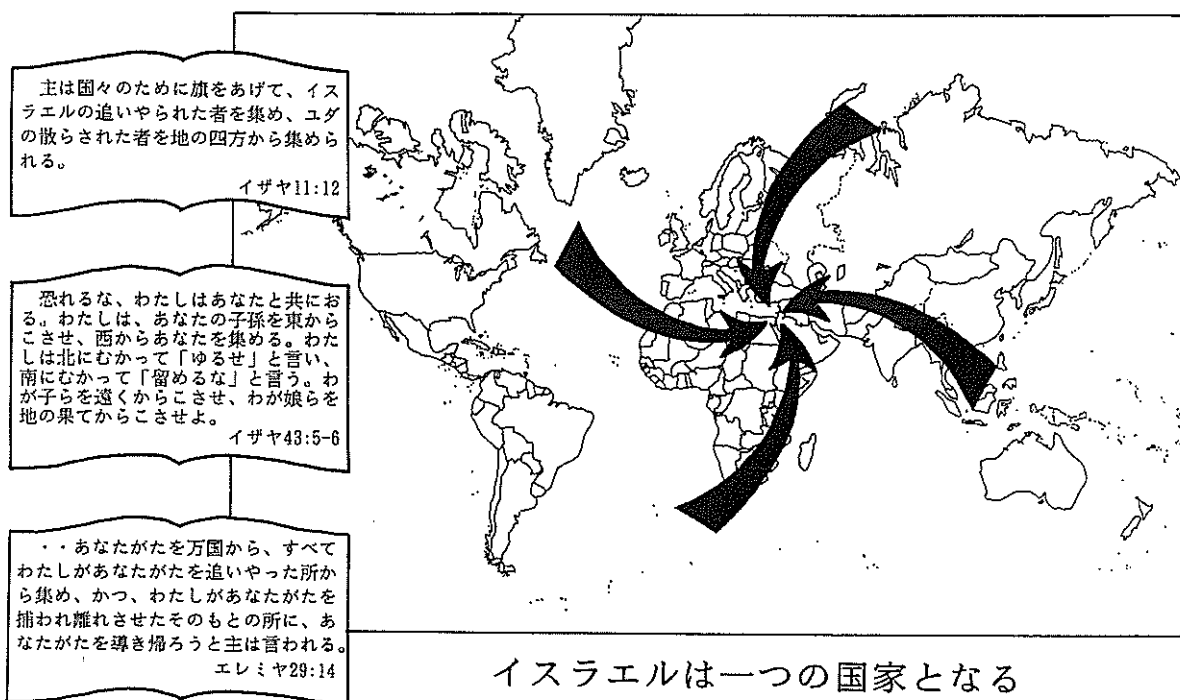
紀元後70年にローマのテトス帝とその軍隊はエルサレムを包囲しました。その他のユダヤの小都市は既に征服されていました。エルサレムの人々は今や、ローマ帝国の強大な権力を痛切に感じたことでしょう。以下の理由のためにエルサレムは完全に滅ぼされました：

- a. ユダヤの人々の罪に対する神の裁きだった
- b. ローマはユダヤ人の宗教を根絶しておきたかった
- c. ローマはユダヤ人の国家再建の可能性を撲滅しておきたかった

崩壊が訪れました。その崩壊は驚くべきものでした。いくつかの石は長さ約28.7m、高さ約3.2 m、幅約4 mあった、とユダヤの歴史家ヨセフスは言っています。イエスは弟子たちに言いました。「～その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」（マタイ24:2） 町は完全に崩壊されました。

メモ： \_\_\_\_\_

# ユダヤ人、パレスチナに戻る



イスラエルは一つの国家となる

1948年5月15日

## II. ユダヤ人、パレスチナへ戻る

ユダヤ人が荒れ果てた土地に戻り、滅ぼされた所を再建するだろう、と聖書は繰り返し述べています。そのことを詳細に描写している聖句の箇所を見ることは大切なことです。

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは、あなたの子孫を東からこさせ、西からあなたを集める。わたしは北にむかって『ゆるせ』と言い、南にむかって『留めるな』と言う。わが子らを遠くからこさせ、わが娘らを地の果てからこさせよ」  
イザヤ43:5-6

「イスラエルを散らした者がこれを集められる～」  
エレミヤ31:10

「主は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる」  
イザヤ11:12

「～わたしはあなたがたを万国から、すべてわたしがあなたがたを追いやった所から集め、かつ、わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのもとの所に、あなたがたを導き帰ろうと主は言われる」  
エレミヤ29:14

こうしてパレスチナに戻ってきた結果、今の新しいイスラエルの国があるのです。ユダヤ人が祖国に戻ることとは、1800年代後半に小規模では起こっていましたが、20世紀の現代における奇跡の一つです。

国を取り囲むアラブ軍の猛攻撃にもかかわらず、イスラエルは1948年5月15日に国家となりました。それはゆるぎない国家です。「『わたしはわが民イスラエルの幸福をもとに返す。～わたしは彼らをその地に植えつける。彼らはわたしが与えた地から再び抜きとられることはない』とあなたの神、主は言われる」(アモス9:14-15)

1882年には、パレスチナに24,000人のユダヤ人がいました。1914年は85,000人。国家宣言をした1948年には65万人になりました。今日、パレスチナの地に300万人以上のユダヤ人がいます。本当にユダヤ人は母国に戻ったのです。



# 異邦人の時代

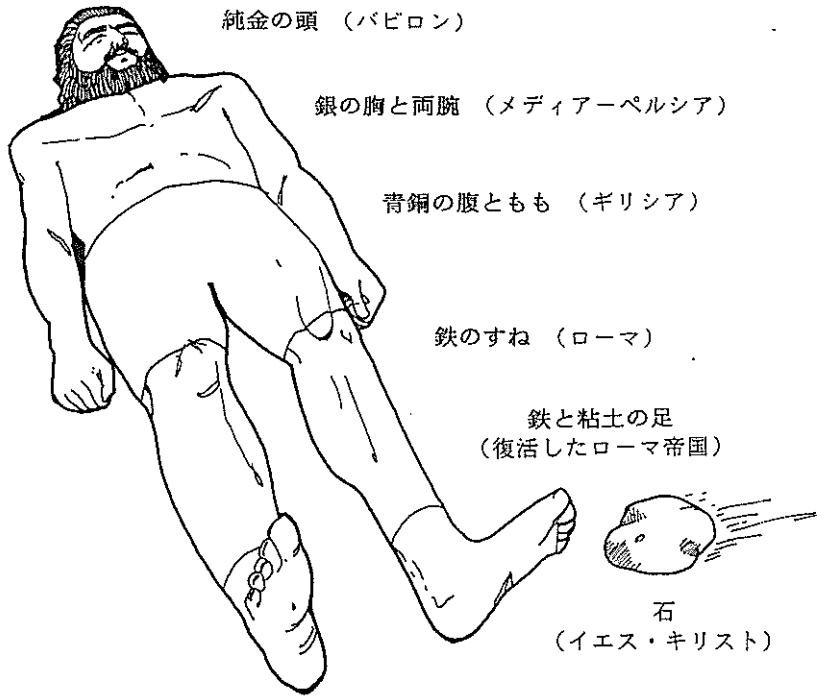
## ネブカデネザルの夢

王よ、あなたは一つの大きな像が見られ、あなたの前に立っているのを見られました。その像は大きく、非常に光り輝いて、恐ろしい外観をもっていました。その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹と、ももとは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です。

ダニエル2:31-33

そして王はダニエルに答えて言った、「あなたがこの秘密をあらわすことができたのを見ると、まことに、あなたがたの神は神々の神、王たちの主であって、秘密をあらわされるかただ。」

ダニエル2:47



## Ⅲ. 異邦人の時代

絶え間ない人の歴史は、さまざま国の興隆と没落を記録しています。文化と商業において世界に影響を及ぼした大國がそれぞれに勝利と敗北を味わってきました。かつて実在していた多くの国々の廢墟が、今日の考古学者たちによって詳細に調べられています。

おそらくネブカデネザル王の預言的な夢ほど、こうした歴史をよく説明しているものはないでしょう。

### 1. ネブカデネザル王の夢 (ダニエル2:31-45)

ネブカデネザルはバビロンの王でした。彼が王國を治めたのは、イスラエルが滅亡し捕囚となっていた時期でした。ある日、ネブカデネザル王は、これから何世紀にもわたって起こる出来事を預言する夢を見ました。強大な國々がこの夢の中に表されていました。

神に背いた結果として、イスラエルはバビロンに捕囚となっていました。來たるべきそれぞれの時代にイスラエルの地をどんな國が支配するかを夢で神は明らかにされました。神の預言者としてバビロン王國でとても重んじられていたダニエルは、夢を説き明かすよう求められました。

夢の中で、一つの巨大な金属の像がありました。頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももは青銅、すねは鉄、足は鉄と粘土からできていました。一つの石が現れて足を撃ち、粉々に砕けました。像はみな砕けて、風に吹き払われる夏の打ち場のもみがらのようにになりました。それから石は大きな山となり、全地に満ちました。

ダニエルはその夢を説き明かしました。

#### a. 純金の頭 (バビロン)

純金の頭は、その夢を見た時代にユダヤ人と世界を支配していたバビロン (バビロニア: 新バビロニア又は、カルデアとも呼ばれる) です。王国は紀元前 606年から後 538年まで続きました。バビロンの都市はその時代、絶大な影響力を持っていました。バビロンの吊り庭は世界の七不思議 (古代の7つの驚異的建造物) の一つでした。それぞれ約36kmの町々は高さ約 107m、幅約27mの城壁に防護されていました。百万人を越す住民のだれ一人として、バビロンが滅びるとは思っていませんでした。ですが、それは現実のものとなりました。

#### b. 銀の胸と両腕 (メディア-ペルシア)

紀元前 538年にバビロンはメディアとペルシアにより陥落しました。ダリヨスはメディア人の王でした。(ネヘミア12:22) この王国は二重国家で、紀元前 330年まで続きました。

メディアはバビロニア、リディアなどと敵対国であり、ペルシアはその属国でした。しかし、紀元前 550年ペルシアのクロス王がメディアに反乱を起こし、アケメネス朝ペルシアを開きました。その後、ペルシアはメディアを吸収しました。

#### c. 青銅の腹ともも (ギリシア)

アレキサンダー大王が征服の野望を抱いて西方から台頭して来ました。彼は紀元前 330年にメディアとペルシア王国を征服しました。紀元前 323年のアレキサンダーの死後、帝国は部下の4人の将軍により四分割されました。紀元前 160年にローマによって征服されるまで、ギリシア帝国は続きました。

#### d. 鉄のすね (ローマ)

鉄のすねはローマ帝国を象徴しており、東ローマ帝国、西ローマ帝国共に何世紀にもわたって続きました。

#### e. 鉄と粘土の足 (復活したローマ帝国)

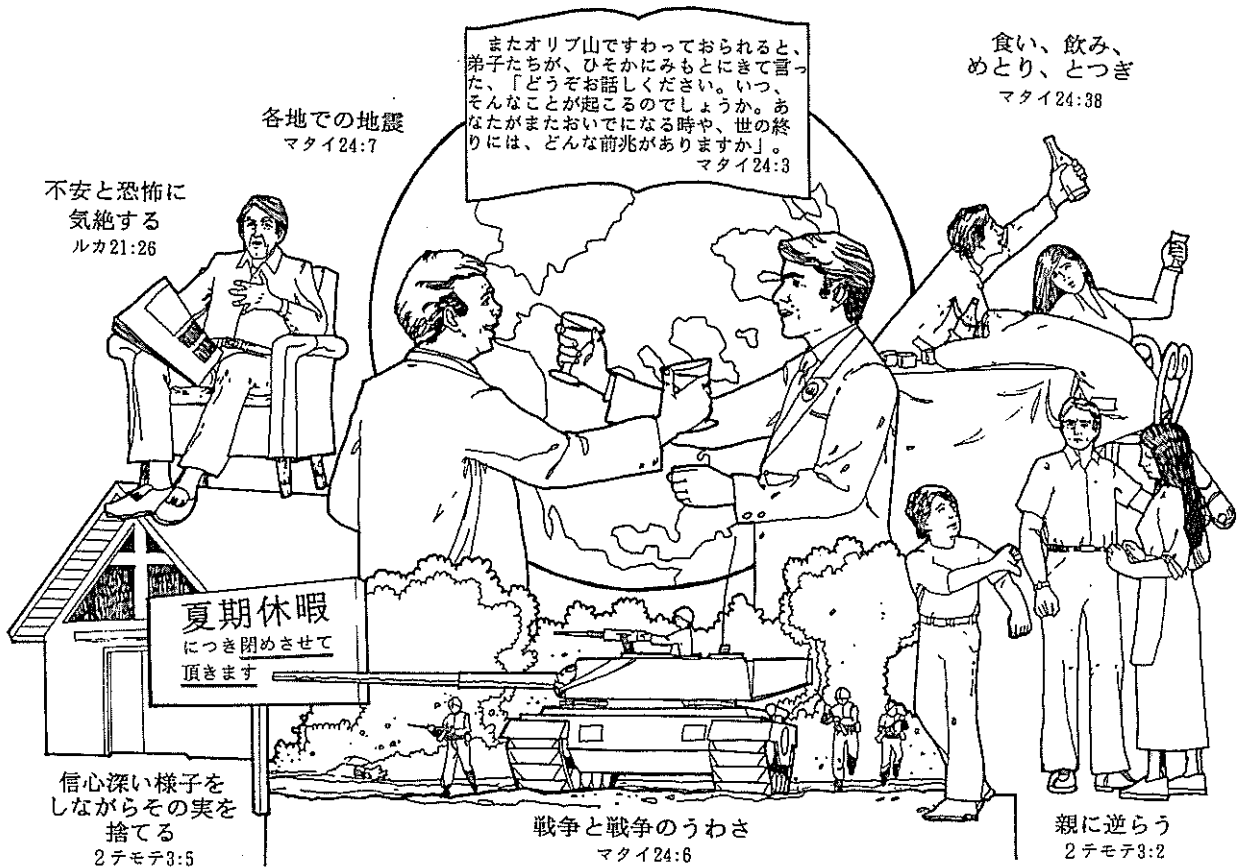
鉄と粘土の足は復活したローマ帝国を示しており、10本の指に象徴されるように10の国からなる共同体です。(ダニエル7:7-8、黙示録17:12) これらのことは終末に全て起こります。そうした中、反キリストが世界を支配し始めます。このことは更に大患難やハルマゲドンの戦いへとつながっていきます。

#### f. 石 (イエス・キリスト)

ハルマゲドンの戦いにイエスが来て、全ての王国と世の支配体制を滅ぼします。イエスは千年の間地上に一つの新しい王国を確立します。そして、王として地を支配します。この時期は千年王国と呼ばれています。

メモ: \_\_\_\_\_

# 終末のしるし



## IV. 終末のしるし

マタイ書24章は、終末を知る際にとっても重要な部分です。オリブ山で座っていた時に弟子たちはひそかにイエスに尋ねました。「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起こるのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終わりには、どんな前兆がありますか」（マタイ24:3）

そしてイエスは終わりの時代に起こるいくつかの重要な出来事を語りました。現在それらの聖句が多く成就していることから、主の来臨が近づいていることが分かります。

出来事を列挙する前に、イエスは厳しい警告を与えました。「～人に惑わされないように気をつけなさい」（マタイ24:4）

以下にイエスが語られた終末の前兆を挙げます。

「多くの者が私の名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう」（5節） 今日、何百というさまざまな宗教が存在しています。東洋の宗教は宗派の枠を超え始め、一方、ラジオやテレビでは荘厳で美しい大聖堂のことが語られています。神の言葉の基本的な知識がなければ、人は容易に惑わされ迷わされてしまうことでしょう。「～人に惑わされないように気をつけなさい」 イエスは言っています。「～真実はあなたがたに自由を得させるであろう」（ヨハネ8:32）

「～戦争と戦争のうわさ」（6節） 「民は民に、国は国に敵対して、立ち上がるであろう」（7節） 人口が45億にも達している現在、それだけの人々に食料を供給することは困難になりつつあります。この状況は最近の異常気象により、いっそう深刻になっています。記録的な日照り続きが各地で起きている一方で、通常は雨があまり降らない地域が洪水に見舞われたりしています。干ばつのため世界の多くの地域に飢饉が生じています。世界に食料を供給するのに今ほど困難な時代はありません。

「～あちこちに、～地震があるであろう」（7節） 地球自体が古くなるにつれて、また現代の技術者たちが地上で実験するにつれて地層の亀裂がより深刻になっているように思われます。この結果、地表で地震が頻繁に起こるようになってきたのです。多くの地質学や地震学の第一任者たちは、これから先、より大規模な地震がくるだろうと断言しています。

「～食い、飲み～」(38節) 他にも終わりの日の現象としては、あちこちに建つレストランや居酒屋の数の多さが挙げられます。10年前、ある通りには、レストランが2軒あるだけでした。それが今では16軒に増え、その他にも2軒の飲み屋が建っています。

「～めとり、とつぎ～」(38節) アメリカでは離婚率が約50%にも達しています。これはアメリカだけではなく、世界の多くの国々でも同様です。

上記に挙げたものは一般の人々に関する出来事のリストです。彼らは日々自分の欲しいままに生活し、物事は以前と同じように続くと考えています。彼らはイエスが間もなく来られることに気づきません。

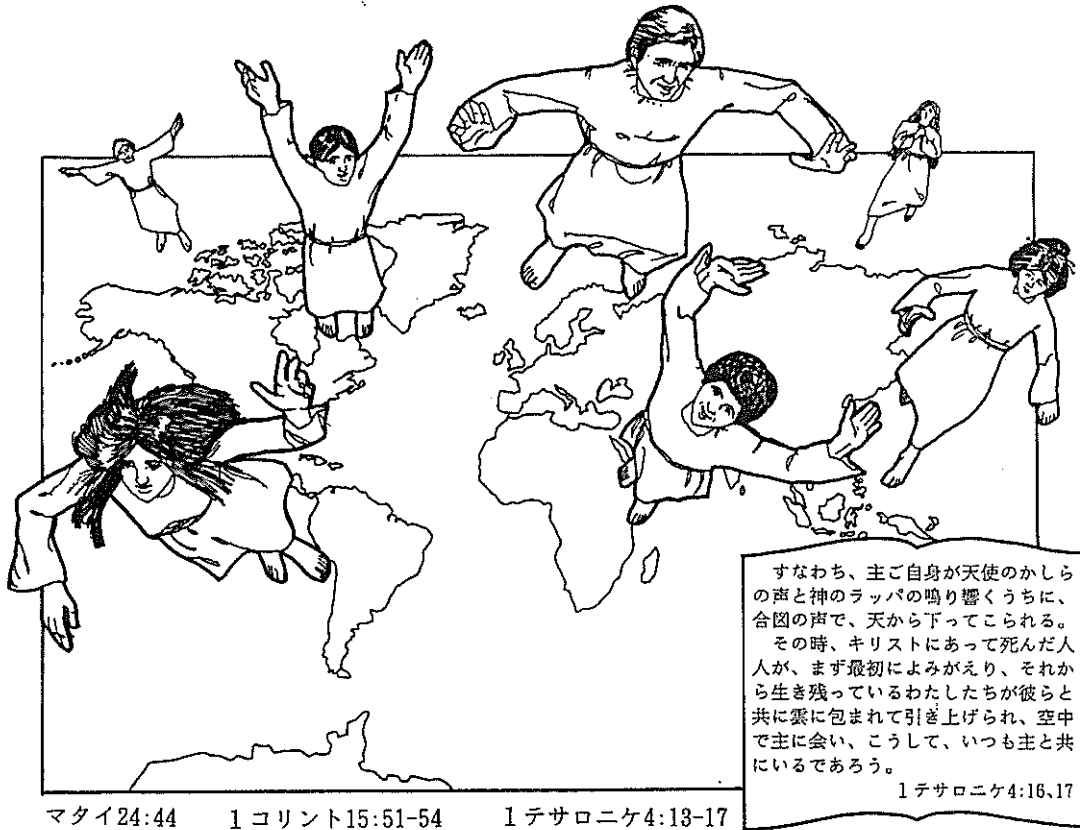
パウロはテモテに来たるべき日のいくつかのしるしを挙げ、終末の危険な状態について手紙を書きました。

「その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう・・・」(2テモテ3:2-5)

それからパウロはそうしたことを離れなさいとはっきりと警告しています。

メモ： \_\_\_\_\_

# イエス、教会を迎えに



## V. イエス、教会を迎えに

テサロニケの教会への手紙の中で使徒パウロはキリストの花嫁である教会に待ち受けている大きな望みについて語りました。この望みは一般に「教会の携挙」と呼ばれます。テサロニケ第一の手紙4章13-18節でパウロは携挙に関し、以下の点を教会に明らかにしています。

- ・死人に関しては望みを持たない外の人々のように悲しむべきではない。(13節)
- ・イエスが復活されたことによって、彼はキリストにあって死んだ者もよみがえらせる。(14節)
- ・主ご自身が天から下って来る。天使のかしらの声や天の声があり、神のラッパが鳴り響く。(16節)
- ・イエスに仕えた死人たちがまず最初によみがえる。(16節)
- ・生きている聖徒たちが、よみがえった聖徒たちと共に空中に引き上げられる。(17節)
- ・彼らはみな空中で主に会い、いつも主と共にいる。(17節)
- ・私たちはこの真実をもって、互いに慰め合うべきである。(18節)

マタイ24章40-42節でイエスはこの素晴らしい時に関して話され、備えをしていないことの危険性を警告しました。携挙のための備えをしている者とそうでない者が分けられる時がきます。

- ・「そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとは取り去られ、ひとは取り残されるであろう」(40節)
- ・「ふたりの女がうすをひいていると、ひとは取り去られ、ひとは残されるであろう」(41節)
- ・「だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである」(42節)
- ・正しい者が死からよみがえる。
- ・イエス・キリストは花嫁(教会)を迎えに来る。

- ・神の聖徒たちの栄光に満ちた携挙がある。
- ・私たちの前の世代を生きた神の聖徒たちとの素晴らしい再会がある。その素晴らしさはパウロが書いたテトスへの手紙でもよく分かる。

「すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深くこの世で生活し、祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている」（テトス2:11-13）

メモ： \_\_\_\_\_



## I. 患難

1. 患難の裁き
  - a. 封印 黙示録 6、8:1
  - b. ラッパ 黙示録 8、9
  - c. 鉢 黙示録 16
  - d. 悲惨な死 黙示録 6:7, 8

## II. 反キリストの支配

1. 反キリスト 2テサロニケ 2:3-12、黙示録 13
2. 偽預言者(宗教的支配) 黙示録 13:12-15、16:13、19:20、20:10
3. 反キリストの政治支配体制 ダニエル 7:7, 24、黙示録 13:1、17:12

## III. ハルマゲドンの戦い

1. 144,000人に印が押される 黙示録 7:4
2. ハルマゲドンへの準備 黙示録 16:14-16
3. ハルマゲドンの戦いで患難の時代が終わる 黙示録 19:11
4. 白馬に乗る者 黙示録 19:11, 14, 16
5. 獣と偽預言者に対する裁き 黙示録 19:20

## IV. キリストの再臨と千年王国

1. オリーブ山の変化 ゼカリヤ 14:4
2. 王国時代の特徴
  - a. イエス・キリストが地上の王となる ゼカリヤ 14:9
  - b. イエス、地上を千年治める。 黙示録 20:6
  - c. 全ての国民に対する裁き マタイ 25:31-46
  - d. ユダヤ人の支配 ゼカリヤ 9:11-17、12:10-14、13:1
  - e. 教会、キリストと共に王国を治める。 ルカ 19:19、黙示録 20:1-6
  - f. エルサレム — 世界の首都 ゼカリヤ 14:16, 17
  - g. ユダヤ人、伝道活動をする。 ゼカリヤ 8:14-23
  - h. 千年の間、サタンは鎖につながれる。 黙示録 20:2, 3

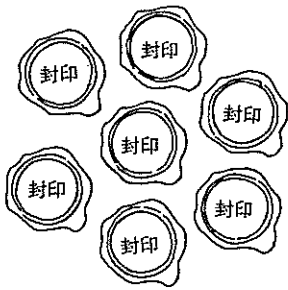
## V. 大きな白い御座の裁き

1. 裁きの要素 黙示録 20:11, 12
  - a. 御座 11節
  - b. 裁く者(イエス) 11節
  - c. 裁かれる者 12, 13節
  - d. 証拠 12節
    - 1) 聖書
    - 2) 人生の記録書
    - 3) 命の書
  - e. 証人 1コリント 6:2
  - f. 裁かれる人 黙示録 20:15

## VI. 時が終わる — そして永遠へ 黙示録 10:5, 6

1. 地が燃える 2ペテロ 3:10
2. 新しい天と新しい地 黙示録 21:1、2ペテロ 3:13
3. 新しいエルサレム 黙示録 21:2-27

# 患難



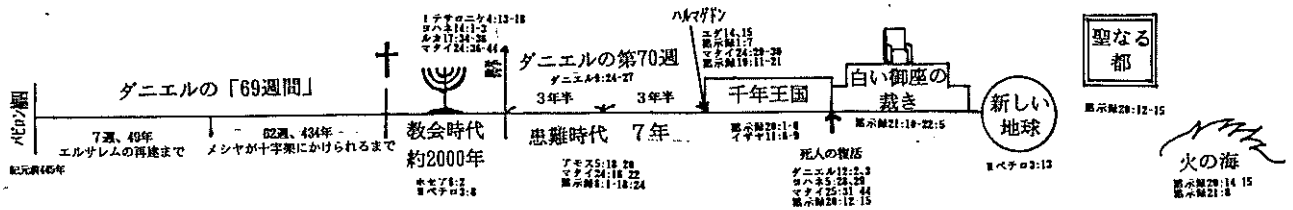
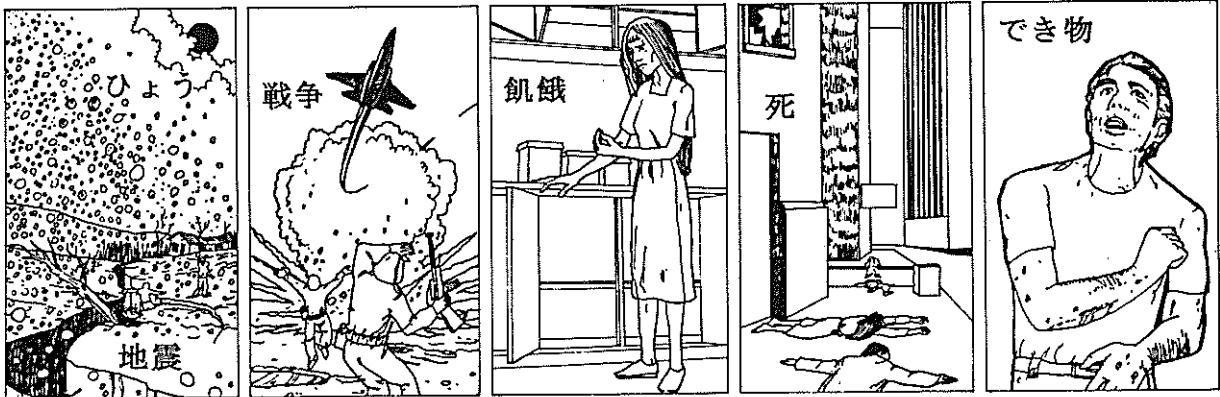
7つの封印 黙示録6,8:1



ラッパを持つ7人の御使 黙示録8,9



鉢を持つ7人の御使 黙示録16



## 1. 患難

聖書には終末に関し畏怖を感じさせるような形で描かれています。パウロは言いました。「生ける神のみ手のうち  
に落ちるのは、恐ろしいことである」(ヘブル10:31) この課では神の裁きについて学びます。

### 1. ダニエルの第70週

ダニエルの預言の第70週目を理解するためにも、まず70週間についての預言内容を理解しておくことが大切です。  
ダニエルは、ダニエル9章24節において、「あなたの民と、あなたの聖なる町については、七〇週が定められてい  
ます～」と告げられました。70週間のうち69週間はエルサレムを建て直せという命令から「メシヤなるひとりの君(イ  
エス・キリスト)」が十字架にかかるまでの時期を示していました。7週間(創世記9:27,28 に従い、1日を1年と  
考えると、49年)は、エルサレムの城壁再建にかかった期間です。城壁の再建からメシヤが十字架にかかるまでに62  
週(484年)ありました。ユダヤ暦では1年 360日ですので、それに基づきますと、前 445年と前32年の間はまさに69  
週(483年)ありました。そして、第70週目がまだ残っています。この週に反キリスト(26節にある、きたるべき君)  
の支配は、ユダヤ人との契約を破り、地上を大いに荒らしていきます。69週と70週の間には少しインターバルがあり  
ます。そのインターバルが教会時代です。教会時代は携挙(キリストの再臨のとき、空中に引き上げられること)ま  
で続きます。その後、第70週目、すなわち患難時代が始まります。

### 2. 患難の裁き

7年の患難の間、神は地上に徹底した厳しい裁きを下します。それぞれの裁きは、封印とラッパと鉢とによっても



たらされます。(黙示録 6、8、9、15、16章)

患難時代において、世の人々はかつてない程の苦しみと死の時期を経験することになります。

#### a. 封印 (黙示録 6、8:1)

封印の裁きは平和の約束をもたらします。

- (1)反キリストが世の人の心を自分に向けさせる。
- (2)激しい戦争により死や飢饉がもたらされる。
- (3)世界総人口の  $\frac{1}{4}$  が死ぬ。
- (4)神を信じるユダヤ人が大迫害を受ける。
- (5)地震により大災害が地を襲う。
- (6)月が血のようになり、人々は恐ろしさのあまり山に身を隠す。(黙示録 6)

#### b. ラッパ (黙示録 8、9)

- (1)このラッパの裁きで、雹と火が降り、火は地の  $\frac{1}{3}$  を焼く。
- (2)隕石のようなものが舟の  $\frac{1}{3}$  を壊す。
- (3)海の魚が死ぬ。
- (4)海の  $\frac{1}{3}$  が血になる。
- (5)毒物が給水の  $\frac{1}{3}$  を汚染し、多くの人々が死ぬ。
- (6)大きな暗やみが地をおおう。
- (7)5カ月の間さそりのようないなが地の人々を刺す。
- (8)2億の兵のいる軍隊が人口の  $\frac{1}{3}$  を殺す。(黙示録 8、9)

#### c. 鉢 (黙示録 16)

鉢は患難期における神の最後の決定的な裁きです。

- (1)ひどい悪性のでき物が獣の刻印を持つ人々を苦しめる。
- (2)海の全ての生き物が死ぬ。
- (3)水が全て血になる。
- (4)太陽が通常よりも熱くなり、人々を焼く。
- (5)地は暗やみになり、人々は非常な苦しみを味わう。
- (6)東からの軍隊がハルマゲドンに来ることができるようにと、ユウフラテ川の水がかれる。
- (7)約45kgの雹が町全体を破壊する。(黙示録 16)

#### d. 悲惨な死

第4の封印で世界総人口の  $\frac{1}{4}$  が死ぬでしょう。現在の総人口は55億人以上ですから、10億人以上の人が短期間に死ぬことになります。第6のラッパで更に、残る人口の  $\frac{1}{3}$  がこの患難の間に死にます。日本の人口は約1億2千万人ですから、その約20倍の人々が死ぬことになります。死は悲しみと心の痛みをもたらします。世界中の人々がこうした心の痛みを何度も何度も感じることでしょう。

メモ : \_\_\_\_\_

# 反キリストの支配



## Ⅱ. 反キリストの支配

この患難時代に一人の力強い政治指導者が世界の指導権を握るために台頭してきます。彼は世界宗教の指導者である偽預言者の助けを多く借ります。世界の政治機構は1人の支配者の下で政治的、宗教的、経済的に支配されます。

### Ⅰ. 反キリスト

テサロニケ第二の手紙2章3節に「不法の者、すなわち、滅びの子が現れる」とあります。

- ・彼は神に反抗する。(4節)
- ・神よりも自らを高める。(4節)
- ・自分を神だと宣言して神の宮に座る。(4節)
- ・彼はハルマゲドンの戦いで主イエスによって滅ぼされる。(8節)
- ・サタンが彼にしるしと、偽りの不思議を行う力を授ける。(9節)
- ・彼は真理を愛さない人々を惑わす。(10節)
- ・真理を愛さない人々を、神は反キリストに惑わさせ、偽りを信じて滅びるようにさせる。(11、12節)
- ・黙示録13章で反キリストは海から上がって来る「獣」として描かれている。
- ・龍(又はサタン、黙示録12:9)は彼に自分の力と権力を与える。(黙示録13:2)
- ・世界統一政府は、休止状態から回復した旧ローマ帝国のよみがえりである。(3節)
- ・人々は獣を拝む。(4節)
- ・彼は7年の患難時代の後半3年半、絶大な権力を持つ。(5節)
- ・彼は神と神の御名と天に住む者たちに対し汚しごとを語る。(6節)
- ・彼は神を信じるユダヤ人に対して戦いを挑む。(7節)

- ・彼は物の売買のために全ての者の右手あるいは額に刻印を押させる。(16、17節)
- ・彼の数字とは666である。(18節)

## 2. 偽の預言者 (宗教的支配)

黙示録13章ではまた、反キリストと密接に働く、患難時代の宗教指導者のことが描かれています。彼は反キリストが世界の支配権を得ることができるよう助けます。この偽預言者については、3回聖書に記述があります。(黙示録16:13、19:20、20:10)

- ・偽預言者は大いなるしるしを行う。(黙示録13:12)
- ・彼は人々に反キリストとその世界機構を拜ませる。(12節)
- ・彼はサタンの力によって奇跡を行う。(14節)
- ・彼は恐ろしい者である。(14節)
- ・彼は反キリストの像を造らせる。(14節)
- ・その像に命を与え、物を言うようにさせる。(15節)
- ・獣の像を拜まない者を皆殺させる。(15節)

## 3. 反キリストの政治支配機構体制

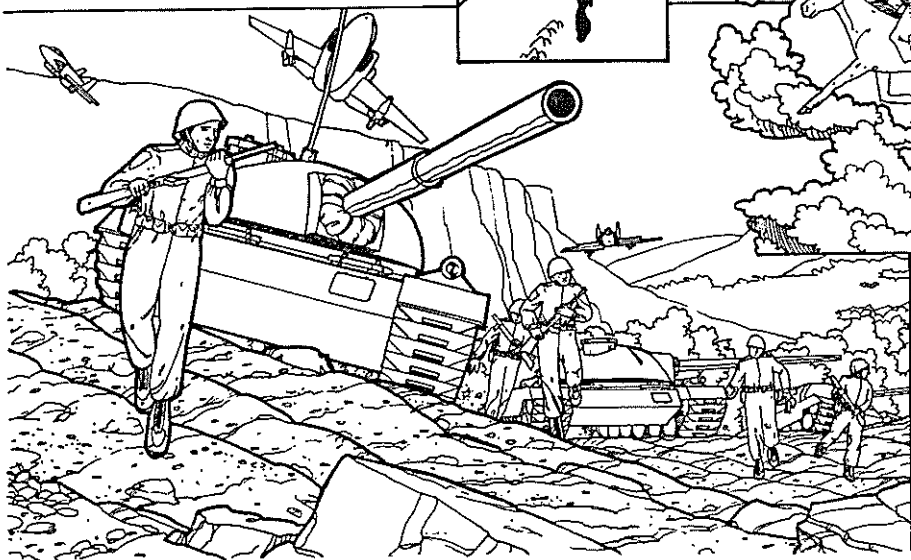
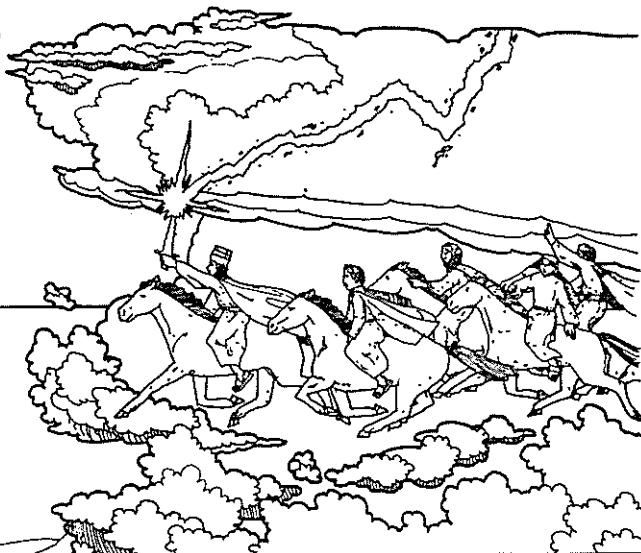
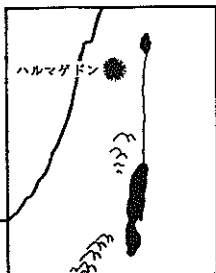
ネブカデネザルの夢に出てきた像の10本の指と、黙示録13章1節、17章12節、ダニエル7章7節、24節に出てくる獣の10本の角とは、終末に世界的権力を掌中にする、10カ国で構成される共同体のことです。これらの国々は反キリストがその権力を得るのを助け、数年間その力を支えます。反キリストは自分が権力を得るまで彼らを利用します。その後、共同体の権力は弱まっています。強大な欧州経済共同体(E. C.)が上記にある反キリストを援助をするものではないかと考えられます。この共同体は恐らくヨーロッパにおいて最も強力な経済ブロックに発展していくことでしょう。この経済ブロックは、世界的指導者が台頭してくるプロセスにおいて非常に影響力を持ちます。このブロックは世界宗教によって強く支配されます。黙示録17章に聖徒と殉教者の血に酔いしれている大淫婦のことが書かれています。この淫婦は獣が彼女を殺すまで、その獣の上に乗っています。この淫婦の死が、その力と富とを獣に与えていた偽りの世界教会の最後の姿です。

メモ: \_\_\_\_\_

# ハルマゲドンの戦い

これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。  
 三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。  
 黙示録16:14、16

144,000人が印をおされる  
 黙示録7



またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。  
 黙示録19:11

## Ⅲ. ハルマゲドンの戦い

エズレルの谷とエストラエロン平原は、ヨルダン川の西側にあり、地中海の東側に位置しています。ハルマゲドンの戦いはこの地域で行われます。ハルマゲドンという名は、軍事戦略都市メギドのことです。メギドは再建され、要塞化されたソロモンの騎兵の町です。

「ハルマゲドンの戦場は世界が今までに目にしたことがない程におびただしい血の海と化すであろう」と言われています。

### 1. 14万4千人に印が押される

反キリストが（偽預言者と共に）3年半の間、全世界に対して圧制を行います。彼は世界中の政治、宗教、経済の支配権を完全に掌中にします。14万4千人のユダヤ人が主自身によって奇跡的に守られます。主は反キリストの破壊的な力から隠されたこの人々を救います。荒野にいた時代のように、神は再びご自分の民を滅びから守ります。このユダヤ人たちはハルマゲドンの戦いで反キリストと戦います。

### 2. ハルマゲドンの戦いへの準備

神に守られたユダヤ人たちの正義は、この世の指導者である反キリストにとっては憎むべき存在でした。彼は全ての人々を自分に従わせませんが、このユダヤ人たちを従わせることはできません。そこで反キリストは彼らを滅ぼすことを決めます。そのために彼は全ての人々と軍隊を召集させます。「なお見ていると、獣と地の王たちと彼らの軍勢とが集まり、馬に乗っているかたとその軍勢とにたいして、戦いをいどんだ」（黙示録19:19）「～龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような3つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった～ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した」（黙示録16:13、14、16）

### 3. ハルマゲドンの戦いで患難の時代が終わる

この戦いで患難の時代が終わります。これは、神と神の民に対する反キリストの最後の戦いです。この時には神の怒りの杯は満たされています。反キリストの無法で残忍な支配と彼の政治体制を滅ぼすために、神自ら来られます。この戦いの後に、イエスは地上で千年支配します。(千年王国)

### 4. 白馬に乗る者(黙示録19:11,14,16)

「またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、『忠実で真実な者』と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである～そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った～その着物にも、そのももにも、『王の王、主の主』という名がしるされていた」これは、獣の支配を終りにさせ、その世界体制を滅ぼすために、ご自分の教会(黙示録19:8)を伴って来るイエスのことです。

### 5. 獣と偽預言者に対する裁き

「しかし、獣は捕らえられ、また、にせ預言者も、獣と共に捕らえられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた」(黙示録19:20)

メモ: \_\_\_\_\_

# キリストの再臨と千年王国



反キリストの軍隊が滅ぼされる



主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる。  
ゼカリヤ14:9

その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山は、非常に広い一つの谷によって、東から西に二つに裂け、・・・  
ゼカリヤ14:4

イエスは地上で1000年支配する  
黙示録20:6

サタンは1000年の間つなぎおかれた  
黙示録20:2,3

## IV. キリストの再臨と千年王国

### 1. オリブ山の変化

自分の軍隊と共にハルマゲドンに来て、反キリスト体制を滅ぼすとき、イエスはオリブ山に立ちます。「その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山は、非常に広い1つの谷によって、東から西に2つに裂け〜」（ゼカリヤ14:4）イエスがご自分の王国をうちたてるために栄光のうちに来た後は、エルサレムの周辺は以前とは異なったものになっていることでしょうか。山が裂けたのは主の救いの記念碑としてです。

### 2. 王国時代の特徴

#### a. イエス・キリストが地上の王となる

「主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる」（ゼカリヤ14:9）

#### b. イエス、地上を千年治める

千年、イエスは地上を治めます。「この第一の復活にあずかる者はさいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちにたいしては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する」（黙示録20:6）

c. 全ての国民に対する裁き

何世紀にもわたって（特に患難時代に）ユダヤ人を祝福するか迫害するかしてきた世界中の国民がそのときに裁かれます。（マタイ25:31-46）

d. ユダヤ人の支配

ユダヤ人は千年王国において支配階級になります。（ゼカリヤ9:11-17、12:10-14、13:1）

e. 教会、キリストと共に王国を治める（ルカ19:19、黙示録20:1-6）

f. 世界の首都はエルサレムであり、人々は毎年主を拝しに来る（ゼカリヤ14:16,17）

g. ユダヤ人、伝道活動を行う（ゼカリヤ8:14-23）

h. 千年の間、サタンは鎖につながれる（黙示録20:2-3）

メモ：\_\_\_\_\_

# 大きな白い御座の裁き

また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。  
黙示録20:12

このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。  
黙示録20:15



## V. 白い御座の裁き

イエス・キリストが地上で千年支配をした後、白い御座の裁きが行われます。人の創造以来全ての死者が裁かれます。裁かれないのは、主に会うために携挙された、あがなわれた教会のみです。

「また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた〜」（黙示録20:11-12）

### 1. 裁きの要素

#### a. 御座

ヨハネは大きな白い御座を見ました。

#### b. 裁く者

イエス・キリストが御座に座っています。

#### c. 裁かれる者

あらゆる所から死人が生き返ります。「海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた」（13節）



*d. 証拠*

「~かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物\* に書かれていることにしたがって、さばかれた」(12節)

- (1)聖書 - 人への神の計画(ヨハネ12:48)
- (2)人生の記録書(黙示録20:13)
- (3)命の書 - 全ての時代に渡る義人の名が記されている書

(\*注: ここは原語のギリシア語では複数形になっています。これら数多くの書物は命の書に名が記されるかどうかの証拠になっています。)

*e. 証人*

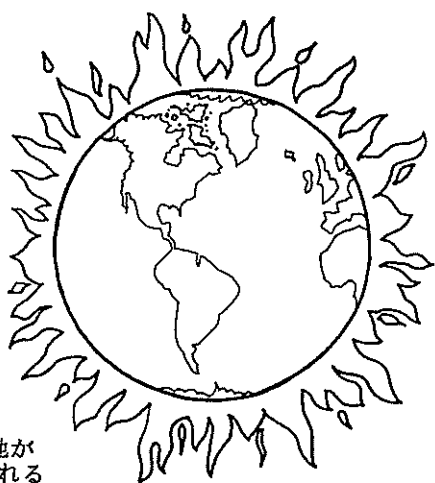
世を裁くイエスと共にそこにいる教会の聖徒たち。(1コリント6:2)

*f. 裁かれる者*

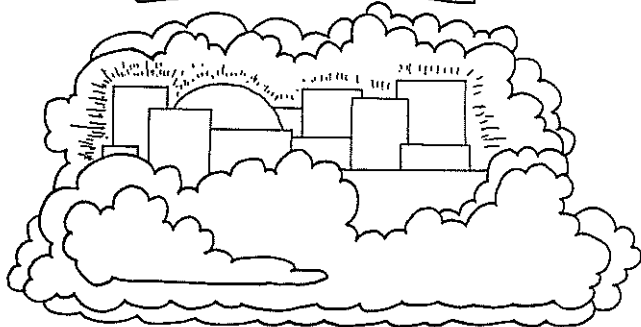
命の書に名前が記されていない者は火の池に投げ込まれます。(15節)

メモ: \_\_\_\_\_

# 時が終わる — そして永遠へ



わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしがおる所にあなたがたもおらせるためである。  
ヨハネ14:2,3

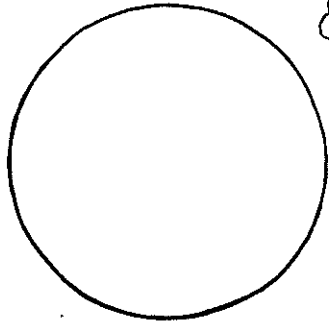


新しいエルサレム

黙示録21

これらのことをあかしするかが仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る」。アマメン、主イエスよ、きたりませ。  
黙示録22:20、21

天と地が滅ぼされる  
2ペテロ3:10



新しい天と地  
2ペテロ3:13  
黙示録21:1

## VII. 時が終わる — そして永遠へ

白い御座の裁きの後は、あまり詳しく述べられていませんが、聖書はいくつかの興味深い点について教えています。

### 1. 燃えている地

ペテロ第二の手紙3章10節はこのように言っています。「しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けて崩れ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう」地球全体とそれを取り巻く宇宙が燃えます。人が地上に造ったものは全て焼かれ、崩れ落ちます。人類が宇宙やその遥か彼方に送り出したものもすべて焼き尽くされます。地と天とは完全に清められます。

### 2. 新しい天と地

「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった」（黙示録21:1）これが白い御座の裁きの後でヨハネが見たものです。ペテロは言いました。「しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる」（2ペテロ3:13）多くの学者たちは、地と天が新しく造られるのではなく、今ある天と地が新しくされるのだらうと信じています。その根拠としては、6節でペテロがノアの時の世界は「水でおおわれて滅んでしまった」と言っていますが、現在も同じ天と地が存在しているからです。洪水以後の地球は以前とは全く異なりましたが消滅はしませんでした。

### 3. 新しいエルサレム

ヨハネは神から下ってくる美しい都を見ました。「また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た」(黙示録 21:2)。その時には新しい天と新しい地、そして新しい都があるでしょう。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。・・・あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。・・・わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:2-3)。ヨハネの黙示録 21章は神の民のとしえの住まいの輝きについて、素晴らしい表現をしています。都の長さ、幅、高さはいずれも1万2千丁(約 2500km)で、透き通ったガラスのような純金で造られており(18節)、都の壁は碧玉で、その門は真珠で造られています(21節)。都は発電所や太陽や月の光を必要としません。イエス自らが都の光だからです(23節)。

都には時がありません。それは永遠に続きます。一時的なものは永遠になくなり、それまで生きてきた義人たちの希望がそこに成就します。わたしたちは、わたしたちの主、イエス・キリストと共に永遠に生きるのです。

